

(様式4)

一般社団法人 薬学教育評価機構

(調 書)

基礎資料（薬学教育評価用）

(2021年5月1日現在)

同志社女子大学 薬学部

「基礎資料」（様式4）作成上の注意事項

- 1 データの基準日は、記述の対象となる年度が指示されていない場合、大学が自己点検・評価を実施した年度（評価対象年度）の5月1日現在の数値を記載してください。
ただし、基礎資料4の2022年度入試結果は、「草案」の提出時には空欄のままでもかまいません。
また、基礎資料3-2は、4月1日現在のデータを記載してください。）
- 2 記述に際しては、各シートの[注]・脚注を確認して、作成してください。
なお、三つの方針については、煩雑さを避けるため「～ポリシー」と表記します。
- 3 各シートの表中の斜体文字の表記例は、消去して作成してください。また、各シートに付されている[注]、脚注は消去しないでください。
- 4 各表に記入する数値について小数点以下の端数が出る場合、特に指示のない限り、小数点以下第3位を四捨五入して小数点第2位まで表示してください。
- 5 説明を付す必要があると思われるものについては、備考欄に記述するか、欄外に大学独自の注をつけて説明を記してください。
- 6 提出形態について（印刷体とPDFファイルを格納したCD-Rの作成上の注意）
 - ・基本的に、ページ設定で**A4判**に作成してください。
 - ・表紙および目次を作成し、全体に通しページ番号（**基礎資料1から開始**）を付してください。
 - ・**両面印刷**して、加除が可能な体裁でファイル綴じにし、表紙と背表紙部分に「〇〇大学薬学部基礎資料」と明記し、「自己点検・評価書」とは別冊にして提出します。
 - ・カラー表記のあるページは、カラーで印刷してください。
 - ・PDFファイルに変換したデータを、「自己点検・評価書」と同じCD-Rに保存し、提出してください。

薬学教育評価 基礎資料

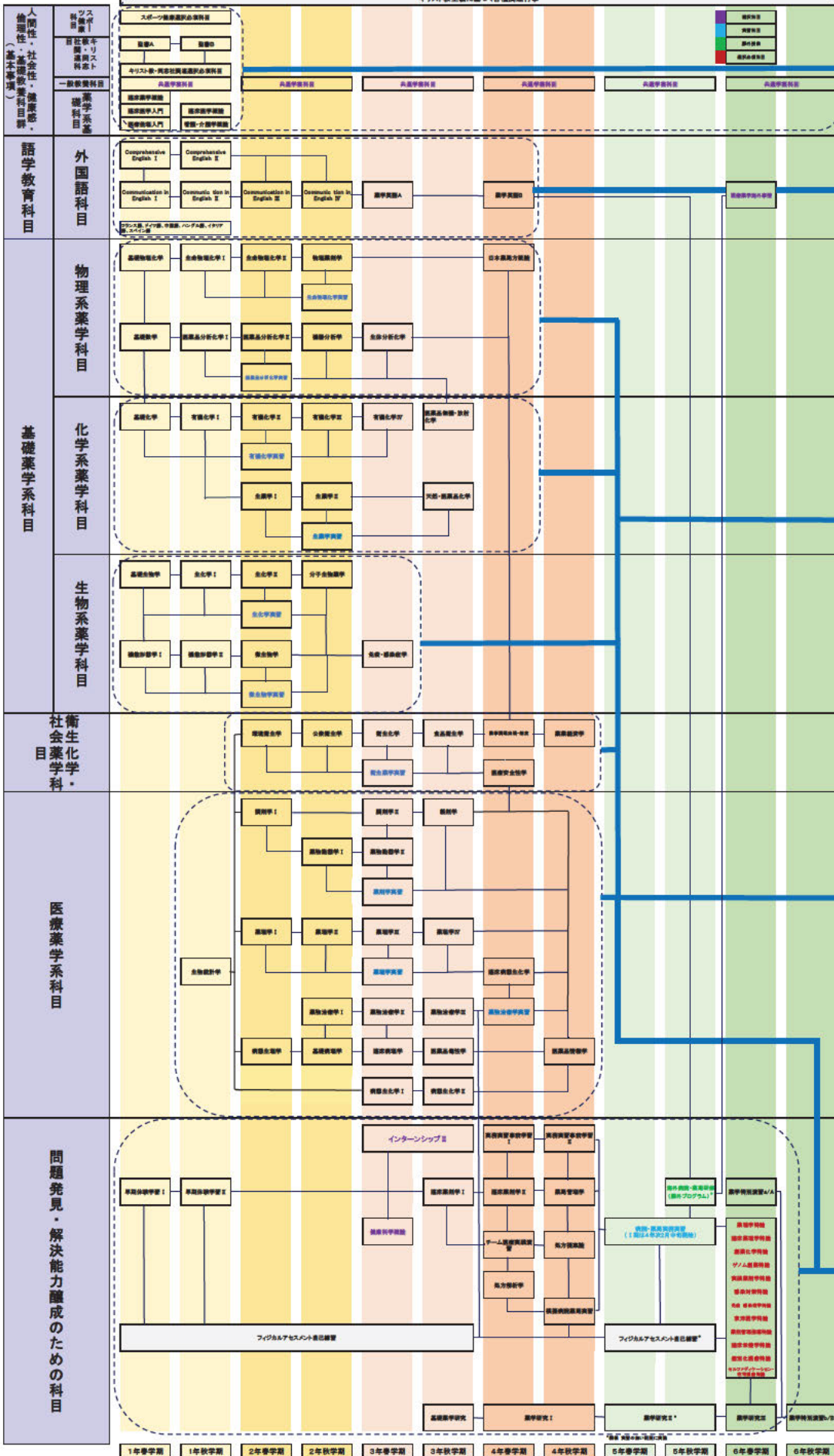
(目次)

	資料概要	項目	ページ
基礎資料 1	カリキュラム・ツリー	3	1
基礎資料 2	平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラムのSBOsを実施する科目	3	2
基礎資料 3	学生の修学状況 3-1 評価実施年度における学年別在籍状況 3-2 評価実施年度の直近5年間における6年制学科の学年別学籍異動状況 3-3 評価実施年度の直近5年間における学士課程修了(卒業)状況の実態 3-4 直近6年間の定員充足状況と編入学生の動向	3	74
基礎資料 4	学生受入れ状況 (入学試験種類別)	4	78
基礎資料 5	教員・職員の数	5	79
基礎資料 6	専任教員の年齢構成・男女構成	5	80
基礎資料 7	教員の教育担当状況 (担当する授業科目と担当時間)	5	81
基礎資料 8	卒業研究の学生配属状況と研究室の広さ	7	91
基礎資料 9	専任教員の教育および研究活動の業績	5	92
基礎資料10	学生の健康管理	6	173
基礎資料11	薬学科の教育に使用する施設の状況 11-1 薬学科の教育に使用する施設の状況 11-2 卒業研究などに使用する施設	7	174
基礎資料12	学生閲覧室等の規模	7	176
基礎資料13	図書、資料の所蔵数および受け入れ状況	7	177

同志社女子大学薬学部医療薬学科 カリキュラムツリー

1年春学期 1年秋学期 2年春学期 2年秋学期 3年春学期 3年秋学期 4年春学期 4年秋学期 5年春学期 5年秋学期 6年春学期 6年秋学期

キリスト教主義に基づく各種関連行事



同志社女子大学薬学部薬学に関するディプロマポリシー

同志社女子大学は、国家の発展に資するため、キリスト教主義教育、国際主義教育及びグローバル化教育の3つの教育理念を掲げ、心豊かな人間性を涵養し、社会のニーズに応じて専門的知識を身に付け、社会に貢献する人材を育てる。本学は、更に掲げる人徳で、かつ各専攻分野、専攻科、研究科のディプロマポリシー（修業年限の達成）に基づき、卒業生が社会の発展に資するよう、必要となる知識・技能を身に付け、社会に貢献する人材を育てる。

DWCLA10

分析力
思考力
創造力
プレゼンテーション力
コミュニケーション力
リーダーシップ力
思いやる力
変化対応力
自己管理能力

薬学部

DWCLA10: 分析力・思考力・創造力

知識・理解

(基礎的自然科学力)

- ① 身体及び環境に対する医薬品化学物療等の影響を理解するために必要となる物理化学・有機化学・生化学分野の基本的知識を身に付けている。
- ② 人体の構造と機能、疾病の成り立ちを理解し、薬の作用機序に基づいた知識を基盤とした薬物療法の知識を身に付けている。
- ③ 社会生活・環境と健康の関わりを理解するために必要となる薬学、公衆衛生学、食品衛生学、環境衛生学の知識を身に付けている。
- ④ 社会に貢献する医薬品製剤を調製し、人が健康に生活する人体中のでの働きを予測する知識を身に付けている。
- ⑤ 薬学に関連した薬物治療を実施するために必要な、薬理学、病態生理学、薬物治療学の知識を身に付けている。
- ⑥ 基本的な統計情報の解析法を理解している。

(薬剤師としての心構え)

- ① 薬剤師及び薬学研究者に対する倫理・社会からの期待を理解し、その分野に求められる倫理観を身に付けている。
- ② 国際的な視野に立ち、海外の薬学を把握している。
- ③ 英語運用力を有するとともに、専門分野以外にも幅広い分野についての知識を身に付けている。

(チーム医療への参画)

チーム医療の一員として薬物療法を実施するとともに、患者の心身健康を維持するために必要な知識を身に付けている。

(研究志向)

医療機関、製薬企業、医療行政などの幅広い薬学専門分野において、基礎的知識を基盤とし、それらの解決のために真摯に取り組む研究者としての視点を持っていく。

DWCLA10: 思いやる力・変化対応力・自己管理能力

関心・意欲・態度

(薬剤師としての心構え)

- ① 疾病の薬物治療や健康の維持・増進に関わる課題に強い関心を持っている。
- ② 薬剤師に求められる専門的知識や技能を積極的に学習しようとする意欲を持っている。
- ③ 医学・薬学の日々の進歩に対応するために、最新の知識や技術を習得しようとする意欲を持っている。

(基礎的自然科学力、研究能力)

- ① 薬学の各学習領域で学んだ知識を有機的に統合して理解しようとする意欲を身に付けている。
- (自己学習、教育能力) 積極的に後進の指導にあたり、自らも成長しようとする意欲を持っている。
- (社会・生活者本位の視点) 社会や生活者本位の視点に基づいて、患者・生活者の心を理解できる感性を身に付けている。

DWCLA10: プレゼンテーション力・コミュニケーション力・リーダーシップ力・自己管理能力

表現・技能・能力

(コミュニケーション能力)

病院・薬局・企業・製薬・行政など薬学関連領域において、薬剤師として必要なコミュニケーション能力を身に付けている。

(コミュニケーション能力、研究能力)

実験・調査・観察などで得られた結果を適切に解析・評価するとともに、わかりやすく報告・発表する力を身に付けている。

(薬物療法における実践的能力)

- ① 処方箋に基づき正しく調剤できるだけでなく、処方内容によっては補綴薬品を行うことができる。
- ② 調剤時や処方ミスやエラー発生時に、患者の安全を最優先とし、迅速な対応（ファームシューア・アルファ）を実践できる。
- ③ チーム医療の一員として、薬物療法における実践的能力。
- ④ 1つの重要な課題について地方や海外の状況を踏まえ、実践能力を身に付けている。
- (研究能力、自己学習) ① 薬学に関する最新の情報から課題や問題を発見するとともに、問題解決に向けて実行継続することができる。
- ② 薬学に必要な英語運用力を有している。
- (薬物療法における実践的能力、倫理の観念) ① 統計情報を解析し、その結果を医療の実践に活用する力を身に付けている。

(基礎資料2) 平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラムのSBOsを実施する科目

[注] 1 平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラムのSBOsに該当する内容の必修科目名を(シラバスの名称、選択科目の場合(選))をつける)実施学年の欄に記入してください。
2 同じ科目名が連続する場合はセルを結合して記入することもできます。

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム(SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
A 基本事項						
(1) 薬剤師の使命						
【①医療人として】						
1) 常に患者・生活者の視点に立ち、医療の担い手としてふさわしい態度で行動する。(態度)	医療倫理入門			薬事関連法規・制度		
	臨床薬学概論			薬局管理学		
	早期体験学習Ⅰ・Ⅱ					
2) 患者・生活者の健康の回復と維持に積極的に貢献することへの責任感を持つ。(態度)	医療倫理入門			薬事関連法規・制度		
	臨床薬学概論			薬局管理学		
	早期体験学習Ⅰ・Ⅱ					
3) チーム医療や地域保健・医療・福祉を担う一員としての責任を自覚し行動する。(態度)	医療倫理入門			薬事関連法規・制度		
	臨床薬学概論			薬局管理学		
	早期体験学習Ⅰ・Ⅱ					
4) 患者・患者家族・生活者が求める医療人について、自らの考えを述べる。(知識・態度)	医療倫理入門			薬局管理学		
	臨床薬学概論					
	早期体験学習Ⅰ・Ⅱ					
5) 生と死を通して、生きる意味や役割について、自らの考えを述べる。(知識・態度)	医療倫理入門			薬局管理学		
	臨床薬学概論					
	早期体験学習Ⅰ・Ⅱ					
6) 一人の人間として、自分が生きている意味や役割を問い直し、自らの考えを述べる。(知識・態度)	医療倫理入門			薬局管理学		
	臨床薬学概論					
	早期体験学習Ⅰ・Ⅱ					
7) 様々な死生観・価値観・信条等を受容することの重要性について、自らの言葉で説明する。(知識・態度)	医療倫理入門			薬局管理学		
	臨床薬学概論					
	早期体験学習Ⅰ・Ⅱ					
【②薬剤師が果たすべき役割】						
1) 患者・生活者のために薬剤師が果たすべき役割を自覚する。(態度)	医療倫理入門			薬事関連法規・制度		
	臨床薬学概論					
	早期体験学習Ⅰ・Ⅱ					
2) 薬剤師の活動分野(医療機関、薬局、製薬企業、衛生行政等)と社会における役割について説明できる。	臨床薬学概論			薬業経済学		薬学特別演習a/A
	早期体験学習Ⅰ・Ⅱ			薬事関連法規・制度		薬学特別演習b/B
3) 医薬品の適正使用における薬剤師の役割とファーマシューティカルケアについて説明できる。	臨床薬学概論		調剤学Ⅱ	薬業経済学		薬学特別演習a/A
	早期体験学習Ⅰ・Ⅱ			薬事関連法規・制度		薬学特別演習b/B

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
4) 医薬品の効果が確率的であることを説明できる。	臨床薬学概論	病態生理学		薬業経済学		薬学特別演習a/A
	早期体験学習Ⅰ・Ⅱ			薬事関連法規・制度		薬学特別演習b/B
5) 医薬品の創製（研究開発、生産等）における薬剤師の役割について説明できる。	臨床薬学概論			薬業経済学		薬学特別演習a/A
				薬事関連法規・制度		薬学特別演習b/B
6) 健康管理、疾病予防、セルフメディケーション及び公衆衛生における薬剤師の役割について説明できる。	臨床薬学概論			薬業経済学		薬学特別演習a/A
				実務実習事前学習Ⅱ		薬学特別演習b/B
7) 薬物乱用防止、自殺防止における薬剤師の役割について説明できる。	臨床薬学概論			薬業経済学		薬学特別演習a/A
				薬事関連法規・制度		薬学特別演習b/B
8) 現代社会が抱える課題（少子・超高齢社会等）に対して、薬剤師が果たすべき役割を提案する。（知識・態度）	臨床薬学概論		調剤学Ⅱ	薬業経済学		薬学特別演習a/A
				薬事関連法規・制度		薬学特別演習b/B
【③患者安全と薬害の防止】						
1) 医薬品のリスクを認識し、患者を守る責任と義務を自覚する。（態度）	医療倫理入門		調剤学Ⅱ	薬事関連法規・制度		
				薬局管理学		
2) WHOによる患者安全の考え方について概説できる。	医療倫理入門			薬局管理学		薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
3) 医療に関するリスクマネジメントにおける薬剤師の責任と義務を説明できる。	医療倫理入門		調剤学Ⅱ	薬事関連法規・制度		薬学特別演習a/A
				薬局管理学		薬学特別演習b/B
4) 医薬品が関わる代表的な医療過誤やインシデントの事例を列举し、その原因と防止策を説明できる。			調剤学Ⅱ	薬局管理学		薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
5) 重篤な副作用の例について、患者や家族の苦痛を理解し、これらを回避するための手段を討議する。（知識・態度）			調剤学Ⅱ	医療安全性学		薬学特別演習a/A
				薬局管理学		薬学特別演習b/B
6) 代表的な薬害の例（サリドマイド、スモン、非加熱血液製剤、ソリブジン等）について、その原因と社会的背景及びその後の対応を説明できる。	臨床薬学概論		調剤学Ⅱ	薬事関連法規・制度		薬学特別演習a/A
	早期体験学習Ⅰ・Ⅱ			医療安全性学		薬学特別演習b/B
7) 代表的な薬害について、患者や家族の苦痛を理解し、これらを回避するための手段を討議する。（知識・態度）			調剤学Ⅱ	薬事関連法規・制度		
				医療安全性学		
【④薬学の歴史と未来】						
1) 薬学の歴史的な流れと医療において薬学が果たしてきた役割について説明できる。	医療倫理入門			薬事関連法規・制度		薬学特別演習a/A
	臨床薬学概論					薬学特別演習b/B
2) 薬物療法の歴史と、人類に与えてきた影響について説明できる。	医療倫理入門			薬局管理学		薬学特別演習a/A
	臨床薬学概論					薬学特別演習b/B
3) 薬剤師の誕生から現在までの役割の変遷の歴史（医薬分業を含む）について説明できる。	臨床薬学概論			薬業経済学		薬学特別演習a/A
				薬局管理学		薬学特別演習b/B
4) 将来の薬剤師と薬学が果たす役割について討議する。（知識・態度）	臨床薬学概論			薬業経済学		薬学特別演習a/A
				薬事関連法規・制度		薬学特別演習b/B
				薬局管理学		

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
（2）薬剤師に求められる倫理観						
【①生命倫理】						
1) 生命の尊厳について、自らの言葉で説明できる。（知識・態度）	医療倫理入門			薬局管理学		
	臨床医学概論					
	臨床薬学概論					
2) 生命倫理の諸原則（自律尊重、無危害、善行、正義等）について説明できる。	医療倫理入門			薬局管理学		薬学特別演習a/A
	臨床医学概論					薬学特別演習b/B
	臨床薬学概論					
3) 生と死に関わる倫理的問題について討議し、自らの考えを述べる。（知識・態度）	医療倫理入門			薬局管理学		
	臨床医学概論					
	臨床薬学概論					
4) 科学技術の進歩、社会情勢の変化に伴う生命観の変遷について概説できる。	医療倫理入門			薬局管理学		薬学特別演習a/A
	臨床医学概論					薬学特別演習b/B
	臨床薬学概論					
【②医療倫理】						
1) 医療倫理に関する規範（ジュネーブ宣言等）について概説できる。	医療倫理入門			薬局管理学		薬学特別演習a/A
	臨床医学概論					薬学特別演習b/B
	臨床薬学概論					
2) 薬剤師が遵守すべき倫理規範（薬剤師綱領、薬剤師倫理規定等）について説明できる。	医療倫理入門			薬事関連法規・制度		薬学特別演習a/A
	臨床医学概論			薬局管理学		薬学特別演習b/B
	臨床薬学概論					
3) 医療の進歩に伴う倫理的問題について説明できる。	医療倫理入門			薬局管理学		薬学特別演習a/A
	臨床医学概論					薬学特別演習b/B
	臨床薬学概論					
【③患者の権利】						
1) 患者の価値観、人間性に配慮することの重要性を認識する。（態度）	医療倫理入門			薬局管理学		
	臨床医学概論					
	臨床薬学概論					
2) 患者の基本的権利の内容（リスボン宣言等）について説明できる。	医療倫理入門			薬事関連法規・制度		薬学特別演習a/A
	臨床医学概論			薬局管理学		薬学特別演習b/B
	臨床薬学概論					
3) 患者の自己決定権とインフォームドコンセントの意義について説明できる。	医療倫理入門			薬事関連法規・制度		薬学特別演習a/A
	臨床医学概論			薬局管理学		薬学特別演習b/B
	臨床薬学概論					
4) 知り得た情報の守秘義務と患者等への情報提供の重要性を理解し、適切な取扱いができる。 （知識・技能・態度）	医療倫理入門			薬事関連法規・制度		
	臨床医学概論			薬局管理学		
	臨床薬学概論					

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【④研究倫理】						
1) 臨床研究における倫理規範（ヘルシンキ宣言等）について説明できる。	医療倫理入門		調剤学Ⅱ	薬学研究Ⅰ	薬学研究Ⅱ	薬学特別演習a/A
	臨床医学概論		薬学基礎研究	薬局管理学		薬学特別演習b/B
	臨床薬学概論					薬学研究Ⅲ
2) 「ヒトを対象とする研究において遵守すべき倫理指針」について概説できる。	医療倫理入門		調剤学Ⅱ	薬学研究Ⅰ	薬学研究Ⅱ	薬学特別演習a/A
	臨床医学概論		薬学基礎研究			薬学特別演習b/B
						薬学研究Ⅲ
3) 正義性、社会性、誠実性に配慮し、法規範を遵守して研究に取り組む。（態度）	医療倫理入門		薬学基礎研究	薬学研究Ⅰ	薬学研究Ⅱ	薬学研究Ⅲ
	臨床医学概論					
（3）信頼関係の構築						
【①コミュニケーション】						
1) 意思、情報の伝達に必要な要素について説明できる。	臨床薬学概論			模擬病院・薬局実習		薬学特別演習a/A
				薬局管理学		薬学特別演習b/B
2) 言語的及び非言語的コミュニケーションについて説明できる。	臨床薬学概論			模擬病院・薬局実習		薬学特別演習a/A
				薬局管理学		薬学特別演習b/B
3) 相手の立場、文化、習慣等によって、コミュニケーションの在り方が異なることを例を挙げて説明できる。	臨床薬学概論			薬局管理学		薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
4) 対人関係に影響を及ぼす心理的要因について概説できる。	臨床薬学概論			薬局管理学		薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
5) 相手の心理状態と其の変化に配慮し、対応する。（態度）				薬局管理学		
6) 自分の心理状態を意識して、他者と接することができる。（態度）				模擬病院・薬局実習		
				薬局管理学		
7) 適切な聴き方、質問を通じて相手の考えや感情を理解するように努める。（技能・態度）				模擬病院・薬局実習		
				薬局管理学		
8) 適切な手段により自分の考えや感情を相手に伝えることができる。（技能・態度）				薬局管理学		
9) 他者の意見を尊重し、協力してよりよい解決法を見出すことができる。（知識・技能・態度）	臨床薬学概論			薬局管理学		
【②患者・生活者と薬剤師】						
1) 患者や家族、周囲の人々の心身に及ぼす病気やケアの影響について説明できる。	臨床薬学概論			薬局管理学		薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
2) 患者・家族・生活者の心身の状態や多様な価値観に配慮して行動する。（態度）	臨床薬学概論			薬局管理学		
（4）多職種連携協働とチーム医療						
1) 保健、医療、福祉、介護における多職種連携協働及びチーム医療の意義について説明できる。	臨床薬学概論			チーム医療実践演習		薬学特別演習a/A
	看護・介護学概論			薬局管理学		薬学特別演習b/B
2) 多職種連携協働に関わる薬剤師、各職種及び行政の役割について説明できる。	臨床薬学概論			チーム医療実践演習		薬学特別演習a/A
				薬局管理学		薬学特別演習b/B
3) チーム医療に関わる薬剤師、各職種、患者・家族の役割について説明できる。	臨床薬学概論			チーム医療実践演習		薬学特別演習a/A
				薬局管理学		薬学特別演習b/B

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
4) 自己の能力の限界を認識し、状況に応じて他者に協力・支援を求める。（態度）				チーム医療実践演習		
				薬局管理学		
5) チームワークと情報共有の重要性を理解し、チームの一員としての役割を積極的に果たすように努める。（知識・態度）	臨床薬学概論			チーム医療実践演習		
				薬局管理学		
（5）自己研鑽と次世代を担う人材の育成						
【①学習の在り方】						
1) 医療・福祉・医薬品に関わる問題、社会的動向、科学の進歩に常に目を向け、自ら課題を見出し、解決に向けて努力する。（態度）	臨床薬学概論					
	臨床医学概論					
2) 講義、国内外の教科書・論文、検索情報等の内容について、重要事項や問題点を抽出できる。（技能）	臨床薬学概論					
	臨床医学概論					
3) 必要な情報を的確に収集し、信憑性について判断できる。（知識・技能）	臨床薬学概論					
	臨床医学概論					
4) 得られた情報を論理的に統合・整理し、自らの考えとともに分かりやすく表現できる。（技能）	臨床薬学概論					
	臨床医学概論					
5) インターネット上の情報が持つ意味・特徴を知り、情報倫理、情報セキュリティに配慮して活用できる。（知識・態度）	臨床医学概論					
【②薬学教育の概要】						
1) 「薬剤師として求められる基本的な資質」について、具体例を挙げて説明できる。	臨床薬学概論					薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
2) 薬学が総合科学であることを認識し、薬剤師の役割と学習内容を関連づける。（知識・態度）	臨床薬学概論					
【③生涯学習】						
1) 生涯にわたって自ら学習する重要性を認識し、その意義について説明できる。	臨床薬学概論					
2) 生涯にわたって継続的に学習するために必要な情報を収集できる。（技能）						
【④次世代を担う人材の育成】						
1) 薬剤師の使命に後輩等の育成が含まれることを認識し、ロールモデルとなるように努める。（態度）			薬学基礎研究	薬学研究Ⅰ	薬学研究Ⅱ	薬学研究Ⅲ
2) 後輩等への適切な指導を実践する。（技能・態度）			薬学基礎研究	薬学研究Ⅰ	薬学研究Ⅱ	薬学研究Ⅲ
B 薬学と社会						
（1）人と社会に関わる薬剤師						
1) 人の行動がどのような要因によって決定されるのかについて説明できる。	臨床薬学概論			薬局管理学		
2) 人・社会が医薬品に対して抱く考え方や思いの多様性について討議する。（態度）				薬業経済学		
				薬局管理学		
3) 人・社会の視点から薬剤師を取り巻く様々な仕組みと規制について討議する。（態度）				薬業経済学		
				薬局管理学		
4) 薬剤師が倫理規範や法令を守ることの重要性について討議する。（態度）	医療倫理入門			薬局管理学		
5) 倫理規範や法令に則した行動を取る。（態度）	医療倫理入門			薬局管理学		

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
（2）薬剤師と医薬品等に係る法規範						
【①薬剤師の社会的位置づけと責任に係る法規範】						
1) 薬剤師に関わる法令とその構成について説明できる。	臨床薬学概論	調剤学Ⅰ	調剤学Ⅱ	薬事関連法規・制度		薬学特別演習a/A
				薬局管理学		薬学特別演習b/B
2) 薬剤師免許に関する薬剤師法の規定について説明できる。		調剤学Ⅰ	調剤学Ⅱ	薬事関連法規・制度		薬学特別演習a/A
				薬局管理学		薬学特別演習b/B
3) 薬剤師の任務や業務に関する薬剤師法の規定とその意義について説明できる。		調剤学Ⅰ	調剤学Ⅱ	薬事関連法規・制度		薬学特別演習a/A
				薬局管理学		薬学特別演習b/B
4) 薬剤師以外の医療職種の仕事に関する法令の規定について概説できる。		調剤学Ⅰ	調剤学Ⅱ	薬事関連法規・制度		薬学特別演習a/A
				薬局管理学		薬学特別演習b/B
5) 医療の理念と医療の担い手の責務に関する医療法の規定とその意義について説明できる。		調剤学Ⅰ		薬業経済学		薬学特別演習a/A
				薬事関連法規・制度		薬学特別演習b/B
				薬局管理学		
6) 医療提供体制に関する医療法の規定とその意義について説明できる。		調剤学Ⅰ		薬業経済学		薬学特別演習a/A
				薬事関連法規・制度		薬学特別演習b/B
				薬局管理学		
7) 個人情報の取扱いについて概説できる。	医療倫理入門			薬事関連法規・制度		薬学特別演習a/A
				薬局管理学		薬学特別演習b/B
8) 薬剤師の刑事責任、民事責任（製造物責任を含む）について概説できる。	医療倫理入門	調剤学Ⅰ		薬事関連法規・制度		薬学特別演習a/A
				薬局管理学		薬学特別演習b/B
【②医薬品等の品質、有効性及び安全性の確保に係る法規範】						
1) 「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」の目的及び医薬品等（医薬品（薬局医薬品、要指導医薬品、一般用医薬品）、医薬部外品、化粧品、医療機器、再生医療等製品）の定義について説明できる。				薬業経済学		薬学特別演習a/A
				薬事関連法規・制度		薬学特別演習b/B
				薬局管理学		
2) 医薬品の開発から承認までのプロセスと法規範について概説できる。			製剤学	薬業経済学		薬学特別演習a/A
			調剤学Ⅱ	薬事関連法規・制度		薬学特別演習b/B
				薬局管理学		
3) 治験の意義と仕組みについて概説できる。			製剤学	薬業経済学		薬学特別演習a/A
			調剤学Ⅱ	薬事関連法規・制度		薬学特別演習b/B
				薬局管理学		
4) 医薬品等の製造販売及び製造に係る法規範について説明できる。			製剤学	薬業経済学		薬学特別演習a/A
				薬事関連法規・制度		薬学特別演習b/B
				薬局管理学		
5) 製造販売後調査制度及び製造販売後安全対策について説明できる。			製剤学	薬業経済学		薬学特別演習a/A
				薬局管理学		薬学特別演習b/B
6) 薬局、医薬品販売業及び医療機器販売業に係る法規範について説明できる。			製剤学	薬業経済学		薬学特別演習a/A
				薬事関連法規・制度		薬学特別演習b/B
				薬局管理学		

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
7) 医薬品等の取扱いに関する「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」の規定について説明できる。			製剤学	薬業経済学		薬学特別演習a/A
				薬事関連法規・制度		薬学特別演習b/B
				薬局管理学		
8) 日本薬局方の意義と構成について説明できる。			製剤学	日本薬局方概論		薬学特別演習a/A
				薬局管理学		薬学特別演習b/B
9) 生物由来製品の取扱いと血液供給体制に係る法規について説明できる。			製剤学	薬事関連法規・制度		薬学特別演習a/A
			調剤学Ⅱ	薬局管理学		薬学特別演習b/B
10) 健康被害救済制度について説明できる。				薬業経済学		薬学特別演習a/A
				薬事関連法規・制度		薬学特別演習b/B
				医療安全性学		
				薬局管理学		
11) レギュラトリーサイエンスの必要性和意義について説明できる。			インターンシップⅡ	薬業経済学		薬学特別演習a/A
				日本薬局方概論		薬学特別演習b/B
				薬局管理学		
【③特別な管理を要する薬物等に係る法規】						
1) 麻薬、向精神薬、覚醒剤原料等の取扱いに係る規定について説明できる。		調剤学Ⅰ		薬事関連法規・制度		薬学特別演習a/A
				薬局管理学		薬学特別演習b/B
2) 覚醒剤、大麻、あへん、指定薬物等の乱用防止規制について概説できる。		調剤学Ⅰ		薬事関連法規・制度		薬学特別演習a/A
				医療安全性学		薬学特別演習b/B
				薬局管理学		
3) 毒物劇物の取扱いに係る規定について概説できる。		調剤学Ⅰ		薬事関連法規・制度		薬学特別演習a/A
				薬局管理学		薬学特別演習b/B
(3) 社会保障制度と医療経済						
【①医療、福祉、介護の制度】						
1) 日本の社会保障制度の枠組みと特徴について説明できる。				薬業経済学		薬学特別演習a/A
				薬事関連法規・制度		薬学特別演習b/B
				薬局管理学		
2) 医療保険制度について説明できる。				薬業経済学		薬学特別演習a/A
				薬事関連法規・制度		薬学特別演習b/B
				薬局管理学		
3) 療養担当規則について説明できる。				薬業経済学		薬学特別演習a/A
				薬局管理学		薬学特別演習b/B
4) 公費負担医療制度について概説できる。				薬業経済学		薬学特別演習a/A
				薬事関連法規・制度		薬学特別演習b/B
				薬局管理学		
5) 介護保険制度について概説できる。	看護・介護学概論			薬業経済学		薬学特別演習a/A
				薬事関連法規・制度		薬学特別演習b/B
				薬局管理学		

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
6) 薬価基準制度について概説できる。			製剤学	薬業経済学		薬学特別演習a/A
				薬事関連法規・制度		薬学特別演習b/B
				薬局管理学		
7) 調剤報酬、診療報酬及び介護報酬の仕組みについて概説できる。	看護・介護学概論			薬業経済学		薬学特別演習a/A
				薬事関連法規・制度		薬学特別演習b/B
				薬局管理学		
【②医薬品と医療の経済性】						
1) 医薬品の市場の特徴と流通の仕組みについて概説できる。				薬業経済学		薬学特別演習a/A
				薬事関連法規・制度		薬学特別演習b/B
				薬局管理学		
2) 国民医療費の動向について概説できる。			調剤学Ⅱ	薬業経済学		薬学特別演習a/A
				薬事関連法規・制度		薬学特別演習b/B
				薬局管理学		
3) 後発医薬品とその役割について説明できる。		調剤学Ⅰ	製剤学	薬業経済学		薬学特別演習a/A
				医薬品情報学		薬学特別演習b/B
				薬事関連法規・制度		
				薬局管理学		
4) 薬物療法の経済評価手法について概説できる。				薬業経済学		薬学特別演習a/A
				薬事関連法規・制度		薬学特別演習b/B
				薬局管理学		
（４）地域における薬局と薬剤師						
【①地域における薬局の役割】						
1) 地域における薬局の機能と業務について説明できる。		調剤学Ⅰ	調剤学Ⅱ	薬業経済学		薬学特別演習a/A
				薬事関連法規・制度		薬学特別演習b/B
				薬局管理学		
2) 医薬分業の意義と動向を説明できる。		調剤学Ⅰ	調剤学Ⅱ	薬業経済学		薬学特別演習a/A
				薬事関連法規・制度		薬学特別演習b/B
				薬局管理学		
3) かかりつけ薬局・薬剤師による薬学的管理の意義について説明できる。		調剤学Ⅰ	調剤学Ⅱ	薬業経済学		薬学特別演習a/A
				薬事関連法規・制度		薬学特別演習b/B
				薬局管理学		
4) セルフメディケーションにおける薬局の役割について説明できる。		調剤学Ⅰ		薬業経済学		薬学特別演習a/A
				薬事関連法規・制度		薬学特別演習b/B
				薬局管理学		
5) 災害時の薬局の役割について説明できる。		調剤学Ⅰ		薬業経済学		薬学特別演習a/A
				薬事関連法規・制度		薬学特別演習b/B
				薬局管理学		

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
6) 医療費の適正化に薬局が果たす役割について説明できる。		調剤学 I		薬業経済学		薬学特別演習a/A
				薬事関連法規・制度		薬学特別演習b/B
				薬局管理学		
【②地域における保健、医療、福祉の連携体制と薬剤師】						
1) 地域包括ケアの理念について説明できる。		調剤学 I		薬業経済学		薬学特別演習a/A
				薬事関連法規・制度		薬学特別演習b/B
				薬局管理学		
2) 在宅医療及び居宅介護における薬局と薬剤師の役割について説明できる。	看護・介護学概論	調剤学 I		薬業経済学		薬学特別演習a/A
				薬事関連法規・制度		薬学特別演習b/B
				薬局管理学		
3) 学校薬剤師の役割について説明できる。		調剤学 I		薬業経済学		薬学特別演習a/A
				薬事関連法規・制度		薬学特別演習b/B
				薬局管理学		
4) 地域の保健、医療、福祉において利用可能な社会資源について概説できる。		調剤学 I		薬業経済学		薬学特別演習a/A
				薬事関連法規・制度		薬学特別演習b/B
				薬局管理学		
5) 地域から求められる医療提供施設、福祉施設及び行政との連携について討議する。(知識・態度)		調剤学 I		薬業経済学		
				薬事関連法規・制度		
				薬局管理学		
C 薬学基礎						
G1 物質の物理的性質						
(1) 物質の構造						
【①化学結合】						
1) 化学結合の様式について説明できる。	基礎化学	有機化学Ⅱ・Ⅲ	医薬品無機・放射化学			薬学特別演習a/A
	基礎物理化学					薬学特別演習b/B
2) 分子軌道の基本概念および軌道の混成について説明できる。	基礎化学	有機化学Ⅱ・Ⅲ	医薬品無機・放射化学			薬学特別演習a/A
		生命物理化学Ⅰ				薬学特別演習b/B
3) 共役や共鳴の概念を説明できる。	基礎化学	有機化学Ⅱ・Ⅲ	医薬品無機・放射化学			薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
【②分子間相互作用】						
1) ファンデルワールス力について説明できる。	基礎物理化学	有機化学Ⅱ・Ⅲ	医薬品無機・放射化学			薬学特別演習a/A
	生命物理化学Ⅰ					薬学特別演習b/B
						創薬化学特論(選)
2) 静電相互作用について例を挙げて説明できる。	基礎物理化学	有機化学Ⅱ・Ⅲ	医薬品無機・放射化学			薬学特別演習a/A
	生命物理化学Ⅰ					薬学特別演習b/B
						創薬化学特論(選)
3) 双極子間相互作用について例を挙げて説明できる。	基礎物理化学	有機化学Ⅱ・Ⅲ	医薬品無機・放射化学			薬学特別演習a/A
	生命物理化学Ⅰ					薬学特別演習b/B

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
4) 分散力について例を挙げて説明できる。	基礎物理化学	有機化学Ⅱ・Ⅲ	医薬品無機・放射化学			薬学特別演習a/A
	生命物理化学Ⅰ					薬学特別演習b/B
5) 水素結合について例を挙げて説明できる。	基礎物理化学	有機化学Ⅱ・Ⅲ	医薬品無機・放射化学			薬学特別演習a/A
	生命物理化学Ⅰ					薬学特別演習b/B
						創薬化学特論(選)
6) 電荷移動相互作用について例を挙げて説明できる。	生命物理化学Ⅰ		医薬品無機・放射化学			薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
7) 疎水性相互作用について例を挙げて説明できる。	基礎物理化学	有機化学Ⅱ・Ⅲ	医薬品無機・放射化学			薬学特別演習a/A
	生命物理化学Ⅰ					薬学特別演習b/B
						創薬化学特論(選)
【③原子・分子の挙動】						
1) 電磁波の性質および物質との相互作用を説明できる。	基礎物理化学	機器分析学				薬学特別演習a/A
		生命物理化学Ⅱ				薬学特別演習b/B
2) 分子の振動、回転、電子遷移について説明できる。	基礎物理化学	機器分析学				薬学特別演習a/A
		生命物理化学Ⅱ				薬学特別演習b/B
3) 電子や核のスピンとその磁気共鳴について説明できる。		機器分析学				薬学特別演習a/A
		生命物理化学Ⅱ				薬学特別演習b/B
4) 光の屈折、偏光、および旋光性について説明できる。	基礎数学	機器分析学				薬学特別演習a/A
		生命物理化学Ⅱ				薬学特別演習b/B
5) 光の散乱および干渉について説明できる。	基礎数学	生命物理化学Ⅱ	製剤学			薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
6) 結晶構造と回折現象について概説できる。	基礎数学	生命物理化学Ⅱ	製剤学			薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
【④放射線と放射能】						
1) 原子の構造と放射壊変について説明できる。		生命物理化学Ⅱ	医薬品無機・放射化学			薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
2) 電離放射線の種類を列挙し、それらの性質および物質との相互作用について説明できる。		生命物理化学Ⅱ	医薬品無機・放射化学			薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
3) 代表的な放射性核種の物理的性質について説明できる。		生命物理化学Ⅱ	医薬品無機・放射化学			薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
4) 核反応および放射平衡について説明できる。		生命物理化学Ⅱ	医薬品無機・放射化学			薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
5) 放射線測定の実験と利用について概説できる。			医薬品無機・放射化学			薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
(2) 物質のエネルギーと平衡						
【①気体の微視的状態と巨視的状態】						
1) ファンデルワールスの状態方程式について説明できる。	基礎物理化学					薬学特別演習a/A
	基礎数学					薬学特別演習b/B
	生命物理化学Ⅰ					

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
2) 気体の分子運動とエネルギーの関係について説明できる。	基礎物理化学					薬学特別演習a/A
	生命物理化学 I					薬学特別演習b/B
3) エネルギーの量子化とボルツマン分布について説明できる。	基礎物理化学	生命物理化学 II				薬学特別演習a/A
	生命物理化学 I					薬学特別演習b/B
【②エネルギー】						
1) 熱力学における系、外界、境界について説明できる。	基礎物理化学					薬学特別演習a/A
	生命物理化学 I					薬学特別演習b/B
2) 熱力学第一法則を説明できる。	基礎物理化学					薬学特別演習a/A
	生命物理化学 I					薬学特別演習b/B
3) 状態関数と経路関数の違いを説明できる。	基礎物理化学					薬学特別演習a/A
	生命物理化学 I					薬学特別演習b/B
4) 定圧過程、定容過程、等温過程、断熱過程を説明できる。	基礎物理化学					薬学特別演習a/A
	生命物理化学 I					薬学特別演習b/B
5) 定容熱容量および定圧熱容量について説明できる。	基礎物理化学					薬学特別演習a/A
	生命物理化学 I					薬学特別演習b/B
6) エンタルピーについて説明できる。	基礎物理化学					薬学特別演習a/A
	生命物理化学 I					薬学特別演習b/B
7) 化学変化に伴うエンタルピー変化について説明できる。	基礎物理化学					薬学特別演習a/A
	生命物理化学 I					薬学特別演習b/B
【③自発的な変化】						
1) エントロピーについて説明できる。	基礎物理化学					薬学特別演習a/A
	生命物理化学 I					薬学特別演習b/B
2) 熱力学第二法則について説明できる。	基礎物理化学					薬学特別演習a/A
	生命物理化学 I					薬学特別演習b/B
3) 熱力学第三法則について説明できる。	基礎物理化学					薬学特別演習a/A
	生命物理化学 I					薬学特別演習b/B
4) ギブズエネルギーについて説明できる。	基礎物理化学					薬学特別演習a/A
	生命物理化学 I					薬学特別演習b/B
5) 熱力学関数を使い、自発的な変化の方向と程度を予測できる。	基礎物理化学					薬学特別演習a/A
	生命物理化学 I					薬学特別演習b/B
【④化学平衡の原理】						
1) ギブズエネルギーと化学ポテンシャルの関係を説明できる。	基礎物理化学					薬学特別演習a/A
	生命物理化学 I					薬学特別演習b/B
2) ギブズエネルギーと平衡定数の関係を説明できる。	基礎物理化学					薬学特別演習a/A
	生命物理化学 I					薬学特別演習b/B
3) 平衡定数に及ぼす圧力および温度の影響について説明できる。	基礎物理化学					薬学特別演習a/A
	生命物理化学 I					薬学特別演習b/B
4) 共役反応の原理について説明できる。	基礎物理化学					薬学特別演習a/A
	生命物理化学 I					薬学特別演習b/B

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【⑤相平衡】						
1) 相変化に伴う熱の移動について説明できる。	生命物理化学 I					薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
2) 相平衡と相律について説明できる。	生命物理化学 I					薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
3) 状態図について説明できる。	生命物理化学 I					薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
【⑥溶液の性質】						
1) 希薄溶液の束一的性質について説明できる。	生命物理化学 I					薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
2) 活量と活量係数について説明できる。	生命物理化学 I					薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
3) 電解質溶液の電気伝導率およびモル伝導率の濃度による変化を説明できる。	生命物理化学 I					薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
4) イオン強度について説明できる。	生命物理化学 I					薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
【⑦電気化学】						
1) 起電力とギブズエネルギーの関係について説明できる。	生命物理化学 I					薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
2) 電極電位 (酸化還元電位) について説明できる。	生命物理化学 I					薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
(3) 物質の変化						
【①反応速度】						
1) 反応次数と速度定数について説明できる。	基礎物理化学	物理薬剤学				薬学特別演習a/A
	基礎数学	有機化学Ⅱ・Ⅲ				
		生命物理化学Ⅱ				
2) 微分型速度式を積分型速度式に変換できる。(知識・技能)	基礎物理化学	物理薬剤学				
	基礎数学	生命物理化学Ⅱ				
3) 代表的な反応次数の決定法を列挙し、説明できる。	基礎物理化学	物理薬剤学				薬学特別演習a/A
		生命物理化学Ⅱ				薬学特別演習b/B
4) 代表的な(擬)一次反応の反応速度を測定し、速度定数を求めることができる。(技能)	基礎物理化学	物理薬剤学				
	基礎数学	生命物理化学Ⅱ				
5) 代表的な複合反応(可逆反応、平行反応、連続反応など)の特徴について説明できる。	基礎物理化学	物理薬剤学				薬学特別演習a/A
	基礎数学	生命物理化学Ⅱ				薬学特別演習b/B
6) 反応速度と温度との関係を説明できる。	基礎物理化学	物理薬剤学				薬学特別演習a/A
		生命物理化学Ⅱ				薬学特別演習b/B
7) 代表的な触媒反応(酸・塩基触媒反応、酵素反応など)について説明できる。	基礎物理化学	物理薬剤学				薬学特別演習a/A
		有機化学Ⅱ・Ⅲ				薬学特別演習b/B
		生命物理化学Ⅱ				

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目											
	1年	2年	3年	4年	5年	6年						
C2 化学物質の分析												
(1) 分析の基礎												
【①分析の基本】												
1) 分析に用いる器具を正しく使用できる。(知識・技能)			インターンシップⅡ									
		生物物理化学実習										
		医薬品分析化学実習										
2) 測定値を適切に取り扱うことができる。(知識・技能)	医薬品分析化学Ⅰ		インターンシップⅡ									
	基礎数学	生物物理化学実習										
		医薬品分析化学実習										
3) 分析法のバリデーションについて説明できる。	医薬品分析化学Ⅰ	医薬品分析化学Ⅱ	製剤学			薬学特別演習a/A						
						薬学特別演習b/B						
(2) 溶液中の化学平衡												
【①酸・塩基平衡】												
1) 酸・塩基平衡の概念について説明できる。							基礎化学	有機化学Ⅱ・Ⅲ				薬学特別演習a/A
	生物物理化学Ⅰ											
	医薬品分析化学Ⅰ					薬学特別演習b/B						
2) pH および解離定数について説明できる。(知識・技能)	基礎化学	有機化学Ⅱ・Ⅲ				薬学特別演習a/A						
	生物物理化学Ⅰ											
	医薬品分析化学Ⅰ					薬学特別演習b/B						
3) 溶液の pH を測定できる。(技能)	基礎化学											
	生物物理化学Ⅰ											
4) 緩衝作用や緩衝液について説明できる。	基礎化学					薬学特別演習a/A						
	医薬品分析化学Ⅰ					薬学特別演習b/B						
	生物物理化学Ⅰ											
【②各種の化学平衡】												
1) 錯体・キレート生成平衡について説明できる。							生物物理化学Ⅰ	医薬品分析化学Ⅱ	医薬品無機・放射化学			薬学特別演習a/A
												薬学特別演習b/B
2) 沈殿平衡について説明できる。	生物物理化学Ⅰ	医薬品分析化学Ⅱ				薬学特別演習a/A						
						薬学特別演習b/B						
3) 酸化還元平衡について説明できる。		医薬品分析化学Ⅱ				薬学特別演習a/A						
		生物物理化学Ⅱ				薬学特別演習b/B						
4) 分配平衡について説明できる。	生物物理化学Ⅰ	医薬品分析化学Ⅱ				薬学特別演習a/A						
						薬学特別演習b/B						
(3) 化学物質の定性分析・定量分析												
【①定性分析】												
1) 代表的な無機イオンの定性反応を説明できる。							医薬品分析化学Ⅰ					薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B						
2) 日本薬局方収載の代表的な医薬品の確認試験を列挙し、その内容を説明できる。	医薬品分析化学Ⅰ					薬学特別演習a/A						
						薬学特別演習b/B						

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【②定量分析（容量分析・重量分析）】						
1) 中和滴定（非水滴定を含む）の原理、操作法および応用例を説明できる。		医薬品分析化学Ⅱ				薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
2) キレート滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。		医薬品分析化学Ⅱ				薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
3) 沈殿滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。		医薬品分析化学Ⅱ				薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
4) 酸化還元滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。		医薬品分析化学Ⅱ				薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
5) 日本薬局方収載の代表的な医薬品の容量分析を実施できる。（知識・技能）		医薬品分析化学Ⅱ				
		医薬品分析化学実習				
6) 日本薬局方収載の代表的な純度試験を列挙し、その内容を説明できる。		医薬品分析化学Ⅱ				薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
7) 日本薬局方収載の重量分析法の原理および操作法を説明できる。		医薬品分析化学Ⅱ				薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
（4）機器を用いる分析法						
【①分光分析法】						
1) 紫外可視吸光度測定法の原理および応用例を説明できる。		機器分析学	天然医薬品化学			薬学特別演習a/A
		生命物理化学Ⅱ				薬学特別演習b/B
2) 蛍光光度法の原理および応用例を説明できる。		機器分析学				薬学特別演習a/A
		生命物理化学Ⅱ				薬学特別演習b/B
3) 赤外吸収（IR）スペクトル測定法の原理および応用例を説明できる。		機器分析学	天然医薬品化学			薬学特別演習a/A
		生命物理化学Ⅱ				薬学特別演習b/B
4) 原子吸光光度法、誘導結合プラズマ（ICP）発光分光分析法および ICP 質量分析法の原理および応用例を説明できる。		機器分析学				薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
5) 旋光度測定法（旋光分散）の原理および応用例を説明できる。		機器分析学				薬学特別演習a/A
		生命物理化学Ⅱ				薬学特別演習b/B
6) 分光分析法を用いて、日本薬局方収載の代表的な医薬品の分析を実施できる。（技能）		医薬品分析化学実習				
【②核磁気共鳴（NMR）スペクトル測定法】						
1) 核磁気共鳴（NMR）スペクトル測定法の原理および応用例を説明できる。		機器分析学	天然医薬品化学			薬学特別演習a/A
		生命物理化学Ⅱ				薬学特別演習b/B
【③質量分析法】						
1) 質量分析法の原理および応用例を説明できる。		機器分析学	天然医薬品化学			薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
【④X線分析法】						
1) X線結晶解析の原理および応用例を概説できる。	基礎数学	物理薬剤学		日本薬局方概論		薬学特別演習a/A
		生命物理化学Ⅱ				薬学特別演習b/B
2) 粉末X線回折測定法の原理と利用法について概説できる。		物理薬剤学		日本薬局方概論		薬学特別演習a/A
		生命物理化学Ⅱ				薬学特別演習b/B

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【⑤熱分析】						
1) 熱重量測定法の原理を説明できる。	生命物理化学 I	物理薬剤学		日本薬局方概論		薬学特別演習a/A 薬学特別演習b/B
2) 示差熱分析法および示差走査熱量測定法について説明できる。	生命物理化学 I	物理薬剤学		日本薬局方概論		薬学特別演習a/A 薬学特別演習b/B
(5) 分離分析法						
【①クロマトグラフィー】						
1) クロマトグラフィーの分離機構を説明できる。		生命物理化学 II	生体分析化学			薬学特別演習a/A 薬学特別演習b/B
2) 薄層クロマトグラフィーの特徴と代表的な検出法を説明できる。		有機化学実習	生体分析化学			薬学特別演習a/A 薬学特別演習b/B
3) 液体クロマトグラフィーの特徴と代表的な検出法を説明できる。			生体分析化学			薬学特別演習a/A 薬学特別演習b/B
4) ガスクロマトグラフィーの特徴と代表的な検出法を説明できる。			生体分析化学			薬学特別演習a/A 薬学特別演習b/B
5) クロマトグラフィーを用いて試料を定性・定量できる。(知識・技能)		医薬品分析化学実習	生体分析化学			
【②電気泳動法】						
1) 電気泳動法の原理および応用例を説明できる。		生命物理化学 II	生体分析化学			薬学特別演習a/A 薬学特別演習b/B
(6) 臨床現場で用いる分析技術						
【①分析の準備】						
1) 分析目的に即した試料の前処理法を説明できる。			生体分析化学			薬学特別演習a/A 薬学特別演習b/B
2) 臨床分析における精度管理および標準物質の意義を説明できる。			生体分析化学			薬学特別演習a/A 薬学特別演習b/B
【②分析技術】						
1) 臨床分析で用いられる代表的な分析法を列举できる。			生体分析化学			薬学特別演習a/A 薬学特別演習b/B
2) 免疫化学的測定法の原理を説明できる。		医薬品分析化学II	生体分析化学			薬学特別演習a/A 薬学特別演習b/B
3) 酵素を用いた代表的な分析法の原理を説明できる。		医薬品分析化学II	生体分析化学			薬学特別演習a/A 薬学特別演習b/B
4) 代表的なドライケミストリーについて概説できる。			生体分析化学			薬学特別演習a/A 薬学特別演習b/B
5) 代表的な画像診断技術 (X線検査、MRI、超音波、内視鏡検査、核医学検査など) について概説できる。			生体分析化学 医薬品無機・放射化学			薬学特別演習a/A 薬学特別演習b/B

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
C3 化学物質の性質と反応						
(1) 化学物質の基本的性質						
【①基本事項】						
1) 代表的な化合物を IUPAC 規則に基づいて命名することができる。	基礎化学 有機化学 I	有機化学 II・III				薬学特別演習 a/A 薬学特別演習 b/B
2) 薬学領域で用いられる代表的な化合物を慣用名で記述できる。	基礎化学	有機化学 II・III				薬学特別演習 a/A 薬学特別演習 b/B
3) 基本的な化合物を、ルイス構造式で書くことができる。	基礎化学	有機化学 II・III				薬学特別演習 a/A 薬学特別演習 b/B
4) 有機化合物の性質と共鳴の関係について説明できる。		有機化学 II・III				薬学特別演習 a/A 薬学特別演習 b/B
5) ルイス酸・塩基、ブレンステッド酸・塩基を定義することができる。	医薬品分析化学 I	有機化学 II・III	医薬品無機・放射化学			薬学特別演習 a/A 薬学特別演習 b/B
6) 基本的な有機反応 (置換、付加、脱離) の特徴を理解し、分類できる。	有機化学 I	有機化学 II・III	生命物理化学 II			薬学特別演習 a/A 薬学特別演習 b/B
7) 炭素原子を含む反応中間体 (カルボカチオン、カルボアニオン、ラジカル) の構造と性質を説明できる。	有機化学 I	有機化学 II・III				薬学特別演習 a/A 薬学特別演習 b/B
8) 反応の過程を、エネルギー図を用いて説明できる。	有機化学 I	有機化学 II・III				薬学特別演習 a/A 薬学特別演習 b/B
9) 基本的な有機反応機構を、電子の動きを示す矢印を用いて表すことができる。(技能)	有機化学 I	有機化学 II・III				薬学特別演習 a/A 薬学特別演習 b/B
【②有機化合物の立体構造】						
1) 構造異性体と立体異性体の違いについて説明できる。	有機化学 I	有機化学 II・III				薬学特別演習 a/A 薬学特別演習 b/B
2) キラリティーと光学活性の関係を概説できる。	有機化学 I	有機化学 II・III				薬学特別演習 a/A 薬学特別演習 b/B 創薬化学特論 (選)
3) エナンチオマーとジアステロマーについて説明できる。	有機化学 I	有機化学 II・III				薬学特別演習 a/A 薬学特別演習 b/B
4) ラセミ体とメソ体について説明できる。	有機化学 I	有機化学 II・III				薬学特別演習 a/A 薬学特別演習 b/B
5) 絶対配置の表示法を説明し、キラル化合物の構造を書くことができる。(知識、技能)	有機化学 I	有機化学 II・III				薬学特別演習 a/A 薬学特別演習 b/B
6) 炭素—炭素二重結合の立体異性 (cis, trans ならびに E, Z 異性) について説明できる。	有機化学 I	有機化学 II・III				薬学特別演習 a/A 薬学特別演習 b/B
7) フィッシャー投影式とニューマン投影式を用いて有機化合物の構造を書くことができる。(技能)	有機化学 I	有機化学 II・III				薬学特別演習 a/A 薬学特別演習 b/B
8) エタン、ブタンの立体配座とその安定性について説明できる。	有機化学 I	有機化学 II・III				薬学特別演習 a/A 薬学特別演習 b/B

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
(2) 有機化合物の基本骨格の構造と反応						
【①アルカン】						
1) アルカンの基本的な性質について説明できる。	有機化学 I	有機化学 II・III				薬学特別演習a/A 薬学特別演習b/B
2) アルカンの構造異性体を図示することができる。(技能)	有機化学 I	有機化学 II・III				薬学特別演習a/A 薬学特別演習b/B
3) シクロアルカンの環のひずみを決定する要因について説明できる。	有機化学 I	有機化学 II・III				薬学特別演習a/A 薬学特別演習b/B
4) シクロヘキサンのいす形配座における水素の結合方向(アキシアル、エクアトリアル)を図示できる。(技能)	有機化学 I	有機化学 II・III				薬学特別演習a/A 薬学特別演習b/B
5) 置換シクロヘキサンの安定な立体配座を決定する要因について説明できる。	有機化学 I	有機化学 II・III				薬学特別演習a/A 薬学特別演習b/B
【②アルケン・アルキン】						
1) アルケンへの代表的な付加反応を列挙し、その特徴を説明できる。	有機化学 I	有機化学 II・III				薬学特別演習a/A 薬学特別演習b/B
2) アルケンの代表的な酸化、還元反応を列挙し、その特徴を説明できる。	有機化学 I	有機化学 II・III				薬学特別演習a/A 薬学特別演習b/B
3) アルキンの代表的な反応を列挙し、その特徴を説明できる。	有機化学 I	有機化学 II・III				薬学特別演習a/A 薬学特別演習b/B
【③芳香族化合物】						
1) 代表的な芳香族炭化水素化合物の性質と反応性を説明できる。		有機化学 II・III				薬学特別演習a/A 薬学特別演習b/B
2) 芳香族性の概念を説明できる。		有機化学 II・III				薬学特別演習a/A 薬学特別演習b/B
3) 芳香族炭化水素化合物の求電子置換反応の反応性、配向性、置換基の効果について説明できる。		有機化学 II・III				薬学特別演習a/A 薬学特別演習b/B
4) 代表的な芳香族複素環化合物の性質を芳香族性と関連づけて説明できる。		有機化学 II・III				薬学特別演習a/A 薬学特別演習b/B
5) 代表的な芳香族複素環の求電子置換反応の反応性、配向性、置換基の効果について説明できる。		有機化学 II・III				薬学特別演習a/A 薬学特別演習b/B
(3) 官能基の性質と反応						
【①概説】						
1) 代表的な官能基を列挙し、性質を説明できる。		有機化学 II・III				薬学特別演習a/A 薬学特別演習b/B
2) 官能基の性質を利用した分離精製を実施できる。(技能)		有機化学実習				
【②有機ハロゲン化合物】						
1) 有機ハロゲン化合物の基本的な性質と反応を列挙し、説明できる。		有機化学 II・III				薬学特別演習a/A 薬学特別演習b/B

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
2) 求核置換反応の特徴について説明できる。		有機化学Ⅱ・Ⅲ				薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
3) 脱離反応の特徴について説明できる。		有機化学Ⅱ・Ⅲ				薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
【③アルコール・フェノール・エーテル】						
1) アルコール、フェノール類の基本的な性質と反応を列挙し、説明できる。	医薬品分析化学Ⅰ	有機化学Ⅱ・Ⅲ				薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
2) エーテル類の基本的な性質と反応を列挙し、説明できる。		有機化学Ⅱ・Ⅲ				薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
【④アルデヒド・ケトン・カルボン酸・カルボン酸誘導体】						
1) アルデヒド類およびケトン類の基本的な性質と反応を列挙し、説明できる。	医薬品分析化学Ⅰ	有機化学Ⅱ・Ⅲ				薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
2) カルボン酸の基本的な性質と反応を列挙し、説明できる。	医薬品分析化学Ⅰ	有機化学Ⅱ・Ⅲ				薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
3) カルボン酸誘導体(酸ハロゲン化物、酸無水物、エステル、アミド)の基本的な性質と反応を列挙し、説明できる。	医薬品分析化学Ⅰ	有機化学Ⅱ・Ⅲ				薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
【⑤アミン】						
1) アミン類の基本的な性質と反応を列挙し、説明できる。	医薬品分析化学Ⅰ	有機化学Ⅱ・Ⅲ				薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
【⑥電子効果】						
1) 官能基が及ぼす電子効果について概説できる。		有機化学Ⅱ・Ⅲ				薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
【⑦酸性度・塩基性度】						
1) アルコール、フェノール、カルボン酸、炭素酸などの酸性度を比較して説明できる。		有機化学Ⅱ・Ⅲ				薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
2) 含窒素化合物の塩基性度を比較して説明できる。		有機化学Ⅱ・Ⅲ				薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
(4) 化学物質の構造決定						
【①核磁気共鳴 (NMR)】						
1) ¹ H および ¹³ C NMR スペクトルより得られる情報を概説できる。		機器分析学				薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
2) 有機化合物中の代表的プロトンについて、おおよその化学シフト値を示すことができる。		機器分析学				薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
3) ¹ H NMR の積分値の意味を説明できる。		機器分析学				薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
4) ¹ H NMR シグナルが近接プロトンにより分裂(カップリング)する基本的な分裂様式を説明できる。		機器分析学				薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
5) 代表的な化合物の部分構造を $^1\text{H NMR}$ から決定できる。(技能)		機器分析学				薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
【②赤外吸収 (IR)】						
1) IR スペクトルより得られる情報を概説できる。		機器分析学				薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
2) IR スペクトル上の基本的な官能基の特性吸収を列挙し、帰属することができる。(知識・技能)		機器分析学				薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
【③質量分析】						
1) マススペクトルより得られる情報を概説できる。		機器分析学				薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
2) 測定化合物に適したイオン化法を選択できる。(技能)		機器分析学				薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
3) ピークの種類(基準ピーク、分子イオンピーク、同位体ピーク、フラグメントピーク)を説明できる。		機器分析学				薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
4) 代表的な化合物のマススペクトルを解析できる。(技能)		機器分析学				薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
【④総合演習】						
1) 代表的な機器分析法を用いて、代表的な化合物の構造決定ができる。(技能)		機器分析学				薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
(5) 無機化合物・錯体の構造と性質						
【①無機化合物・錯体】						
1) 代表的な典型元素と遷移元素を列挙できる。			医薬品無機・放射化学			薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
2) 代表的な無機酸化物、オキソ化合物の名称、構造、性質を列挙できる。			医薬品無機・放射化学			薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
3) 活性酸素と窒素酸化物の名称、構造、性質を列挙できる。			医薬品無機・放射化学			薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
4) 代表的な錯体の名称、構造、基本的な性質を説明できる。			医薬品無機・放射化学			薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
5) 医薬品として用いられる代表的な無機化合物、および錯体を列挙できる。	医薬品分析化学 I		医薬品無機・放射化学			薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
C4 生体分子・医薬品の化学による理解						
(1) 医薬品の標的となる生体分子の構造と化学的な性質						
【①医薬品の標的となる生体高分子の化学構造】						
1) 代表的な生体高分子を構成する小分子(アミノ酸、糖、脂質、ヌクレオチドなど)の構造に基づく化学的性質を説明できる。	生化学I	生物物理化学実習	医薬品無機・放射化学			薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
						ゲノム創薬特論 (選)

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
2) 医薬品の標的となる生体高分子 (タンパク質、核酸など) の立体構造とそれを規定する化学結合、相互作用について説明できる。	生化学I	生物物理化学実習	医薬品無機・放射化学			薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
						ケフム創薬特論 (選)
【②生体内で機能する小分子】						
1) 細胞膜受容体および細胞内 (核内) 受容体の代表的な内因性リガンドの構造と性質について概説できる。		生化学II	有機化学IV			薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
2) 代表的な補酵素が酵素反応で果たす役割について、有機反応機構の観点から説明できる。			有機化学IV			薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
3) 活性酸素、一酸化窒素の構造に基づく生体内反応を化学的に説明できる。		病態生理学	有機化学IV			薬学特別演習a/A
			医薬品無機・放射化学			薬学特別演習b/B
4) 生体内に存在する代表的な金属イオンおよび錯体の機能を化学的に説明できる。			有機化学IV			薬学特別演習a/A
			医薬品無機・放射化学			薬学特別演習b/B
(2) 生体反応の化学による理解						
【①生体内で機能するリン、硫黄化合物】						
1) リン化合物 (リン酸誘導体など) および硫黄化合物 (チオール、ジスルフィド、チオエステルなど) の構造と化学的性質を説明できる。			有機化学IV			薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
2) リン化合物 (リン酸誘導体など) および硫黄化合物 (チオール、ジスルフィド、チオエステルなど) の生体内での機能を化学的性質に基づき説明できる。			有機化学IV			薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
【②酵素阻害剤と作用様式】						
1) 不可逆的酵素阻害薬の作用を酵素の反応機構に基づいて説明できる。			有機化学IV			薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
2) 基質アナログが競合阻害薬となることを酵素の反応機構に基づいて説明できる。			有機化学IV			薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
3) 遷移状態アナログが競合阻害薬となることを酵素の反応機構に基づいて説明できる。			有機化学IV			薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
【③受容体のアゴニストおよびアンタゴニスト】						
1) 代表的な受容体のアゴニスト (作用薬、作動薬、刺激薬) とアンタゴニスト (拮抗薬、遮断薬) との相違点について、内因性リガンドの構造と比較して説明できる。		薬理学I	有機化学IV			薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
2) 低分子内因性リガンド誘導体が医薬品として用いられている理由を説明できる。			有機化学IV			薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
【④生体内で起こる有機反応】						
1) 代表的な生体分子 (脂肪酸、コレステロールなど) の代謝反応を有機化学の観点から説明できる。			有機化学IV			薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
2) 異物代謝の反応 (発がん性物質の代謝的活性化など) を有機化学の観点から説明できる。			有機化学IV			薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
（3）医薬品の化学構造と性質、作用						
【①医薬品と生体分子の相互作用】						
1) 医薬品と生体分子との相互作用を化学的な観点（結合親和性と自由エネルギー変化、電子効果、立体効果など）から説明できる。			有機化学Ⅳ			薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
						創薬化学特論（選）
【②医薬品の化学構造に基づく性質】						
1) 医薬品の構造からその物理化学的性質（酸性、塩基性、疎水性、親水性など）を説明できる。			有機化学Ⅳ			薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
2) プロドラッグなどの薬物動態を考慮した医薬品の化学構造について説明できる。			有機化学Ⅳ			薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
【③医薬品のコンポーネント】						
1) 代表的な医薬品のファーマコフォアについて概説できる。			有機化学Ⅳ			薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
						創薬化学特論（選）
2) バイオアイソスター（生物学的等価体）について、代表的な例を挙げて概説できる。			有機化学Ⅳ			薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
						創薬化学特論（選）
3) 医薬品に含まれる代表的な複素環を構造に基づいて分類し、医薬品コンポーネントとしての性質を説明できる。			有機化学Ⅳ			薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
【④酵素に作用する医薬品の構造と性質】						
1) ヌクレオシドおよび核酸塩基アナログを有する代表的な医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。			有機化学Ⅳ			薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
2) フェニル酢酸、フェニルプロピオン酸構造などをもつ代表的な医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。			有機化学Ⅳ			薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
						創薬化学特論（選）
3) スルホンアミド構造をもつ代表的な医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。			有機化学Ⅳ			薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
4) キノロン骨格をもつ代表的な医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。			有機化学Ⅳ			薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
5) β-ラクタム構造をもつ代表的な医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。			有機化学Ⅳ			薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
						創薬化学特論（選）
6) ペプチドアナログの代表的な医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。			有機化学Ⅳ			薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
						創薬化学特論（選）

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【⑤受容体に作用する医薬品の構造と性質】						
1) カテコールアミン骨格を有する代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。			有機化学Ⅳ			薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
2) アセチルコリンアナログの代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。			有機化学Ⅳ			薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
3) ステロイドアナログの代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。			有機化学Ⅳ			薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
4) ベンゾジアゼピン骨格およびバルビタール骨格を有する代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。			有機化学Ⅳ			薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
5) オピオイドアナログの代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。			有機化学Ⅳ			薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
【⑥DNA に作用する医薬品の構造と性質】						
1) DNAと結合する医薬品（アルキル化剤、シスプラチン類）を列挙し、それらの化学構造と反応機構を説明できる。			有機化学Ⅳ	臨床病態生化学		薬学特別演習a/A
			医薬品無機・放射化学			薬学特別演習b/B
			医薬品毒性学			ゲノム創薬特論（選）
2) DNAにインターカレートする医薬品を列挙し、それらの構造上の特徴を説明できる。			有機化学Ⅳ	臨床病態生化学		薬学特別演習a/A
			医薬品無機・放射化学			薬学特別演習b/B
			医薬品毒性学			ゲノム創薬特論（選）
3) DNA鎖を切断する医薬品を列挙し、それらの構造上の特徴を説明できる。			有機化学Ⅳ	臨床病態生化学		薬学特別演習a/A
			医薬品無機・放射化学			薬学特別演習b/B
			医薬品毒性学			ゲノム創薬特論（選）
【⑦イオンチャンネルに作用する医薬品の構造と性質】						
1) イオンチャンネルに作用する医薬品の代表的な基本構造（ジヒドロピリジンなど）の特徴を説明できる。			有機化学Ⅳ			薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
C5 自然が生み出す薬物						
(1) 薬になる動植物						
【①薬用植物】						
1) 代表的な薬用植物の学名、薬用部位、薬効などを挙げるができる。		生薬学Ⅰ				薬学特別演習a/A
		生薬学Ⅱ				薬学特別演習b/B
		生薬学実習				
2) 代表的な薬用植物を外部形態から説明し、区別できる。（知識、技能）		生薬学Ⅰ				薬学特別演習a/A
		生薬学実習				薬学特別演習b/B
3) 植物の主な内部形態について説明できる。		生薬学Ⅰ				薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
4) 法律によって取り扱いが規制されている植物（ケシ、アサ）の特徴を説明できる。		生薬学実習				薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【②生薬の基原】						
1) 日本薬局方記載の代表的な生薬(植物、動物、藻類、菌類由来)を列挙し、その基原、薬用部位を説明できる。		生薬学Ⅰ				薬学特別演習a/A
		生薬学Ⅱ				
		生薬学実習				薬学特別演習b/B
【③生薬の用途】						
1) 日本薬局方記載の代表的な生薬(植物、動物、藻類、菌類、鉱物由来)の薬効、成分、用途などを説明できる。		生薬学Ⅰ				薬学特別演習a/A
		生薬学Ⅱ				薬学特別演習b/B
		生薬学実習				
2) 副作用や使用上の注意が必要な代表的な生薬を列挙し、説明できる。		生薬学Ⅰ				薬学特別演習a/A
		生薬学Ⅱ				薬学特別演習b/B
【④生薬の同定と品質評価】						
1) 生薬の同定と品質評価法について概説できる。		生薬学Ⅰ				薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
2) 日本薬局方の生薬総則および生薬試験法について説明できる。		生薬学Ⅰ		日本薬局方概論		薬学特別演習a/A
		生薬学実習				薬学特別演習b/B
3) 代表的な生薬を鑑別できる。(技能)		生薬学Ⅰ				薬学特別演習a/A
		生薬学実習				薬学特別演習b/B
4) 代表的な生薬の確認試験を説明できる。		生薬学Ⅰ				薬学特別演習a/A
		生薬学Ⅱ				薬学特別演習b/B
		生薬学実習				
5) 代表的な生薬の純度試験を説明できる。		生薬学Ⅰ				薬学特別演習a/A
		生薬学Ⅱ				薬学特別演習b/B
(2) 薬の宝庫としての天然物						
【①生薬由来の生物活性物質の構造と作用】						
1) 生薬由来の代表的な生物活性物質を化学構造に基づいて分類し、それらの合成経路を概説できる。		生薬学Ⅰ	天然医薬品化学			薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
2) 脂質や糖質に分類される生薬由来の代表的な生物活性物質を列挙し、その作用を説明できる。			天然医薬品化学			薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
3) 芳香族化合物に分類される生薬由来の代表的な生物活性物質を列挙し、その作用を説明できる。			天然医薬品化学			薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
4) テルペノイド、ステロイドに分類される生薬由来の代表的な生物活性物質を列挙し、その作用を説明できる。			天然医薬品化学			薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
5) アルカロイドに分類される生薬由来の代表的な生物活性物質を列挙し、その作用を説明できる。			天然医薬品化学			薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
【②微生物由来の生物活性物質の構造と作用】						
1) 微生物由来の生物活性物質を化学構造に基づいて分類できる。		生薬学Ⅰ	天然医薬品化学			薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
2) 微生物由来の代表的な生物活性物質を列挙し、その作用を説明できる。			天然医薬品化学			薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【③天然生物活性物質の取扱い】						
1) 天然生物活性物質の代表的な抽出法、分離精製法を概説し、実施できる。(知識、技能)		生薬学実習	天然医薬品化学			薬学特別演習a/A 薬学特別演習b/B
【④天然生物活性物質の利用】						
1) 医薬品として使われている代表的な天然生物活性物質を列挙し、その用途を説明できる。			天然医薬品化学			薬学特別演習a/A 薬学特別演習b/B
2) 天然生物活性物質を基に化学修飾等により開発された代表的な医薬品を列挙し、その用途、リード化合物を説明できる。			天然医薬品化学			薬学特別演習a/A 薬学特別演習b/B
3) 農薬や化粧品などとして使われている代表的な天然生物活性物質を列挙し、その用途を説明できる。			天然医薬品化学			薬学特別演習a/A 薬学特別演習b/B
C6 生命現象の基礎						
(1) 細胞の構造と機能						
【①細胞膜】						
1) 細胞膜を構成する代表的な生体成分を列挙し、その機能を分子レベルで説明できる。	生化学I 機能形態学 I					薬学特別演習a/A 薬学特別演習b/B
2) エンドサイトーシスとエキソサイトーシスについて説明できる。	生化学I 機能形態学 I	分子生物薬学				薬学特別演習a/A 薬学特別演習b/B
【②細胞小器官】						
1) 細胞小器官(核、ミトコンドリア、小胞体、リソソーム、ゴルジ体、ペルオキシソームなど)やリボソームの構造と機能を説明できる。	機能形態学 I	分子生物薬学				薬学特別演習a/A 薬学特別演習b/B
【③細胞骨格】						
1) 細胞骨格の構造と機能を説明できる。	機能形態学 I	分子生物薬学				薬学特別演習a/A 薬学特別演習b/B
(2) 生命現象を担う分子						
【①脂質】						
1) 代表的な脂質の種類、構造、性質、役割を説明できる。	生化学I 基礎生物学					薬学特別演習a/A 薬学特別演習b/B
【②糖質】						
1) 代表的な単糖、二糖の種類、構造、性質、役割を説明できる。	生化学I 基礎生物学					薬学特別演習a/A 薬学特別演習b/B
2) 代表的な多糖の種類、構造、性質、役割を説明できる。	生化学I 基礎生物学					薬学特別演習a/A 薬学特別演習b/B
【③アミノ酸】						
1) アミノ酸を列挙し、その構造に基づいて性質を説明できる。	生化学I 基礎生物学	生命物理化学実習	医薬品無機・放射化学			薬学特別演習a/A 薬学特別演習b/B
【④タンパク質】						
1) タンパク質の構造(一次、二次、三次、四次構造)と性質を説明できる。	生化学I 基礎生物学	生命物理化学実習	医薬品無機・放射化学			創薬化学特論(選) 薬学特別演習a/A 薬学特別演習b/B

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【⑤ヌクレオチドと核酸】						
1) ヌクレオチドと核酸 (DNA, RNA) の種類、構造、性質を説明できる。	生化学I		医薬品無機・放射化学			薬学特別演習a/A
	基礎生物学					薬学特別演習b/B
【⑥ビタミン】						
1) 代表的なビタミンの種類、構造、性質、役割を説明できる。	生化学I					薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
【⑦微量元素】						
1) 代表的な必須微量元素の種類、役割を説明できる。	生化学I					薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
【⑧生体分子の定性、定量】						
1) 脂質、糖質、アミノ酸、タンパク質、もしくは核酸の定性または定量試験を実施できる。(技能)	生化学I					
(3) 生命活動を担うタンパク質						
【①タンパク質の構造と機能】						
1) 多彩な機能をもつタンパク質 (酵素、受容体、シグナル分子、膜輸送体、運搬・輸送タンパク質、貯蔵タンパク質、構造タンパク質、接着タンパク質、防御タンパク質、調節タンパク質) を列挙し概説できる。	基礎生物学	生化学II				薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
【②タンパク質の成熟と分解】						
1) タンパク質の翻訳後の成熟過程 (細胞小器官間の輸送や翻訳後修飾) について説明できる。	基礎生物学	生化学II	医薬品毒性学			薬学特別演習a/A
2) タンパク質の細胞内での分解について説明できる。		分子生物薬学				薬学特別演習b/B
【③酵素】						
1) 酵素反応の特性と反応速度論を説明できる。	基礎生物学	生化学II				薬学特別演習a/A
	基礎物理化学	生命物理化学 II				薬学特別演習b/B
2) 酵素反応における補酵素、微量金属の役割を説明できる。		生化学II	医薬品無機・放射化学			薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
3) 代表的な酵素活性調節機構を説明できる。	基礎生物学	生化学II				薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
4) 酵素反応速度を測定し、解析できる。(技能)		生化学実習				
【④酵素以外のタンパク質】						
1) 膜輸送体の種類、構造、機能を説明できる。	生化学I	生化学II				薬学特別演習a/A
	基礎生物学					薬学特別演習b/B
2) 血漿リポタンパク質の種類、構造、機能を説明できる。		分子生物薬学				薬学特別演習a/A
		生化学II				薬学特別演習b/B
(4) 生命情報を担う遺伝子						
【①概論】						
1) 遺伝情報の保存と発現の流れを説明できる。	生化学I	分子生物薬学				薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
						ゲノム創薬特論 (選)
2) DNA、遺伝子、染色体、ゲノムとは何かを説明できる。	生化学I	分子生物薬学				薬学特別演習a/A
	基礎生物学					薬学特別演習b/B
						ゲノム創薬特論 (選)

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【②遺伝情報を担う分子】						
1) 染色体の構造 (ヌクレオソーム、クロマチン、セントロメア、テロメアなど) を説明できる。	基礎生物学	分子生物薬学				薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
						ゲノム創薬特論 (選)
2) 遺伝子の構造 (プロモーター、エンハンサー、エキソン、イントロンなど) を説明できる。	生化学I	分子生物薬学				薬学特別演習a/A
	基礎生物学					薬学特別演習b/B
						ゲノム創薬特論 (選)
3) RNA の種類 (hnRNA、mRNA、rRNA、tRNA など) と機能について説明できる。	生化学I	分子生物薬学				薬学特別演習a/A
	基礎生物学					薬学特別演習b/B
【③遺伝子の複製】						
1) DNA の複製の過程について説明できる。	生化学I	分子生物薬学				薬学特別演習a/A
	基礎生物学					薬学特別演習b/B
【④転写・翻訳の過程と調節】						
1) DNA から RNA への転写の過程について説明できる。	生化学I	分子生物薬学				薬学特別演習a/A
	基礎生物学					薬学特別演習b/B
						ゲノム創薬特論 (選)
2) エピジェネティックな転写制御について説明できる。	生化学I	分子生物薬学				薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
						ゲノム創薬特論 (選)
3) 転写因子による転写制御について説明できる。	生化学I	分子生物薬学				薬学特別演習a/A
	基礎生物学					薬学特別演習b/B
						ゲノム創薬特論 (選)
4) RNA のプロセッシング (キャップ構造、スプライシング、snRNP、ポリA鎖など) について説明できる。	生化学I	分子生物薬学				薬学特別演習a/A
	基礎生物学					薬学特別演習b/B
						ゲノム創薬特論 (選)
5) RNA からタンパク質への翻訳の過程について説明できる。	生化学I	分子生物薬学				薬学特別演習a/A
	基礎生物学					薬学特別演習b/B
						ゲノム創薬特論 (選)
【⑤遺伝子の変異・修復】						
1) DNA の変異と修復について説明できる。		分子生物薬学	医薬品毒性学			薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
						ゲノム創薬特論 (選)
【⑥組換え DNA】						
1) 遺伝子工学技術 (遺伝子クローニング、cDNA クローニング、PCR、組換えタンパク質発現法など) を概説できる。		分子生物薬学				薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
2) 遺伝子改変生物 (遺伝子導入・欠損動物、クローン動物、遺伝子組換え植物) について概説できる。		分子生物薬学				薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
(5) 生体エネルギーと生命活動を支える代謝系						
【① 概論】						
1) エネルギー代謝の概要を説明できる。	基礎生物学	生化学II				薬学特別演習a/A 薬学特別演習b/B
【②ATP の産生と糖質代謝】						
1) 解糖系及び乳酸の生成について説明できる。	基礎生物学	生化学II				薬学特別演習a/A 薬学特別演習b/B
2) クエン酸回路(TCA サイクル)について説明できる。	基礎生物学	生化学II				薬学特別演習a/A 薬学特別演習b/B
3) 電子伝達系(酸化的リン酸化)とATP合成酵素について説明できる。	基礎生物学	生化学II				薬学特別演習a/A 薬学特別演習b/B
4) グリコーゲンの代謝について説明できる。	基礎生物学	生化学II				薬学特別演習a/A 薬学特別演習b/B
5) 糖新生について説明できる。	基礎生物学	生化学II				薬学特別演習a/A 薬学特別演習b/B
【③脂質代謝】						
1) 脂肪酸の生合成と β 酸化について説明できる。	基礎生物学	生化学II				薬学特別演習a/A 薬学特別演習b/B
2) コレステロールの生合成と代謝について説明できる。		生化学II				薬学特別演習a/A 薬学特別演習b/B
【④飢餓状態と飽食状態】						
1) 飢餓状態のエネルギー代謝(ケトン体の利用など)について説明できる。	基礎生物学	生化学II				薬学特別演習a/A 薬学特別演習b/B
2) 余剰のエネルギーを蓄えるしくみを説明できる。	基礎生物学	生化学II				薬学特別演習a/A 薬学特別演習b/B
【⑤その他の代謝系】						
1) アミノ酸分子中の炭素および窒素の代謝(尿素回路など)について説明できる。		生化学II				薬学特別演習a/A 薬学特別演習b/B
2)ヌクレオチドの生合成と分解について説明できる。		生化学II				薬学特別演習a/A 薬学特別演習b/B
3) ペントースリン酸回路について説明できる。		生化学II				薬学特別演習a/A 薬学特別演習b/B
(6) 細胞間コミュニケーションと細胞内情報伝達						
【① 概論】						
1) 細胞間コミュニケーションにおける情報伝達様式を説明できる。	機能形態学 I	生化学II				薬学特別演習a/A 薬学特別演習b/B
【②細胞内情報伝達】						
1) 細胞膜チャネル内蔵型受容体を介する細胞内情報伝達について説明できる。	機能形態学 I	生化学II 薬理学I				薬学特別演習a/A 薬学特別演習b/B

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
2) 細胞膜受容体から G タンパク系を介する細胞内情報伝達について説明できる。	機能形態学II	生化学II				薬学特別演習a/A
	機能形態学 I	薬理学I				薬学特別演習b/B
3) 細胞膜受容体タンパク質などのリン酸化を介する細胞内情報伝達について説明できる。	機能形態学II	生化学II				薬学特別演習a/A
	機能形態学 I					薬学特別演習b/B
4) 細胞内情報伝達におけるセカンドメッセンジャーについて説明できる。	機能形態学II	生化学II				薬学特別演習a/A
	機能形態学 I					薬学特別演習b/B
5) 細胞内 (核内) 受容体を介する細胞内情報伝達について説明できる。	機能形態学II	生化学II				薬学特別演習a/A
	機能形態学 I					薬学特別演習b/B
【③細胞間コミュニケーション】						
1) 細胞間の接着構造、主な細胞接着分子の種類と特徴を説明できる。		分子生物薬学				薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
2) 主な細胞外マトリックス分子の種類と特徴を説明できる。		分子生物薬学				薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
(7) 細胞の分裂と死						
【①細胞分裂】						
1) 細胞周期とその制御機構について説明できる。		分子生物薬学				薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
2) 体細胞と生殖細胞の細胞分裂について説明できる。		分子生物薬学				薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
【②細胞死】						
1) 細胞死 (アポトーシスとネクローシス) について説明できる。		分子生物薬学	医薬品毒性学			薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
【③がん細胞】						
1) 正常細胞とがん細胞の違いについて説明できる。		分子生物薬学	臨床病理学			薬学特別演習a/A
		基礎病理学				薬学特別演習b/B
2) がん遺伝子とがん抑制遺伝子について概説できる。		分子生物薬学	臨床病理学	医療安全性学		薬学特別演習a/A
		基礎病理学				薬学特別演習b/B
C7 人体の成り立ちと生体機能の調節						
(1) 人体の成り立ち						
【①遺伝】						
1) 遺伝子と遺伝のしくみについて概説できる。		分子生物薬学				薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
2) 遺伝子多型について概説できる。		分子生物薬学				薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
3) 代表的な遺伝疾患を概説できる。		生化学II				薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
【②発生】						
1) 個体発生について概説できる。						薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
2) 細胞の分化における幹細胞、前駆細胞の役割について概説できる。		分子生物薬学				薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
【③器官系概論】						
1) 人体を構成する器官、器官系の名称、形態、体内での位置および機能を説明できる。	機能形態学 I					薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
2) 組織、器官を構成する代表的な細胞の種類 (上皮、内皮、間葉系など) を列挙し、形態的および機能的特徴を説明できる。	機能形態学 I					薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
3) 実験動物・人体模型・シミュレーターなどを用いて各種臓器の名称と位置を確認できる。(技能)		生化学実習				
4) 代表的な器官の組織や細胞を顕微鏡で観察できる。(技能)		生化学実習				
【④神経系】						
1) 中枢神経系について概説できる。	機能形態学 I					薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
2) 末梢 (体性・自律) 神経系について概説できる。	機能形態学 I					薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
【⑤骨格系・筋肉系】						
1) 骨、筋肉について概説できる。	機能形態学 I					薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
2) 代表的な骨格筋および関節の名称を挙げ、位置を示すことができる。						薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
【⑥皮膚】						
1) 皮膚について概説できる。	機能形態学 I					薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
【⑦循環器系】						
1) 心臓について概説できる。	基礎生物学					薬学特別演習a/A
	機能形態学 I					薬学特別演習b/B
2) 血管系について概説できる。	機能形態学II					薬学特別演習a/A
	基礎生物学					薬学特別演習b/B
	機能形態学 I					薬学特別演習a/A
	機能形態学II					薬学特別演習b/B
3) リンパ管系について概説できる。	基礎生物学					薬学特別演習a/A
	機能形態学 I					薬学特別演習b/B
【⑧呼吸器系】						
1) 肺、気管支について概説できる。	機能形態学II					薬学特別演習a/A
	基礎生物学					薬学特別演習b/B
【⑨消化器系】						
1) 胃、小腸、大腸などの消化管について概説できる。	機能形態学II					薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
2) 肝臓、膵臓、胆嚢について概説できる。	機能形態学II					薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【⑩泌尿器系】						
1) 泌尿器系について概説できる。	機能形態学II					薬学特別演習a/A
	基礎生物学					薬学特別演習b/B
【⑪生殖器系】						
1) 生殖器系について概説できる。	機能形態学II					薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
【⑫内分泌系】						
1) 内分泌系について概説できる。	機能形態学II					薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
【⑬感覚器系】						
1) 感覚器系について概説できる。	機能形態学 I					薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
【⑭血液・造血器系】						
1) 血液・造血器系について概説できる。	機能形態学II					薬学特別演習a/A
	機能形態学 I					薬学特別演習b/B
(2) 生体機能の調節						
【①神経による調節機構】						
1) 神経細胞の興奮と伝導、シナプス伝達の調節機構について説明できる。	機能形態学 I					薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
2) 代表的な神経伝達物質を挙げ、生理活性および作用機構について概説できる。	機能形態学 I					薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
3) 神経系、感覚器を介するホメオスタシスの調節機構の代表例を列挙し、概説できる。	機能形態学 I					薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
4) 神経による筋収縮の調節機構について説明できる。	機能形態学 I					薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
【②ホルモン・内分泌系による調節機構】						
1) 代表的なホルモンを挙げ、その産生器官、生理活性および作用機構について概説できる。	機能形態学II					薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
【③オータコイドによる調節機構】						
1) 代表的なオータコイドを挙げ、生理活性および作用機構について概説できる。	機能形態学II					薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
【④サイトカイン・増殖因子による調節機構】						
1) 代表的なサイトカイン、増殖因子を挙げ、生理活性および作用機構について概説できる。						薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
【⑤血圧の調節機構】						
1) 血圧の調節機構について概説できる。	基礎生物学					薬学特別演習a/A
	機能形態学 I					薬学特別演習b/B

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【⑥血糖の調節機構】						
1) 血糖の調節機構について概説できる。	機能形態学II					薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
【⑦体液の調節】						
1) 体液の調節機構について概説できる。	機能形態学II					薬学特別演習a/A
	基礎生物学					薬学特別演習b/B
2) 尿の生成機構、尿量の調節機構について概説できる。	機能形態学II					薬学特別演習a/A
	基礎生物学					薬学特別演習b/B
【⑧体温の調節】						
1) 体温の調節機構について概説できる。	機能形態学II					薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
【⑨血液凝固・線溶系】						
1) 血液凝固・線溶系の機構について概説できる。	機能形態学II					薬学特別演習a/A
	機能形態学 I					薬学特別演習b/B
【⑩性周期の調節】						
1) 性周期の調節機構について概説できる。	機能形態学II					薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
C8 生体防御と微生物						
(1) 身体をまもる						
【① 生体防御反応】						
1) 異物の侵入に対する物理的、生理的、化学的バリアー、および補体の役割について説明できる。	基礎生物学	免疫・感染症学				薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
2) 免疫反応の特徴（自己と非自己の識別、特異性、多様性、クローン性、記憶、寛容）を説明できる。	基礎生物学	免疫・感染症学				薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
3) 自然免疫と獲得免疫、および両者の関係を説明できる。	機能形態学II	免疫・感染症学				薬学特別演習a/A
	基礎生物学					薬学特別演習b/B
4) 体液性免疫と細胞性免疫について説明できる。	機能形態学II	免疫・感染症学				薬学特別演習a/A
	基礎生物学					薬学特別演習b/B
【②免疫を担当する組織・細胞】						
1) 免疫に関与する組織を列挙し、その役割を説明できる。	機能形態学II	免疫・感染症学				薬学特別演習a/A
	基礎生物学					薬学特別演習b/B
2) 免疫担当細胞の種類と役割を説明できる。	機能形態学II	免疫・感染症学				薬学特別演習a/A
	基礎生物学					薬学特別演習b/B
3) 免疫反応における主な細胞間ネットワークについて説明できる。	機能形態学II	免疫・感染症学				薬学特別演習a/A
	基礎生物学					薬学特別演習b/B
【③分子レベルで見た免疫のしくみ】						
1) 自然免疫および獲得免疫における異物の認識を比較して説明できる。	機能形態学II	免疫・感染症学				薬学特別演習a/A
	基礎生物学					薬学特別演習b/B

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
2) MHC 抗原の構造と機能および抗原提示での役割について説明できる。	機能形態学II	免疫・感染症学				薬学特別演習a/A
	基礎生物学					薬学特別演習b/B
3) T 細胞と B 細胞による抗原認識の多様性 (遺伝子再構成) と活性化について説明できる。	機能形態学II	免疫・感染症学				薬学特別演習a/A
	基礎生物学					薬学特別演習b/B
4) 抗体分子の基本構造、種類、役割を説明できる。	機能形態学II	免疫・感染症学				薬学特別演習a/A
	基礎生物学					薬学特別演習b/B
5) 免疫系に関わる主なサイトカインを挙げ、その作用を概説できる。	機能形態学II	免疫・感染症学				薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
(2) 免疫系の制御とその破綻・免疫系の応用						
【① 免疫応答の制御と破綻】						
1) 炎症の一般的症状、担当細胞および反応機構について説明できる。		免疫・感染症学	臨床病理学			薬学特別演習a/A
		基礎病理学				薬学特別演習b/B
2) アレルギーを分類し、担当細胞および反応機構について説明できる。		免疫・感染症学	臨床病理学			薬学特別演習a/A
		基礎病理学				薬学特別演習b/B
3) 自己免疫疾患と免疫不全症候群について概説できる。		免疫・感染症学	臨床病理学			薬学特別演習a/A
		基礎病理学				薬学特別演習b/B
4) 臓器移植と免疫反応の関わり (拒絶反応、免疫抑制剤など) について説明できる。		免疫・感染症学	臨床病理学			薬学特別演習a/A
		基礎病理学				薬学特別演習b/B
5) 感染症と免疫応答との関わりについて説明できる。		免疫・感染症学	臨床病理学			薬学特別演習a/A
		基礎病理学				薬学特別演習b/B
6) 腫瘍排除に関与する免疫反応について説明できる。		免疫・感染症学	臨床病理学			薬学特別演習a/A
		基礎病理学				薬学特別演習b/B
【② 免疫反応の利用】						
1) ワクチンの原理と種類 (生ワクチン、不活化ワクチン、トキソイド、混合ワクチンなど) について説明できる。		免疫・感染症学				薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
2) モノクローナル抗体とポリクローナル抗体について説明できる。		免疫・感染症学				薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
3) 血清療法と抗体医薬について概説できる。		免疫・感染症学				薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
4) 抗原抗体反応を利用した検査方法 (ELISA 法、ウエスタンブロット法など) を実施できる。(技能)		微生物学実習				
(3) 微生物の基本						
【① 総論】						
1) 原核生物、真核生物およびウイルスの特徴を説明できる。		微生物学				薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
【② 細菌】						
1) 細菌の分類や性質 (系統学的分類、グラム陽性菌と陰性菌、好気性菌と嫌気性菌など) を説明できる。		微生物学				薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
2) 細菌の構造と増殖機構について説明できる。		微生物学				薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
3) 細菌の異化作用 (呼吸と発酵) および同化作用について説明できる。		微生物学				薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
4) 細菌の遺伝子伝達 (接合、形質導入、形質転換) について説明できる。		微生物学				薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
5) 薬剤耐性菌および薬剤耐性化機構について概説できる。		微生物学				薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
6) 代表的な細菌毒素について説明できる。		微生物学				薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
【③ ウイルス】						
1) ウイルスの構造、分類、および増殖機構について説明できる。		微生物学				薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
【④ 真菌・原虫・蠕虫】						
1) 真菌の性状を概説できる。		微生物学				薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
2) 原虫および蠕虫の性状を概説できる。		微生物学				薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
【⑤ 消毒と滅菌】						
1) 滅菌、消毒および殺菌、静菌の概念を説明できる。		微生物学				薬学特別演習a/A
		微生物学実習				薬学特別演習b/B
2) 主な滅菌法および消毒法について説明できる。		微生物学				薬学特別演習a/A
		微生物学実習				薬学特別演習b/B
【⑥ 検出方法】						
1) グラム染色を実施できる。(技能)		微生物学実習				
2) 無菌操作を実施できる。(技能)		微生物学実習				
3) 代表的な細菌または真菌の分離培養、純培養を実施できる。(技能)		微生物学実習				
(4) 病原体としての微生物						
【①感染の成立と共生】						
1) 感染の成立 (感染源、感染経路、侵入門戸など) と共生 (腸内細菌など) について説明できる。		微生物学	臨床病理学			薬学特別演習a/A
		基礎病理学				薬学特別演習b/B
2) 日和見感染と院内感染について説明できる。		微生物学	臨床病理学			感染対策特論 (選)
		基礎病理学				薬学特別演習a/A
【②代表的な病原体】						
1) DNA ウイルス (ヒトヘルペスウイルス、アデノウイルス、パピローマウイルス、B 型肝炎ウイルスなど) について概説できる。		微生物学	臨床病理学			薬学特別演習a/A
		基礎病理学				薬学特別演習b/B
2) RNA ウイルス (ノロウイルス、ロタウイルス、ポリオウイルス、コクサッキーウイルス、エコーウイルス、ライノウイルス、A型肝炎ウイルス、C型肝炎ウイルス、インフルエンザウイルス、麻疹ウイルス、風疹ウイルス、日本脳炎ウイルス、狂犬病ウイルス、ムンプスウイルス、HIV、HTLV など) について概説できる。		微生物学	臨床病理学			薬学特別演習a/A
		基礎病理学				薬学特別演習b/B

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
3) グラム陽性球菌 (ブドウ球菌、レンサ球菌など) およびグラム陽性桿菌 (破傷風菌、ガス壊疽菌、ボツリヌス菌、ジフテリア菌、炭疽菌、セレウス菌、ディフィシル菌など) について概説できる。		微生物学	臨床病理学			薬学特別演習a/A
		基礎病理学				薬学特別演習b/B
4) グラム陰性球菌 (淋菌、髄膜炎菌など) およびグラム陰性桿菌 (大腸菌、赤痢菌、サルモネラ属菌、チフス菌、エルシニア属菌、クレブシエラ属菌、コレラ菌、百日咳菌、腸炎ビブリオ、緑膿菌、レジオネラ、インフルエンザ菌など) について概説できる。		微生物学	臨床病理学			薬学特別演習a/A
		基礎病理学				薬学特別演習b/B
5) グラム陰性らせん菌 (ヘリコバクター・ピロリ、カンピロバクター・ジェジュニ/コリなど) およびスピロヘータについて概説できる。		微生物学	臨床病理学			薬学特別演習a/A
		基礎病理学				薬学特別演習b/B
6) 抗酸菌 (結核菌、らい菌など) について概説できる。		微生物学	臨床病理学			薬学特別演習a/A
		基礎病理学				薬学特別演習b/B
7) マイコプラズマ、リケッチア、クラミジアについて概説できる。		微生物学	臨床病理学			薬学特別演習a/A
		基礎病理学				薬学特別演習b/B
8) 真菌 (アスペルギルス、クリプトコックス、カンジダ、ムーコル、白癬菌など) について概説できる。		微生物学	臨床病理学			薬学特別演習a/A
		基礎病理学				薬学特別演習b/B
9) 原虫 (マラリア原虫、トキソプラズマ、腔トリコモナス、クリプトスポリジウム、赤痢アメーバなど)、蠕虫 (回虫、鞭虫、アニサキス、エキノコックスなど) について概説できる。		微生物学	臨床病理学			薬学特別演習a/A
		基礎病理学				薬学特別演習b/B
D 衛生薬学						
D1 健康						
(1) 社会・集団と健康						
【①健康と疾病の概念】						
1) 健康と疾病の概念の変遷と、その理由を説明できる。		公衆衛生学				薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
【②保健統計】						
1) 集団の健康と疾病の現状およびその影響要因を把握する上での人口統計の意義を概説できる。		公衆衛生学				薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
2) 人口統計および傷病統計に関する指標について説明できる。		公衆衛生学				薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
3) 人口動態 (死因別死亡率など) の変遷について説明できる。		公衆衛生学				薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
【③疫学】						
1) 疾病の予防における疫学の役割を説明できる。		公衆衛生学				薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
2) 疫学の三要因 (病因、環境要因、宿主要因) について説明できる。		公衆衛生学				薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
3) 疫学の種類 (記述疫学、分析疫学など) とその方法について説明できる。		公衆衛生学				薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
4) リスク要因の評価として、オッズ比、相対危険度、寄与危険度および信頼区間について説明し、計算できる。(知識・技能)		公衆衛生学				薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
(2) 疾病の予防						
【①疾病の予防とは】						
1) 疾病の予防について、一次、二次、三次予防という言葉を用いて説明できる。		公衆衛生学				薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
2) 健康増進政策（健康日本21など）について概説できる。		公衆衛生学				薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
【②感染症とその予防】						
1) 現代における感染症（日和見感染、院内感染、新興感染症、再興感染症など）の特徴について説明できる。		公衆衛生学				薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
2) 感染症法における、感染症とその分類について説明できる。		公衆衛生学				薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
3) 代表的な性感染症を列挙し、その予防対策について説明できる。		公衆衛生学				薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
4) 予防接種の意義と方法について説明できる。		公衆衛生学				薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
【③生活習慣病とその予防】						
1) 生活習慣病の種類とその動向について説明できる。		公衆衛生学				薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
2) 生活習慣病の代表的なリスク要因を列挙し、その予防法について説明できる。		公衆衛生学				薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
3) 食生活や喫煙などの生活習慣と疾病の関わりについて討議する。（態度）		公衆衛生学				
【④母子保健】						
1) 新生児マスキリーニングの意義について説明し、代表的な検査項目を列挙できる。		公衆衛生学				薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
2) 母子感染する代表的な疾患を列挙し、その予防対策について説明できる。		公衆衛生学				薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
【⑤労働衛生】						
1) 代表的な労働災害、職業性疾病について説明できる。		公衆衛生学				薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
2) 労働衛生管理について説明できる。		公衆衛生学				薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
(3) 栄養と健康						
【①栄養】						
1) 五大栄養素を列挙し、それぞれの役割について説明できる。			食品衛生化学			薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
2) 各栄養素の消化、吸収、代謝のプロセスを概説できる。			食品衛生化学			薬学特別演習a/A
			衛生薬学実習			薬学特別演習b/B
3) 食品中の三大栄養素の栄養的な価値を説明できる。			食品衛生化学			薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
4) 五大栄養素以外の食品成分（食物繊維、抗酸化物質など）の機能について説明できる。			食品衛生化学			薬学特別演習a/A 薬学特別演習b/B
5) エネルギー代謝に関わる基礎代謝量、呼吸商、推定エネルギー必要量の意味を説明できる。			食品衛生化学			薬学特別演習a/A 薬学特別演習b/B
6) 日本人の食事摂取基準について説明できる。			食品衛生化学			薬学特別演習a/A 薬学特別演習b/B
7) 栄養素の過不足による主な疾病を列挙し、説明できる。			食品衛生化学			薬学特別演習a/A 薬学特別演習b/B
8) 疾病治療における栄養の重要性を説明できる。			食品衛生化学			薬学特別演習a/A 薬学特別演習b/B
【②食品機能と食品衛生】						
1) 炭水化物・タンパク質が変質する機構について説明できる。			食品衛生化学			薬学特別演習a/A 薬学特別演習b/B
2) 油脂が変敗する機構を説明し、油脂の変質試験を実施できる。（知識・技能）			食品衛生化学			
3) 食品の変質を防ぐ方法（保存法）を説明できる。			食品衛生化学			薬学特別演習a/A 薬学特別演習b/B
4) 食品成分由来の発がん性物質を列挙し、その生成機構を説明できる。			食品衛生化学			薬学特別演習a/A 薬学特別演習b/B
5) 代表的な食品添加物を用途別に列挙し、それらの働きを説明できる。			食品衛生化学 衛生薬学実習			薬学特別演習a/A 薬学特別演習b/B
6) 特別用途食品と保健機能食品について説明できる。			食品衛生化学			薬学特別演習a/A 薬学特別演習b/B
7) 食品衛生に関する法的規制について説明できる。			食品衛生化学			薬学特別演習a/A 薬学特別演習b/B
【③食中毒と食品汚染】						
1) 代表的な細菌性・ウイルス性食中毒を列挙し、それらの原因となる微生物の性質、症状、原因食品および予防方法について説明できる。			食品衛生化学			薬学特別演習a/A 薬学特別演習b/B
2) 食中毒の原因となる代表的な自然毒を列挙し、その原因物質、作用機構、症状の特徴を説明できる。			食品衛生化学 医薬品毒性学			薬学特別演習a/A 薬学特別演習b/B
3) 化学物質（重金属、残留農薬など）やカビによる食品汚染の具体例を挙げ、ヒトの健康に及ぼす影響を説明できる。			食品衛生化学			薬学特別演習a/A 薬学特別演習b/B
D2 環境						
(1) 化学物質・放射線の生体への影響						
【①化学物質の毒性】						
1) 代表的な有害化学物質の吸収、分布、代謝、排泄の基本的なプロセスについて説明できる。			衛生化学			薬学特別演習a/A 薬学特別演習b/B

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
2) 肝臓、腎臓、神経などに特異的に毒性を示す代表的な化学物質を列挙できる。			衛生化学			薬学特別演習a/A
			医薬品毒性学			薬学特別演習b/B
3) 重金属、PCB、ダイオキシンなどの代表的な有害化学物質や農薬の急性毒性、慢性毒性の特徴について説明できる。			衛生化学			薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
4) 重金属や活性酸素による障害を防ぐための生体防御因子について具体例を挙げて説明できる。			衛生化学			薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
5) 薬物の乱用による健康への影響について説明し、討議する。（知識・態度）			衛生化学			
6) 代表的な中毒原因物質の解毒処置法を説明できる。			衛生化学			薬学特別演習a/A
			医薬品毒性学			薬学特別演習b/B
7) 代表的な中毒原因物質（乱用薬物を含む）の試験法を列挙し、概説できる。			衛生化学			薬学特別演習a/A
			衛生薬学実習			薬学特別演習b/B
【②化学物質の安全性評価と適正使用】						
1) 個々の化学物質の使用目的に鑑み、適正使用とリスクコミュニケーションについて討議する。（態度）			衛生化学			
2) 化学物質の毒性を評価するための主な試験法を列挙し、概説できる。			衛生化学			薬学特別演習a/A
			医薬品毒性学			薬学特別演習b/B
3) 毒性試験の結果を評価するのに必要な量-反応関係、閾値、無毒性量（NOAEL）などについて概説できる。			衛生化学			薬学特別演習a/A
			医薬品毒性学			薬学特別演習b/B
4) 化学物質の安全摂取量（1日許容摂取量など）について説明できる。			衛生化学			薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
5) 有害化学物質による人体影響を防ぐための法的規制（化審法、化管法など）を説明できる。			衛生化学			薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
【③化学物質による発がん】						
1) 発がん性物質などの代謝的活性化の機構を列挙し、その反応機構を説明できる。			衛生化学			薬学特別演習a/A
			医薬品毒性学			薬学特別演習b/B
2) 遺伝毒性試験（Ames試験など）の原理を説明できる。			衛生化学	医療安全性学		薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
3) 発がんに至る過程（イニシエーション、プロモーションなど）について概説できる。			衛生化学	医療安全性学		薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
【④放射線の生体への影響】						
1) 電離放射線を列挙し、生体への影響を説明できる。			衛生化学			薬学特別演習a/A
			医薬品無機・放射化学			薬学特別演習b/B
2) 代表的な放射性核種（天然、人工）と生体との相互作用を説明できる。			衛生化学			薬学特別演習a/A
			医薬品無機・放射化学			薬学特別演習b/B
3) 電離放射線を防御する方法について概説できる。			衛生化学			薬学特別演習a/A
			医薬品無機・放射化学			薬学特別演習b/B
4) 非電離放射線（紫外線、赤外線など）を列挙し、生体への影響を説明できる。			衛生化学			薬学特別演習a/A
			医薬品無機・放射化学			薬学特別演習b/B

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
(2) 生活環境と健康						
【①地球環境と生態系】						
1) 地球規模の環境問題の成因、人に与える影響について説明できる。		環境衛生学				薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
2) 生態系の構成員を列挙し、その特徴と相互関係を説明できる。		環境衛生学				薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
3) 化学物質の環境内動態（生物濃縮など）について例を挙げて説明できる。		環境衛生学				薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
4) 地球環境の保全に関する国際的な取り組みについて説明できる。		環境衛生学				薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
5) 人が生態系の一員であることをふまえて環境問題を討議する。（態度）		環境衛生学				
【②環境保全と法的規制】						
1) 典型七公害とその現状、および四大公害について説明できる。		環境衛生学				薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
2) 環境基本法の理念を説明できる。		環境衛生学				薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
3) 環境汚染（大気汚染、水質汚濁、土壌汚染など）を防止するための法規制について説明できる。		環境衛生学				薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
【③水環境】						
1) 原水の種類を挙げ、特徴を説明できる。		環境衛生学				薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
2) 水の浄化法、塩素処理について説明できる。		環境衛生学				薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
3) 水道水の水質基準の主な項目を列挙し、測定できる。（知識・技能）		環境衛生学				
4) 下水処理および排水処理の主な方法について説明できる。		環境衛生学				薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
5) 水質汚濁の主な指標を列挙し、測定できる。（知識・技能）		環境衛生学	衛生薬学実習			
6) 富栄養化の原因とそれによってもたらされる問題点を挙げ、対策を説明できる。		環境衛生学				薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
【④大気環境】						
1) 主な大気汚染物質を列挙し、その推移と発生源、健康影響について説明できる。		環境衛生学				薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
2) 主な大気汚染物質を測定できる。（技能）		環境衛生学	衛生薬学実習			
3) 大気汚染に影響する気象要因（逆転層など）を概説できる。		環境衛生学				薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【⑤室内環境】						
1) 室内環境を評価するための代表的な指標を列挙し、測定できる。(知識・技能)		環境衛生学				
2) 室内環境と健康との関係について説明できる。		環境衛生学				薬学特別演習a/A 薬学特別演習b/B
【⑥廃棄物】						
1) 廃棄物の種類と処理方法を列挙できる。		環境衛生学				薬学特別演習a/A 薬学特別演習b/B
2) 廃棄物処理の問題点を列挙し、その対策を説明できる。		環境衛生学				薬学特別演習a/A 薬学特別演習b/B
3) マニフェスト制度について説明できる。		環境衛生学				薬学特別演習a/A 薬学特別演習b/B
E 医療薬学						
E1 薬の作用と体の変化						
(1) 薬の作用						
【①薬の作用】						
1) 薬の用量と作用の関係を説明できる。		薬理学I				薬学特別演習a/A 薬学特別演習b/B
2) アゴニスト(作用薬、作動薬、刺激薬)とアンタゴニスト(拮抗薬、遮断薬)について説明できる。		薬理学I				薬学特別演習a/A 薬学特別演習b/B
3) 薬物が作用するしくみについて、受容体、酵素、イオンチャネルおよびトランスポーターを例に挙げて説明できる。		薬理学I				薬学特別演習a/A 薬学特別演習b/B
4) 代表的な受容体を列挙し、刺激あるいは遮断された場合の生理反応を説明できる。		薬理学I				薬学特別演習a/A 薬学特別演習b/B
5) 薬物の作用発現に関連する代表的な細胞内情報伝達系を列挙し、活性化あるいは抑制された場合の生理反応を説明できる。(C6(6)【②細胞内情報伝達】1.~5.参照)		薬理学I				薬学特別演習a/A 薬学特別演習b/B
6) 薬物の体内動態(吸収、分布、代謝、排泄)と薬効発現の関わりについて説明できる。(E4(1)【②吸収】、【③分布】、【④代謝】、【⑤排泄】参照)						薬学特別演習a/A 薬学特別演習b/B
7) 薬物の選択(禁忌を含む)、用法、用量の変更が必要となる要因(年齢、疾病、妊娠等)について具体例を挙げて説明できる。						薬学特別演習a/A 薬学特別演習b/B
8) 薬理作用に由来する代表的な薬物相互作用を列挙し、その機序を説明できる。(E4(1)【②吸収】5.【④代謝】5.【⑤排泄】5.参照)						薬学特別演習a/A 薬学特別演習b/B
9) 薬物依存性、耐性について具体例を挙げて説明できる。						薬学特別演習a/A 薬学特別演習b/B
【②動物実験】						
1) 動物実験における倫理について配慮できる。(態度)						
2) 実験動物を適正に取り扱うことができる。(技能)						
3) 実験動物での代表的な投与方法が実施できる。(技能)						

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【③日本薬局方】						
1) 日本薬局方収載の生物学的定量法の特徴を説明できる。				日本薬局方概論		薬学特別演習a/A 薬学特別演習b/B
(2) 身体の病的変化を知る						
【①症候】						
1) 以下の症候・病態について、生じる原因とそれらを伴う代表的疾患を挙げ、患者情報をもとに疾患を推測できる。 ショック、高血圧、低血圧、発熱、けいれん、意識障害・失神、チアノーゼ、脱水、全身倦怠感、肥満・やせ、黄疸、発疹、貧血、出血傾向、リンパ節腫脹、浮腫、心悸亢進・動悸、胸水、胸痛、呼吸困難、咳・痰、血痰・咯血、めまい、頭痛、運動麻痺・不随意運動・筋力低下、腹痛、悪心・嘔吐、嚥下困難・障害、食欲不振、下痢・便秘、吐血・下血、腹部膨満（腹水を含む）、タンパク尿、血尿、尿量・排尿の異常、月経異常、関節痛・関節腫脹、腰背部痛、記憶障害、知覚異常（しびれを含む）・神経痛、視力障害、聴力障害			薬物治療学Ⅱ・Ⅲ	実務実習事前学習Ⅱ		薬学特別演習a/A
					薬物治療学実習	薬学特別演習b/B
【②病態・臨床検査】						
1) 尿検査および糞便検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。		病態生理学	薬物治療学Ⅱ・Ⅲ	実務実習事前学習Ⅰ		薬学特別演習a/A
				薬物治療学実習		薬学特別演習b/B
2) 血液検査、血液凝固機能検査および脳脊髄液検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。			薬物治療学Ⅱ・Ⅲ	実務実習事前学習Ⅰ		薬学特別演習a/A
				薬物治療学実習		薬学特別演習b/B
3) 血液生化学検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。		病態生理学	薬物治療学Ⅱ・Ⅲ	実務実習事前学習Ⅰ		薬学特別演習a/A
				薬物治療学実習		薬学特別演習b/B
4) 免疫学的検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。			薬物治療学Ⅱ・Ⅲ	実務実習事前学習Ⅰ		薬学特別演習a/A
				薬物治療学実習		薬学特別演習b/B
5) 動脈血ガス分析の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。			薬物治療学Ⅱ・Ⅲ	実務実習事前学習Ⅰ		薬学特別演習a/A
				薬物治療学実習		薬学特別演習b/B
6) 代表的な生理機能検査（心機能、腎機能、肝機能、呼吸機能等）、病理組織検査および画像検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。			薬物治療学Ⅱ・Ⅲ	実務実習事前学習Ⅰ		薬学特別演習a/A
				薬物治療学実習		薬学特別演習b/B
7) 代表的な微生物検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。						薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
8) 代表的なフィジカルアセスメントの検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。			薬物治療学Ⅱ・Ⅲ	実務実習事前学習Ⅰ		薬学特別演習a/A
				薬物治療学実習		薬学特別演習b/B
(3) 薬物治療の位置づけ						
1) 代表的な疾患における薬物治療、食事療法、その他の非薬物治療（外科手術など）の位置づけを説明できる。		薬物治療学Ⅰ	薬物治療学Ⅱ・Ⅲ	実務実習事前学習Ⅰ		薬学特別演習a/A
				薬物治療学実習		薬学特別演習b/B
2) 代表的な疾患における薬物治療の役割について、病態、薬効薬理、薬物動態に基づいて討議する。（知識・技能）		薬物治療学Ⅰ	薬物治療学Ⅱ・Ⅲ	実務実習事前学習Ⅰ		
				薬物治療学実習		
(4) 医薬品の安全性						
1) 薬物の主作用と副作用、毒性との関連について説明できる。		薬理学Ⅰ	臨床薬剤学Ⅰ			薬学特別演習a/A
			医薬品毒性学			薬学特別演習b/B
2) 薬物の副作用と有害事象の違いについて説明できる。		薬理学Ⅰ	医薬品毒性学			薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
3) 以下の障害を呈する代表的な副作用疾患について、推定される原因医薬品、身体所見、検査所見および対処方法を説明できる。 血液障害・電解質異常、肝障害、腎障害、消化器障害、循環器障害、精神障害、皮膚障害、呼吸器障害、薬物アレルギー（ショックを含む）、代謝障害、筋障害			調剤学Ⅱ	医療安全性学		薬学特別演習a/A
			臨床薬剤学Ⅰ			薬学特別演習b/B
4) 代表的薬害、薬物乱用について、健康リスクの観点から討議する。（態度）						
E2 薬理・病態・薬物治療						
(1) 神経系の疾患と薬						
【①自律神経系に作用する薬】						
1) 交感神経系に作用し、その支配器官の機能を修飾する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用を説明できる。		薬理学Ⅰ				薬剤管理指導特論（選）
						薬学特別演習a/A
2) 副交感神経系に作用し、その支配器官の機能を修飾する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用を説明できる。		薬理学Ⅱ				薬学特別演習b/B
						薬剤管理指導特論（選）
3) 神経節に作用する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用を説明できる。		薬理学Ⅰ				薬学特別演習a/A
						薬剤管理指導特論（選）
4) 自律神経系に作用する代表的な薬物の効果を動物実験で測定できる。（技能）		薬理学Ⅱ				薬学特別演習b/B
		薬理学実習				薬剤管理指導特論（選）
【②体性神経系に作用する薬・筋の疾患の薬、病態、治療】						
1) 知覚神経に作用する代表的な薬物（局所麻酔薬など）を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用を説明できる。		薬理学Ⅰ				薬学特別演習a/A
		薬理学Ⅱ				薬学特別演習b/B
2) 運動神経系に作用する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用を説明できる。		薬理学Ⅰ				薬学特別演習a/A
		薬理学Ⅱ				薬学特別演習b/B
3) 知覚神経、運動神経に作用する代表的な薬物の効果を動物実験で測定できる。（技能）		薬理学Ⅱ				
4) 以下の疾患について説明できる。 進行性筋ジストロフィー、Guillain-Barré（ギラン・バレー）症候群、重症筋無力症（重複）		薬理学Ⅰ				薬学特別演習a/A
		基礎病理学	臨床病理学			薬学特別演習b/B
【③中枢神経系の疾患の薬、病態、治療】						
1) 全身麻酔薬、催眠薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）および臨床適用を説明できる。		薬理学Ⅱ				薬剤管理指導特論（選）
						薬学特別演習a/A
2) 麻薬性鎮痛薬、非麻薬性鎮痛薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）および臨床適用（WHO三段階除痛ラダーを含む）を説明できる。						薬学特別演習b/B
		薬理学Ⅱ				薬剤管理指導特論（選）
3) 中枢興奮薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）および臨床適用を説明できる。			薬物治療学Ⅲ			薬学特別演習a/A
						薬剤管理指導特論（選）
4) 統合失調症について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。		薬理学Ⅱ	薬物治療学Ⅲ	臨床薬剤学Ⅱ		薬剤管理指導特論（選）
		病態生理学				薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
5) うつ病、躁うつ病(双極性障害)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。		薬理学Ⅱ	薬物治療学Ⅲ	臨床薬剤学Ⅱ		薬剤管理指導特論(選)
						薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
6) 不安神経症(パニック障害と全般性不安障害)、心身症、不眠症について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。		薬理学Ⅱ	薬物治療学Ⅲ	臨床薬剤学Ⅱ		薬剤管理指導特論(選)
		病態生理学				薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
7) てんかんについて、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。		薬理学Ⅱ	薬物治療学Ⅲ	臨床薬剤学Ⅱ		薬剤管理指導特論(選)
		病態生理学				薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
8) 脳血管疾患(脳内出血、脳梗塞(脳血栓、脳塞栓、一過性脳虚血)、くも膜下出血)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。		薬物治療学Ⅰ	臨床病理学	臨床薬剤学Ⅱ		薬剤管理指導特論(選)
		薬理学Ⅱ	薬物治療学Ⅲ			薬理学特論(選)
		基礎病理学				薬学特別演習a/A
9) Parkinson(パーキンソン)病について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。		薬理学Ⅱ	臨床病理学			薬剤管理指導特論(選)
		基礎病理学	薬物治療学Ⅲ			薬学特別演習a/A
		病態生理学				薬学特別演習b/B
10) 認知症(Alzheimer(アルツハイマー)型認知症、脳血管性認知症等)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。		薬物治療学Ⅰ	薬物治療学Ⅲ	臨床薬剤学Ⅱ		薬剤管理指導特論(選)
		薬理学Ⅱ				薬学特別演習a/A
		病態生理学				薬学特別演習b/B
11) 片頭痛について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)について説明できる。		薬理学Ⅱ	薬物治療学Ⅲ	実務実習事前学習Ⅱ		薬剤管理指導特論(選)
						薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
12) 中枢神経系に作用する薬物の効果を動物実験で測定できる。(技能)		薬理学実習	薬物治療学Ⅲ			薬剤管理指導特論(選)
13) 中枢神経系疾患の社会生活への影響および薬物治療の重要性について討議する。(態度)			薬物治療学Ⅲ			薬剤管理指導特論(選)
14) 以下の疾患について説明できる。 脳炎・髄膜炎(重複)、多発性硬化症(重複)、筋萎縮性側索硬化症、Narcolepsy(ナルコレプシー)、薬物依存症、アルコール依存症		基礎病理学	臨床病理学			薬剤管理指導特論(選)
						薬学特別演習a/A
		病態生理学	薬物治療学Ⅲ			薬学特別演習b/B
【④化学構造と薬効】						
1) 神経系の疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効(薬理・薬物動態)の関連を概説できる。						
(2) 免疫・炎症・アレルギーおよび骨・関節の疾患と薬						
【①抗炎症薬】						
1) 抗炎症薬(ステロイド性および非ステロイド性)および解熱性鎮痛薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および臨床適用を説明できる。		薬理学Ⅰ	薬理学Ⅲ			薬学特別演習a/A
			臨床薬剤学Ⅰ			薬学特別演習b/B
2) 抗炎症薬の作用機序に基づいて炎症について説明できる。		薬理学Ⅰ	薬理学Ⅲ			薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
3) 創傷治癒の過程について説明できる。	臨床医学概論	基礎病理学				薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【②免疫・炎症・アレルギー疾患の薬、病態、治療】						
1) アレルギー治療薬 (抗ヒスタミン薬、抗アレルギー薬等) の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用) および臨床適用を説明できる。	臨床医学概論		薬理学Ⅲ	臨床病態生化学		薬剤管理指導特論 (選)
			薬物治療学Ⅱ	薬物治療学実習		薬学特別演習a/A
			臨床薬剤学Ⅰ			薬学特別演習b/B
2) 免疫抑制薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用) および臨床適用を説明できる。			薬理学Ⅳ	臨床病態生化学		薬剤管理指導特論 (選)
			薬物治療学Ⅱ	実務実習事前学習Ⅱ		薬学特別演習a/A
			薬物治療学Ⅲ	薬物治療学実習		薬学特別演習b/B
3) 以下のアレルギー疾患について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 アトピー性皮膚炎、蕁麻疹、接触性皮膚炎、アレルギー性鼻炎、アレルギー性結膜炎、花粉症、消化管アレルギー、気管支喘息 (重複)		基礎病理学	臨床病理学	臨床病態生化学		薬剤管理指導特論 (選)
			薬物治療学Ⅱ	薬物治療学実習		薬学特別演習a/A
			臨床薬剤学Ⅰ			薬学特別演習b/B
4) 以下の薬物アレルギーについて、原因薬物、病態 (病態生理、症状等) および対処法を説明できる。 Stevens-Johnson (スティーブンス-ジョンソン) 症候群、中毒性表皮壊死症 (重複)、薬剤性過敏症症候群、薬疹		基礎病理学	臨床病理学	臨床病態生化学		薬剤管理指導特論 (選)
			薬物治療学Ⅱ	薬物治療学実習		薬学特別演習a/A
			調剤学Ⅱ	医療安全性学		薬学特別演習b/B
5) アナフィラキシーショックについて、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。		基礎病理学	薬理学Ⅱ	臨床病態生化学		薬剤管理指導特論 (選)
			臨床病理学	薬物治療学実習		薬学特別演習a/A
			薬物治療学Ⅱ			薬学特別演習b/B
6) 以下の疾患について、病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 尋常性乾癬、水疱症、光線過敏症、ペーチェット病		基礎病理学	臨床病理学	臨床病態生化学		薬剤管理指導特論 (選)
			薬物治療学Ⅱ			薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
7) 以下の臓器特異的自己免疫疾患について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 バセドウ病 (重複)、橋本病 (重複)、悪性貧血 (重複)、アジソン病、1型糖尿病 (重複)、重症筋無力症、多発性硬化症、特発性血小板減少性紫斑病、自己免疫性溶血性貧血 (重複)、シェーグレン症候群		基礎病理学	薬物治療学Ⅱ	臨床病態生化学		薬剤管理指導特論 (選)
		病態生理学				薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
8) 以下の全身性自己免疫疾患について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 全身性エリテマトーデス、強皮症、多発筋炎/皮膚筋炎、関節リウマチ (重複)			薬物治療学Ⅰ	臨床病理学	臨床病態生化学	薬剤管理指導特論 (選)
				薬物治療学Ⅱ		薬学特別演習a/A
		基礎病理学	臨床薬剤学Ⅰ			薬学特別演習b/B
9) 臓器移植 (腎臓、肝臓、骨髄、臍帯血、輸血) について、拒絶反応および移植片対宿主病 (GVHD) の病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。			薬物治療学Ⅰ	臨床病理学	臨床病態生化学	薬剤管理指導特論 (選)
				薬物治療学Ⅱ		薬学特別演習a/A
		基礎病理学	臨床薬剤学Ⅰ			薬学特別演習b/B
【③骨・関節・カルシウム代謝疾患の薬、病態、治療】						
1) 関節リウマチについて、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。		基礎病理学	薬理学Ⅲ	臨床病態生化学		薬剤管理指導特論 (選)
			薬理学Ⅳ			薬学特別演習a/A
			臨床病理学			薬学特別演習b/B
			薬物治療学Ⅲ			
			臨床薬剤学Ⅰ			
2) 骨粗鬆症について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。		基礎病理学	薬理学Ⅲ	実務実習事前学習Ⅱ		薬剤管理指導特論 (選)
			臨床病理学			
			薬物治療学Ⅲ			
			病態生化学Ⅰ・Ⅱ			

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
3) 変形性関節症について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。		基礎病理学	臨床病理学			薬剤管理指導特論（選）
			薬物治療学Ⅲ			
4) カルシウム代謝の異常を伴う疾患（副甲状腺機能亢進（低下）症、骨軟化症（くる病を含む）、悪性腫瘍に伴う高カルシウム血症）について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。		基礎病理学	薬理学Ⅲ			薬剤管理指導特論（選）
			臨床病理学			
			薬物治療学Ⅲ			
			病態生化学Ⅰ・Ⅱ			
【④化学構造と薬効】						
1) 免疫・炎症・アレルギー疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効（薬理・薬物動態）の関連を概説できる。			臨床薬剤学Ⅰ	臨床病態生化学		薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
（3）循環器系・血液系・造血器系・泌尿器系・生殖器系の疾患と薬						
【①循環器系疾患の薬、病態、治療】						
1) 以下の不整脈および関連疾患について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 不整脈の例示：上室性期外収縮（PAC）、心室性期外収縮（PVC）、心房細動（Af）、発作性上室頻拍（PSVT）、WPW症候群、心室頻拍（VT）、心室細動（Vf）、房室ブロック、QT延長症候群		薬理学Ⅱ	薬物治療学Ⅱ	臨床薬剤学Ⅱ		薬剤管理指導特論（選）
						薬学特別演習a/A
			病態生化学Ⅰ・Ⅱ	実務実習事前学習Ⅰ		薬学特別演習b/B
2) 急性および慢性心不全について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。		薬物治療学Ⅰ	薬物治療学Ⅱ	臨床薬剤学Ⅱ		薬剤管理指導特論（選）
						薬学特別演習a/A
		薬理学Ⅱ	病態生化学Ⅰ・Ⅱ	実務実習事前学習Ⅰ		薬学特別演習b/B
3) 虚血性心疾患（狭心症、心筋梗塞）について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。		薬物治療学Ⅰ	臨床病理学	臨床薬剤学Ⅱ		薬剤管理指導特論（選）
		薬理学Ⅱ	薬物治療学Ⅱ	実務実習事前学習Ⅰ		薬学特別演習a/A
		基礎病理学	病態生化学Ⅰ・Ⅱ	薬物治療学実習		薬学特別演習b/B
4) 以下の高血圧症について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 本態性高血圧症、二次性高血圧症（腎性高血圧症、腎血管性高血圧症を含む）		薬物治療学Ⅰ	臨床病理学	臨床薬剤学Ⅱ		薬剤管理指導特論（選）
		薬理学Ⅱ	薬物治療学Ⅱ			薬学特別演習a/A
		基礎病理学	病態生化学Ⅰ・Ⅱ			薬学特別演習b/B
5) 以下の疾患について概説できる。 閉塞性動脈硬化症（ASO）、心原性ショック、弁膜症、先天性心疾患		基礎病理学	臨床病理学			薬剤管理指導特論（選）
			薬物治療学Ⅱ			薬学特別演習a/A
			病態生化学Ⅰ・Ⅱ			薬学特別演習b/B
6) 循環器系に作用する薬物の効果を動物実験で測定できる。（技能）		薬理学実習				薬剤管理指導特論（選）
【②血液・造血器系疾患の薬、病態、治療】						
1) 止血薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）および臨床適用を説明できる。	臨床医学概論		薬理学Ⅳ	臨床薬剤学Ⅱ		薬剤管理指導特論（選）
			薬物治療学Ⅱ	処方解析学		薬学特別演習a/A
			薬物治療学Ⅲ			薬学特別演習b/B
			病態生化学Ⅰ・Ⅱ			
2) 抗血栓薬、抗凝固薬および血栓溶解薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）および臨床適用を説明できる。		病態生理学	薬理学Ⅳ	臨床薬剤学Ⅱ		薬剤管理指導特論（選）
			薬物治療学Ⅱ	処方解析学		薬学特別演習a/A
			薬物治療学Ⅲ			薬学特別演習b/B
			病態生化学Ⅰ・Ⅱ			
3) 以下の貧血について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 鉄欠乏性貧血、巨赤芽球性貧血（悪性貧血等）、再生不良性貧血、自己免疫性溶血性貧血（AIHA）、腎性貧血、鉄芽球性貧血		基礎病理学	臨床病理学	臨床薬剤学Ⅱ		薬剤管理指導特論（選）
		病態生理学	薬物治療学Ⅲ	処方解析学		薬学特別演習a/A
			病態生化学Ⅰ・Ⅱ			薬学特別演習b/B

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
4) 播種性血管内凝固症候群（DIC）について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。		基礎病理学	臨床病理学	臨床薬理学Ⅱ		薬剤管理指導特論（選）
		病態生理学	薬物治療学Ⅲ	処方解析学		薬学特別演習a/A
			病態生化学Ⅰ・Ⅱ			薬学特別演習b/B
5) 以下の疾患について治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 血友病、血栓性血小板減少性紫斑病（TTP）、白血球減少症、血栓塞栓症、白血病（重複）、悪性リンパ腫（重複） （E2（7）【⑧悪性腫瘍の薬、病態、治療】参照）		基礎病理学	臨床病理学	臨床薬理学Ⅱ		薬剤管理指導特論（選）
			薬物治療学Ⅲ	処方解析学		薬学特別演習a/A
			病態生化学Ⅰ・Ⅱ			薬学特別演習b/B
【③泌尿器系、生殖器系疾患の薬、病態、薬物治療】						
1) 利尿薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）および臨床適用を説明できる。		薬理学Ⅱ	薬理学Ⅲ	臨床薬理学Ⅱ		薬学特別演習a/A
				処方解析学		
		病態生理学	薬物治療学Ⅲ	薬物治療学実習		薬学特別演習b/B
2) 急性および慢性腎不全について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。		基礎病理学	臨床病理学	薬物治療学実習		薬学特別演習a/A
			薬物治療学Ⅲ	処方解析学		薬学特別演習b/B
3) ネフローゼ症候群について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。		基礎病理学	臨床病理学	処方解析学		薬学特別演習a/A
		病態生理学	薬物治療学Ⅲ			薬学特別演習b/B
4) 過活動膀胱および低活動膀胱について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。		薬理学Ⅱ	薬物治療学Ⅲ	処方解析学		薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
5) 以下の泌尿器系疾患について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 慢性腎臓病（CKD）、糸球体腎炎（重複）、糖尿病性腎症（重複）、薬剤性腎症（重複）、腎盂腎炎（重複）、膀胱炎（重複）、尿路感染症（重複）、尿路結石		基礎病理学	臨床病理学	処方解析学		薬学特別演習a/A
			薬物治療学Ⅲ			薬学特別演習b/B
			病態生化学Ⅰ・Ⅱ			
6) 以下の生殖器系疾患について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 前立腺肥大症、子宮内膜症、子宮筋腫		基礎病理学	臨床病理学	処方解析学		薬学特別演習a/A
			薬物治療学Ⅲ			薬学特別演習b/B
			病態生化学Ⅰ・Ⅱ			
7) 妊娠・分娩・避妊に関連して用いられる薬物について、薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。			薬理学Ⅲ	処方解析学		薬学特別演習a/A
			病態生化学Ⅰ・Ⅱ			薬学特別演習b/B
8) 以下の生殖器系疾患について説明できる。 異常妊娠、異常分娩、不妊症			病態生化学Ⅰ・Ⅱ	処方解析学		薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
【④化学構造と薬効】						
1) 循環系・泌尿器系・生殖器系疾患の疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効（薬理・薬物動態）の関連を概説できる。				処方解析学		薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
（4）呼吸器系・消化器系の疾患と薬						
【①呼吸器系疾患の薬、病態、治療】						
1) 気管支喘息について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。	臨床医学概論	基礎病理学	薬理学Ⅳ	臨床病態生化学		薬剤管理指導特論（選）
			臨床病理学	臨床薬理学Ⅱ		薬学特別演習a/A
			薬物治療学Ⅱ	薬物治療学実習		薬学特別演習b/B
2) 慢性閉塞性肺疾患および喫煙に関連する疾患（ニコチン依存症を含む）について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。	臨床医学概論	基礎病理学	薬理学Ⅳ	臨床病態生化学		薬剤管理指導特論（選）
		病態生理学	臨床病理学	臨床薬理学Ⅱ		薬学特別演習a/A
			薬物治療学Ⅱ	薬物治療学実習		薬学特別演習b/B

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
3) 間質性肺炎について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。	臨床医学概論	基礎病理学	臨床病理学			薬剤管理指導特論（選）
		病態生理学	薬物治療学Ⅱ			薬学特別演習a/A
			調剤学Ⅱ			薬学特別演習b/B
4) 鎮咳薬、去痰薬、呼吸興奮薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）および臨床適用を説明できる。			薬理学Ⅳ			薬剤管理指導特論（選）
			薬物治療学Ⅱ			薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
【②消化器系疾患の薬、病態、治療】						
1) 以下の上部消化器疾患について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 胃食道逆流症（逆流性食道炎を含む）、消化性潰瘍、胃炎		基礎病理学	薬理学Ⅳ	臨床薬剤学Ⅱ		薬剤管理指導特論（選）
			臨床病理学	処方解析学		薬理学特論（選）
			薬物治療学Ⅱ・Ⅲ			薬学特別演習a/A
			病態生化学Ⅰ・Ⅱ			薬学特別演習b/B
2) 炎症性腸疾患（潰瘍性大腸炎、クローン病等）について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。		基礎病理学	薬理学Ⅳ	臨床病態生化学		薬剤管理指導特論（選）
		病態生理学	臨床病理学	臨床薬剤学Ⅱ		薬学特別演習a/A
			薬物治療学Ⅲ	処方解析学		薬学特別演習b/B
			病態生化学Ⅰ・Ⅱ			
3) 肝疾患（肝炎、肝硬変（ウイルス性を含む）、薬剤性肝障害）について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。		基礎病理学	薬理学Ⅳ	薬物治療学実習		薬剤管理指導特論（選）
			臨床病理学	処方解析学		薬学特別演習a/A
			薬物治療学Ⅱ			薬学特別演習b/B
			病態生化学Ⅰ・Ⅱ			
4) 膵炎について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。		基礎病理学	薬理学Ⅳ	薬物治療学実習		薬剤管理指導特論（選）
			臨床病理学	処方解析学		薬学特別演習a/A
			薬物治療学Ⅱ			薬学特別演習b/B
			病態生化学Ⅰ・Ⅱ			
5) 胆道疾患（胆石症、胆道炎）について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。		基礎病理学	薬理学Ⅳ	薬物治療学実習		薬剤管理指導特論（選）
			臨床病理学	処方解析学		薬学特別演習a/A
			薬物治療学Ⅱ			薬学特別演習b/B
			病態生化学Ⅰ・Ⅱ			
6) 機能的消化管障害（過敏性腸症候群を含む）について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。		基礎病理学	薬理学Ⅳ	処方解析学		薬剤管理指導特論（選）
			臨床病理学			薬学特別演習a/A
			薬物治療学Ⅱ			薬学特別演習b/B
			病態生化学Ⅰ・Ⅱ			
7) 便秘・下痢について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。			薬理学Ⅳ	臨床薬剤学Ⅱ		薬剤管理指導特論（選）
			薬物治療学Ⅱ	処方解析学		薬学特別演習a/A
			病態生化学Ⅰ・Ⅱ	実務実習事前学習Ⅱ		薬学特別演習b/B
		病態生理学	薬理学Ⅳ	処方解析学		薬剤管理指導特論（選）
8) 悪心・嘔吐について、治療薬および関連薬物（催吐薬）の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。			薬物治療学Ⅱ・Ⅲ			薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
9) 病について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。		基礎病理学	薬理学Ⅳ	処方解析学		薬剤管理指導特論 (選)
			臨床病理学			薬学特別演習a/A
			薬物治療学Ⅱ			薬学特別演習b/B
【③化学構造と薬効】						
1) 呼吸器系・消化器系の疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効 (薬理・薬物動態) の関連を概説できる。				臨床薬理学Ⅱ		薬学特別演習a/A
				処方解析学		薬学特別演習b/B
(5) 代謝系・内分泌系の疾患と薬						
【①代謝系疾患の薬、病態、治療】						
1) 糖尿病とその合併症について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。		薬物治療学Ⅰ	薬理学Ⅲ			薬理学特論 (選)
		基礎病理学	臨床病理学			薬剤管理指導特論 (選)
			薬物治療学Ⅲ			薬学特別演習a/A
			病態生化学Ⅰ・Ⅱ			薬学特別演習b/B
2) 脂質異常症について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。		基礎病理学	薬理学Ⅲ			薬剤管理指導特論 (選)
			臨床病理学			薬学特別演習a/A
			薬物治療学Ⅲ			薬学特別演習b/B
			病態生化学Ⅰ・Ⅱ			
3) 高尿酸血症・痛風について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。		基礎病理学	薬理学Ⅲ			薬剤管理指導特論 (選)
			臨床病理学			薬学特別演習a/A
			薬物治療学Ⅲ			薬学特別演習b/B
			病態生化学Ⅰ・Ⅱ			
【②内分泌系疾患の薬、病態、治療】						
1) 性ホルモン関連薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用) および臨床適用を説明できる。			薬理学Ⅲ			薬剤管理指導特論 (選)
			薬物治療学Ⅲ			薬学特別演習a/A
			病態生化学Ⅰ・Ⅱ			薬学特別演習b/B
2) Basedow (バセドウ) 病について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。		基礎病理学	薬理学Ⅲ			薬剤管理指導特論 (選)
			臨床病理学			薬学特別演習a/A
			薬物治療学Ⅲ			薬学特別演習b/B
			病態生化学Ⅰ・Ⅱ			
3) 甲状腺炎 (慢性 (橋本病)、亜急性) について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。		基礎病理学	薬理学Ⅲ			薬剤管理指導特論 (選)
			臨床病理学			薬学特別演習a/A
			薬物治療学Ⅲ			薬学特別演習b/B
			病態生化学Ⅰ・Ⅱ			
4) 尿崩症について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。		基礎病理学	薬理学Ⅲ			薬学特別演習a/A
			臨床病理学			薬学特別演習b/B
			薬物治療学Ⅲ			
			病態生化学Ⅰ・Ⅱ			
5) 以下の疾患について説明できる。 先端巨大症、高プロラクチン血症、下垂体機能低下症、ADH不適合分泌症候群 (SIADH)、副甲状腺機能亢進症・低下症、Cushing (クッシング) 症候群、アルドステロン症、褐色細胞腫、副腎不全 (急性、慢性)、子宮内膜症 (重複)、アジソン病 (重複)		基礎病理学	薬理学Ⅲ			薬学特別演習a/A
			臨床病理学			薬学特別演習b/B
			薬物治療学Ⅲ			
			病態生化学Ⅰ・Ⅱ			

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【③化学構造と薬効】						
1) 代謝系・内分布系の疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効(薬理・薬物動態)の関連を概説できる。						薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
(6) 感覚器・皮膚の疾患と薬						
【①眼疾患の薬、病態、治療】						
1) 緑内障について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。		薬理学Ⅱ	薬理学Ⅳ	実務実習事前学習Ⅱ		薬学特別演習a/A
		基礎病理学	調剤学Ⅱ	処方解析学		薬学特別演習b/B
		病態生理学	臨床病理学			
			薬物治療学Ⅲ			
2) 白内障について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。		基礎病理学	薬理学Ⅳ	処方解析学		薬学特別演習a/A
			臨床病理学			薬学特別演習b/B
			薬物治療学Ⅲ			
3) 加齢性黄斑変性について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。			薬物治療学Ⅲ	処方解析学		薬学特別演習a/A
			病態生化学Ⅰ・Ⅱ			薬学特別演習b/B
4) 以下の疾患について概説できる。 結膜炎(重複)、網膜炎、ぶどう膜炎、網膜色素変性症			薬物治療学Ⅲ	処方解析学		薬学特別演習a/A
			病態生化学Ⅰ・Ⅱ			薬学特別演習b/B
【②耳鼻咽喉疾患の薬、病態、治療】						
1) めまい(動揺病、Meniere(メニエール)病等)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。		薬理学Ⅱ	臨床病理学	処方解析学		薬学特別演習a/A
			薬物治療学Ⅲ			薬学特別演習b/B
2) 以下の疾患について概説できる。 アレルギー性鼻炎(重複)、花粉症(重複)、副鼻腔炎(重複)、中耳炎(重複)、口内炎・咽頭炎・扁桃腺炎(重複)、喉頭蓋炎		基礎病理学	臨床薬剤学Ⅰ	実務実習事前学習Ⅱ		薬学特別演習a/A
			調剤学Ⅱ	処方解析学		薬学特別演習b/B
			臨床病理学			
			薬物治療学Ⅲ			
【③皮膚疾患の薬、病態、治療】						
1) アトピー性皮膚炎について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 (E2(2)【②免疫・炎症・アレルギーの薬、病態、治療】参照)		薬理学Ⅲ	薬理学Ⅳ	処方解析学		薬学特別演習a/A
		基礎病理学	臨床薬剤学Ⅰ			薬学特別演習b/B
			臨床病理学			
			薬物治療学Ⅲ			
2) 皮膚真菌症について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 (E2(7)【⑤真菌感染症の薬、病態、治療】参照)		基礎病理学	臨床薬剤学Ⅰ	処方解析学		薬学特別演習a/A
			臨床病理学			薬学特別演習b/B
			薬物治療学Ⅲ			
3) 褥瘡について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。		基礎病理学	臨床病理学	実務実習事前学習Ⅱ		薬学特別演習a/A
			薬物治療学Ⅲ	処方解析学		薬学特別演習b/B
4) 以下の疾患について概説できる。 蕁麻疹(重複)、薬疹(重複)、水疱症(重複)、乾癬(重複)、接触性皮膚炎(重複)、光線過敏症(重複)		基礎病理学	臨床薬剤学Ⅰ	実務実習事前学習Ⅱ		薬学特別演習a/A
			臨床病理学	処方解析学		薬学特別演習b/B
			薬物治療学Ⅲ			
【④化学構造と薬効】						
1) 感覚器・皮膚の疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効(薬理・薬物動態)の関連を概説できる。			調剤学Ⅱ	実務実習事前学習Ⅱ		薬学特別演習a/A
				処方解析学		薬学特別演習b/B

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
(7) 病原微生物 (感染症)・悪性新生物 (がん) と薬						
【①抗菌薬】						
1) 以下の抗菌薬の薬理 (薬理作用、機序、抗菌スペクトル、主な副作用、相互作用、組織移行性) および臨床適用を説明できる。 β-ラクタム系、テトラサイクリン系、マクロライド系、アミノ配糖体 (アミノグリコシド) 系、キノロン系、グリコペプチド系、抗結核薬、サルファ剤 (ST合剤を含む)、その他の抗菌薬		微生物学	臨床薬剤学 I			薬剤管理指導特論 (選)
		微生物学実習	薬物治療学Ⅲ			薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
2) 細菌感染症に関係する代表的な生物学的製剤 (ワクチン等) を挙げ、その作用機序を説明できる。		免疫・感染症学	薬物治療学Ⅲ			薬剤管理指導特論 (選)
						薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
【②抗菌薬の耐性】						
1) 主要な抗菌薬の耐性獲得機構および耐性菌出現への対応を説明できる。		微生物学	臨床薬剤学 I			薬学特別演習a/A
			薬物治療学Ⅲ			薬学特別演習b/B
【③細菌感染症の薬、病態、治療】						
1) 以下の呼吸器感染症について、病態 (病態生理、症状等)、感染経路と予防方法および薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 上気道炎 (かぜ症候群 (大部分がウイルス感染症) を含む)、気管支炎、扁桃炎、細菌性肺炎、肺結核、レジオネラ感染症、百日咳、マイコプラズマ肺炎		薬物治療学 I	臨床薬剤学 I			薬剤管理指導特論 (選)
		基礎病理学	臨床病理学			感染対策特論 (選)
			薬物治療学Ⅲ			薬学特別演習a/A
			病態生化学 I・II			薬学特別演習b/B
2) 以下の消化器感染症について、病態 (病態生理、症状等) および薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 急性虫垂炎、胆嚢炎、胆管炎、病原性大腸菌感染症、食中毒、ヘリコバクター・ピロリ感染症、赤痢、コレラ、腸チフス、パラチフス、偽膜性大腸炎		薬物治療学 I	臨床病理学	臨床薬剤学 II		薬剤管理指導特論 (選)
		基礎病理学	薬物治療学Ⅲ			薬学特別演習a/A
			病態生化学 I・II			薬学特別演習b/B
3) 以下の感覚器感染症について、病態 (病態生理、症状等) および薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 副鼻腔炎、中耳炎、結膜炎		薬物治療学 I	臨床病理学	実務実習事前学習 II		感染対策特論 (選)
		基礎病理学	薬物治療学Ⅲ			薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
4) 以下の尿路感染症について、病態 (病態生理、症状等) および薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 腎盂腎炎、膀胱炎、尿道炎		薬物治療学 I	臨床病理学			薬剤管理指導特論 (選)
		基礎病理学	薬物治療学Ⅲ			薬学特別演習a/A
			病態生化学 I・II			薬学特別演習b/B
5) 以下の性感染症について、病態 (病態生理、症状等)、予防方法および薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 梅毒、淋病、クラミジア症等		薬物治療学 I	臨床病理学			薬剤管理指導特論 (選)
		基礎病理学	薬物治療学Ⅲ			薬学特別演習a/A
			病態生化学 I・II			薬学特別演習b/B
6) 脳炎、髄膜炎について、病態 (病態生理、症状等) および薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。		薬物治療学 I	臨床病理学			薬剤管理指導特論 (選)
		基礎病理学	薬物治療学Ⅲ			感染対策特論 (選)
						薬学特別演習a/A
7) 以下の皮膚細菌感染症について、病態 (病態生理、症状等) および薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 伝染性膿痂疹、丹毒、癰、毛嚢炎、ハンセン病		薬物治療学 I	臨床病理学			薬剤管理指導特論 (選)
		基礎病理学	薬物治療学Ⅲ			薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
8) 感染性心内膜炎、胸膜炎について、病態 (病態生理、症状等) および薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。		薬物治療学 I	臨床病理学	実務実習事前学習 II		薬剤管理指導特論 (選)
		基礎病理学	薬物治療学Ⅲ			薬学特別演習a/A
			病態生化学 I・II			薬学特別演習b/B

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
9) 以下の薬剤耐性菌による院内感染について、感染経路と予防方法、病態（病態生理、症状等）および薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 MRSA、VRE、セラチア、緑膿菌等		薬物治療学Ⅰ	臨床薬剤学Ⅰ			薬剤管理指導特論（選）
						感染対策特論（選）
			薬物治療学Ⅲ			薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
10) 以下の全身性細菌感染症について、病態（病態生理、症状等）、感染経路と予防方法および薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 ジフテリア、劇症型A群β溶血性連鎖球菌感染症、新生児B群連鎖球菌感染症、破傷風、敗血症		薬物治療学Ⅰ	臨床病理学			薬剤管理指導特論（選）
		基礎病理学	薬物治療学Ⅲ			感染対策特論（選）
						薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
【④ウイルス感染症およびプリオン病の薬、病態、治療】						
1) ヘルペスウイルス感染症（単純ヘルペス、水痘・帯状疱疹）について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、予防方法および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。		薬物治療学Ⅰ	臨床薬剤学Ⅰ			薬学特別演習a/A
		基礎病理学	臨床病理学			薬学特別演習b/B
			薬物治療学Ⅲ			
2) サイトメガロウイルス感染症について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。		薬物治療学Ⅰ	臨床薬剤学Ⅰ			薬学特別演習a/A
		基礎病理学	臨床病理学			薬学特別演習b/B
			薬物治療学Ⅲ			
3) インフルエンザについて、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、感染経路と予防方法および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。		薬物治療学Ⅰ	臨床薬剤学Ⅰ			薬学特別演習a/A
			薬物治療学Ⅲ			薬学特別演習b/B
4) ウイルス性肝炎（HAV、HBV、HCV）について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、感染経路と予防方法および病態（病態生理（急性肝炎、慢性肝炎、肝硬変、肝細胞がん）、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。（重複）		薬物治療学Ⅰ	臨床病理学			薬学特別演習a/A
		基礎病理学	薬物治療学Ⅱ			薬学特別演習b/B
5) 後天性免疫不全症候群（AIDS）について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、感染経路と予防方法および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。		薬物治療学Ⅰ	臨床病理学			薬学特別演習a/A
		基礎病理学	薬物治療学Ⅲ			薬学特別演習b/B
6) 以下のウイルス感染症（プリオン病を含む）について、感染経路と予防方法および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 伝染性紅斑（リンゴ病）、手足口病、伝染性単核球症、突発性発疹、咽頭結膜熱、ウイルス性下痢症、麻疹、風疹、流行性耳下腺炎、風邪症候群、Creutzfeldt-Jakob（クロイツフェルト・ヤコブ）病		薬物治療学Ⅰ	臨床病理学			薬学特別演習a/A
		基礎病理学	薬物治療学Ⅲ			薬学特別演習b/B
【⑤真菌感染症の薬、病態、治療】						
1) 抗真菌薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）および臨床適用を説明できる。			臨床薬剤学Ⅰ			薬剤管理指導特論（選）
						薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
			薬物治療学Ⅲ			感染対策特論（選）
2) 以下の真菌感染症について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 皮膚真菌症、カンジダ症、ニューモシスチス肺炎、肺アスペルギルス症、クリプトコックス症		薬物治療学Ⅰ	臨床薬剤学Ⅰ			薬剤管理指導特論（選）
		基礎病理学	臨床病理学			薬学特別演習a/A
			薬物治療学Ⅲ			薬学特別演習b/B
			病態生化学Ⅰ・Ⅱ			感染対策特論（選）
【⑥原虫・寄生虫感染症の薬、病態、治療】						
1) 以下の原虫感染症について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 マラリア、トキソプラズマ症、トリコモナス症、アメーバ赤痢		基礎病理学	臨床病理学			薬学特別演習a/A
			病態生化学Ⅰ・Ⅱ			薬学特別演習b/B

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
2) 以下の寄生虫感染症について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 回虫症、蟯虫症、アニサキス症						薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
【⑦悪性腫瘍】						
1) 腫瘍の定義（良性腫瘍と悪性腫瘍の違い）を説明できる。	臨床医学概論	薬物治療学Ⅰ	臨床病理学	臨床病態生化学		薬学特別演習a/A
		基礎病理学	薬物治療学Ⅱ・Ⅲ			薬学特別演習b/B
2) 悪性腫瘍について、以下の項目を概説できる。 組織型分類および病期分類、悪性腫瘍の検査（細胞診、組織診、画像診断、腫瘍マーカー（腫瘍関連の変異遺伝子、遺伝子産物を含む））、悪性腫瘍の疫学（がん罹患の現状およびがん死亡の現状）、悪性腫瘍のリスクおよび予防要因	臨床医学概論	薬物治療学Ⅰ	臨床病理学	臨床病態生化学		薬学特別演習a/A
		基礎病理学	薬物治療学Ⅱ・Ⅲ			薬学特別演習b/B
3) 悪性腫瘍の治療における薬物治療の位置づけを概説できる。	臨床医学概論	薬物治療学Ⅰ	薬物治療学Ⅱ・Ⅲ	臨床病態生化学		薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
【⑧悪性腫瘍の薬、病態、治療】						
1) 以下の抗悪性腫瘍薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用、相互作用、組織移行性）および臨床適用を説明できる。 アルキル化薬、代謝拮抗薬、抗腫瘍抗生物質、微小管阻害薬、トポイソメラーゼ阻害薬、抗腫瘍ホルモン関連薬、白金製剤、分子標的治療薬、その他の抗悪性腫瘍薬	臨床医学概論		薬物治療学Ⅱ・Ⅲ	臨床病態生化学		薬剤管理指導特論（選）
						薬理学特論（選）
						薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
						ゲノム創薬特論（選）
2) 抗悪性腫瘍薬に対する耐性獲得機構を説明できる。	臨床医学概論		薬物治療学Ⅱ・Ⅲ	臨床病態生化学		薬剤管理指導特論（選）
						薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
						ゲノム創薬特論（選）
						薬剤管理指導特論（選）
3) 抗悪性腫瘍薬の主な副作用（下痢、悪心・嘔吐、白血球減少、皮膚障害（手足症候群を含む）、血小板減少等）の軽減のための対処法を説明できる。			薬物治療学Ⅱ・Ⅲ	臨床病態生化学		薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
						薬剤管理指導特論（選）
4) 代表的ながん化学療法レジメン（FOLFOX等）について、構成薬物およびその役割、副作用、対象疾患を概説できる。		薬物治療学Ⅰ	薬物治療学Ⅱ・Ⅲ	臨床病態生化学		薬剤管理指導特論（選）
						薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
5) 以下の白血病について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 急性（慢性）骨髄性白血病、急性（慢性）リンパ性白血病、成人T細胞白血病（ATL）		基礎病理学	臨床病理学	臨床病態生化学		薬剤管理指導特論（選）
			薬物治療学Ⅲ			薬学特別演習a/A
			病態生化学Ⅰ・Ⅱ			薬学特別演習b/B
6) 悪性リンパ腫および多発性骨髄腫について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。		基礎病理学	臨床病理学	臨床病態生化学		薬剤管理指導特論（選）
			薬物治療学Ⅲ			薬学特別演習a/A
			病態生化学Ⅰ・Ⅱ			薬学特別演習b/B
7) 骨肉腫について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。		基礎病理学	臨床病理学			薬学特別演習a/A
			薬物治療学Ⅲ			薬学特別演習b/B
						薬剤管理指導特論（選）
8) 以下の消化器系の悪性腫瘍について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 胃癌、食道癌、肝癌、大腸癌、胆嚢・胆管癌、膵癌		基礎病理学	臨床病理学	臨床病態生化学		薬剤管理指導特論（選）
			薬物治療学Ⅱ・Ⅲ			薬学特別演習a/A
			病態生化学Ⅰ・Ⅱ			薬学特別演習b/B

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
9) 肺癌について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。		基礎病理学	臨床病理学	臨床病態生化学		薬剤管理指導特論（選）
			薬物治療学Ⅲ			薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
10) 以下の頭頸部および感覚器の悪性腫瘍について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 脳腫瘍、網膜芽細胞腫、喉頭、咽頭、鼻腔・副鼻腔、口腔の悪性腫瘍		基礎病理学	臨床病理学			薬剤管理指導特論（選）
			薬物治療学Ⅲ			薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
11) 以下の生殖器の悪性腫瘍について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 前立腺癌、子宮癌、卵巣癌		基礎病理学	臨床病理学			薬剤管理指導特論（選）
			薬物治療学Ⅱ・Ⅲ			薬学特別演習a/A
			病態生化学Ⅰ・Ⅱ			薬学特別演習b/B
12) 腎・尿路系の悪性腫瘍（腎癌、膀胱癌）について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。		基礎病理学	臨床病理学			薬剤管理指導特論（選）
			薬物治療学Ⅲ			薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
13) 乳癌について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。		基礎病理学	臨床病理学			薬剤管理指導特論（選）
			薬物治療学Ⅱ			薬学特別演習a/A
			病態生化学Ⅰ・Ⅱ			薬学特別演習b/B
【⑨がん終末期医療と緩和ケア】						
1) がん終末期の病態（病態生理、症状等）と治療を説明できる。			薬物治療学Ⅲ	処方提案論		薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
2) がん性疼痛の病態（病態生理、症状等）と薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。			薬物治療学Ⅲ	処方提案論		薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
【⑩化学構造と薬効】						
1) 病原微生物・悪性新生物が関わる疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効（薬理・薬物動態）の関連を概説できる。						薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
（8）バイオ・細胞医薬品とゲノム情報						
【①組換え体医薬品】						
1) 組換え体医薬品の特色と有用性を説明できる。	臨床医学概論		薬物治療学Ⅱ・Ⅲ	臨床病態生化学		薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
2) 代表的な組換え体医薬品を列挙できる。	臨床医学概論		薬物治療学Ⅱ・Ⅲ	臨床病態生化学		薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
3) 組換え体医薬品の安全性について概説できる。	臨床医学概論		薬物治療学Ⅱ・Ⅲ	臨床病態生化学		薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
【②遺伝子治療】						
1) 遺伝子治療の原理、方法と手順、現状、および倫理的問題点を概説できる。（知識・態度）	臨床医学概論					ゲノム創薬特論（選）
【③細胞、組織を利用した移植医療】						
1) 移植医療の原理、方法と手順、現状およびゲノム情報の取り扱いに関する倫理的問題点を概説できる。（知識・態度）			薬物治療学Ⅱ	臨床病態生化学		
			薬物治療学Ⅱ	臨床病態生化学		薬学特別演習a/A
2) 摘出および培養組織を用いた移植医療について説明できる。						薬学特別演習b/B

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
3) 臍帯血、末梢血および骨髄に由来する血液幹細胞を用いた移植医療について説明できる。			薬物治療学Ⅱ	臨床病態生化学		薬学特別演習a/A
			病態生化学Ⅰ・Ⅱ			薬学特別演習b/B
4) 胚性幹細胞（ES細胞）、人工多能性幹細胞（iPS細胞）を用いた細胞移植医療について概説できる。	臨床薬学概論		薬物治療学Ⅱ	臨床病態生化学		薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
(9) 要指導医薬品・一般用医薬品とセルフメディケーション						
1) 地域における疾病予防、健康維持増進、セルフメディケーションのために薬剤師が果たす役割を概説できる。		調剤学Ⅰ		実務実習事前学習Ⅱ		薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
2) 要指導医薬品および一般用医薬品（リスクの程度に応じた区分（第一類、第二類、第三類）も含む）について説明し、各分類に含まれる代表的な製剤を挙げる。		調剤学Ⅰ				薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
3) 代表的な症候について、関連する頻度の高い疾患、見逃してはいけない疾患を挙げる。		調剤学Ⅰ				薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
4) 要指導医薬品・一般用医薬品の選択、受診勧奨の要否を判断するために必要な患者情報を収集できる。（技能）						薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
5) 以下の疾患・症候に対するセルフメディケーションに用いる要指導医薬品・一般用医薬品等に含まれる成分・作用・副作用を挙げる。 発熱、痛み、かゆみ、消化器症状、呼吸器症状、アレルギー、細菌・真菌感染症、生活習慣病 等		調剤学Ⅰ				薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
6) 主な養生法（運動・食事療法、サプリメント、保健機能食品を含む）とその健康の保持・促進における意義を説明できる。		調剤学Ⅰ				薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
7) 要指導医薬品・一般用医薬品と医療用医薬品、サプリメント、保健機能食品等との代表的な相互作用を説明できる。		調剤学Ⅰ				薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
8) 要指導医薬品・一般用医薬品等による治療効果と副作用を判定するための情報を収集し評価できる。（技能）						
(10) 医療の中の漢方薬						
【①漢方薬の基礎】						
1) 漢方の特徴について概説できる。						東洋医学特論（選）
						薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
2) 以下の漢方の基本用語を説明できる。 陰陽、虚実、寒熱、表裏、気血水、証						東洋医学特論（選）
						薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
3) 配合生薬の組み合わせによる漢方薬の系統的な分類が説明できる。		生薬学実習				東洋医学特論（選）
						薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
4) 漢方薬と西洋薬、民間薬、サプリメント、保健機能食品などの相違について説明できる。						東洋医学特論（選）
						薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
【②漢方薬の応用】						
1) 漢方医学における診断法、体質や病態の捉え方、治療法について概説できる。						東洋医学特論（選）
						薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
2) 日本薬局方に収載される漢方薬の適応となる証、症状や疾患について例示して説明できる。		生薬学実習				東洋医学特論（選）
						薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
3) 現代医療における漢方薬の役割について説明できる。						東洋医学特論（選）
						薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
【③漢方薬の注意点】						
1) 漢方薬の副作用と使用上の注意点を例示して説明できる。						東洋医学特論（選）
						薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
(11) 薬物治療の最適化						
【①総合演習】						
1) 代表的な疾患の症例について、患者情報および医薬品情報などの情報に基づいて薬物治療の最適化を討議する。（知識・態度）						
2) 過剰量の医薬品による副作用への対応（解毒薬を含む）を討議する。（知識・態度）						
3) 長期療養に付随する合併症を列挙し、その薬物治療について討議する。（知識・態度）						
E3 薬物治療に役立つ情報						
(1) 医薬品情報						
【①情報】						
1) 医薬品を使用したり取り扱う上で、必須の医薬品情報を列挙できる。				薬業経済学		薬学特別演習a/A
				医薬品情報学		薬学特別演習b/B
2) 医薬品情報に関わっている職種を列挙し、その役割について概説できる。				薬業経済学		薬学特別演習a/A
				医薬品情報学		薬学特別演習b/B
3) 医薬品（後発医薬品等を含む）の開発過程で行われる試験（非臨床試験、臨床試験、安定性試験等）と得られる医薬品情報について概説できる。	医療安全性学			薬業経済学		薬学特別演習a/A
				医薬品情報学		薬学特別演習b/B
4) 医薬品の市販後に行われる調査・試験と得られる医薬品情報について概説できる。	医療安全性学			薬業経済学		薬学特別演習a/A
				医薬品情報学		薬学特別演習b/B
5) 医薬品情報に関係する代表的な法律・制度（「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」、GCP、GVP、GPSP、RMP など）とレギュラトリーサイエンスについて概説できる。	医療安全性学			薬業経済学		薬学特別演習a/A
				医薬品情報学		薬学特別演習b/B
【②情報源】						
1) 医薬品情報源の一次資料、二次資料、三次資料の分類について概説できる。				薬業経済学		薬学特別演習a/A
				医薬品情報学		薬学特別演習b/B
2) 医薬品情報源として代表的な二次資料、三次資料を列挙し、それらの特徴について説明できる。				薬業経済学		薬学特別演習a/A
				医薬品情報学		薬学特別演習b/B
3) 厚生労働省、医薬品医療機器総合機構、製薬企業などの発行する資料を列挙し、概説できる。				薬業経済学		薬学特別演習a/A
				医薬品情報学		薬学特別演習b/B
4) 医薬品添付文書（医療用、一般用）の法的位置づけについて説明できる。				薬業経済学		薬学特別演習a/A
				医薬品情報学		薬学特別演習b/B

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
5) 医薬品添付文書（医療用、一般用）の記載項目（警告、禁忌、効能・効果、用法・用量、使用上の注意など）を列挙し、それらの意味や記載すべき内容について説明できる。			調剤学Ⅱ	薬業経済学		薬学特別演習a/A
				医薬品情報学		薬学特別演習b/B
6) 医薬品インタビューフォームの位置づけと医薬品添付文書との違いについて説明できる。				薬業経済学		薬学特別演習a/A
				医薬品情報学		薬学特別演習b/B
【③収集・評価・加工・提供・管理】						
1) 目的（効能効果、副作用、相互作用、薬剤鑑別、妊婦への投与、中毒など）に合った適切な情報源を選択し、必要な情報を検索、収集できる。（技能）				薬業経済学		
				医薬品情報学		
2) MEDLINEなどの医学・薬学文献データベース検索におけるキーワード、シソーラスの重要性を理解し、検索できる。（知識・技能）				薬業経済学		
				医薬品情報学		
3) 医薬品情報の信頼性、科学的妥当性などを評価する際に必要な基本的項目を列挙できる。				薬業経済学		薬学特別演習a/A
				医薬品情報学		薬学特別演習b/B
4) 臨床試験などの原著論文および三次資料について医薬品情報の質を評価できる。（技能）				薬業経済学		
				医薬品情報学		
5) 医薬品情報をニーズに合わせて加工・提供し管理する際の方法と注意点（知的所有権、守秘義務など）について説明できる。				薬業経済学		薬学特別演習a/A
				医薬品情報学		薬学特別演習b/B
【④EBM (Evidence-based Medicine)】						
1) EBMの基本概念と実践のプロセスについて説明できる。				薬業経済学		薬学特別演習a/A
				医薬品情報学		薬学特別演習b/B
2) 代表的な臨床研究法（ランダム化比較試験、コホート研究、ケースコントロール研究など）の長所と短所を挙げ、それらのエビデンスレベルについて概説できる。				薬業経済学		薬学特別演習a/A
				医薬品情報学		薬学特別演習b/B
3) 臨床研究論文の批判的吟味に必要な基本的項目を列挙し、内的妥当性（研究結果の正確度や再現性）と外的妥当性（研究結果の一般化の可能性）について概説できる。（E3 (1) 【③収集・評価・加工・提供・管理】参照）				薬業経済学		薬学特別演習a/A
				医薬品情報学		薬学特別演習b/B
4) メタアナリシスの概念を理解し、結果を説明できる。				薬業経済学		薬学特別演習a/A
				医薬品情報学		薬学特別演習b/B
【⑤生物統計】						
1) 臨床研究における基本的な統計量（平均値、中央値、標準偏差、標準誤差、信頼区間など）の意味と違いを説明できる。	生物統計学	病態生理学	医薬品毒性学			薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
2) 帰無仮説の概念および検定と推定の違いを説明できる。	生物統計学	病態生理学	医薬品毒性学			薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
3) 代表的な分布（正規分布、t分布、二項分布、ポアソン分布、 χ^2 分布、F分布）について概説できる。	生物統計学	病態生理学	医薬品毒性学			薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
4) 主なパラメトリック検定とノンパラメトリック検定を列挙し、それらの使い分けを説明できる。	生物統計学					薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
5) 二群間の差の検定（t検定、 χ^2 検定など）を実施できる。（技能）	生物統計学	病態生理学	医薬品毒性学			薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
6) 主な回帰分析（直線回帰、ロジスティック回帰など）と相関係数の検定について概説できる。	生物統計学					薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
7) 基本的な生存時間解析法（カプラン・マイヤー曲線など）について概説できる。	生物統計学		医薬品毒性学			薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【⑥臨床研究デザインと解析】						
1) 臨床研究（治験を含む）の代表的な手法（介入研究、観察研究）を列挙し、それらの特徴を概説できる。	生物統計学			医薬品情報学		薬学特別演習a/A 薬学特別演習b/B
2) 臨床研究におけるバイアス・交絡について概説できる。	生物統計学			医薬品情報学		薬学特別演習a/A 薬学特別演習b/B
3) 観察研究での主な疫学研究デザイン（症例報告、症例集積、コホート研究、ケースコントロール研究、ネステッドケースコントロール研究、ケースコホート研究など）について概説できる。	生物統計学			医薬品情報学		薬学特別演習a/A 薬学特別演習b/B
4) 副作用の因果関係を評価するための方法（副作用判定アルゴリズムなど）について概説できる。	生物統計学					薬学特別演習a/A 薬学特別演習b/B
5) 優越性試験と非劣性試験の違いについて説明できる。	生物統計学					薬学特別演習a/A 薬学特別演習b/B
6) 介入研究の計画上の技法（症例数設定、ランダム化、盲検化など）について概説できる。	生物統計学			医薬品情報学		薬学特別演習a/A 薬学特別演習b/B
7) 統計解析時の注意点について概説できる。	生物統計学					薬学特別演習a/A 薬学特別演習b/B
8) 介入研究の効果指標（真のエンドポイントと代替のエンドポイント、主要エンドポイントと副次的エンドポイント）の違いを、例を挙げて説明できる。	生物統計学			医薬品情報学		薬学特別演習a/A 薬学特別演習b/B
9) 臨床研究の結果（有効性、安全性）の主なパラメータ（相対リスク、相対リスク減少、絶対リスク、絶対リスク減少、治療必要数、オッズ比、発生率、発生割合）を説明し、計算できる。（知識・技能）	生物統計学			医薬品情報学		薬学特別演習a/A 薬学特別演習b/B
【⑦医薬品の比較・評価】						
1) 病院や薬局において医薬品を採用・選択する際に検討すべき項目を列挙し、その意義を説明できる。						薬学特別演習a/A 薬学特別演習b/B
2) 医薬品情報にもとづいて、代表的な同種同効薬の有効性や安全性について比較・評価できる。（技能）						薬学特別演習a/A 薬学特別演習b/B
3) 医薬品情報にもとづいて、先発医薬品と後発医薬品の品質、安全性、経済性などについて、比較・評価できる。（技能）						薬学特別演習a/A 薬学特別演習b/B
(2) 患者情報						
【①情報と情報源】						
1) 薬物治療に必要な患者基本情報を列挙できる。				医薬品情報学		薬学特別演習a/A 薬学特別演習b/B
2) 患者情報源の種類を列挙し、それぞれの違いを説明できる。				医薬品情報学		薬学特別演習a/A 薬学特別演習b/B
【②収集・評価・管理】						
1) 問題志向型システム (POS) を説明できる。				医薬品情報学		薬学特別演習a/A 薬学特別演習b/B
2) SOAP形式などの患者情報の記録方法について説明できる。				医薬品情報学		薬学特別演習a/A 薬学特別演習b/B
3) 医薬品の効果や副作用を評価するために必要な患者情報について概説できる。				医薬品情報学		薬学特別演習a/A 薬学特別演習b/B

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
4) 患者情報の取扱いにおける守秘義務と管理の重要性を説明できる。 (A (2) 【③患者の権利】参照)				医薬品情報学		薬学特別演習a/A 薬学特別演習b/B
(3) 個別化医療						
【①遺伝的要因】						
1) 薬物の主作用および副作用に影響する代表的な遺伝的要因について、例を挙げて説明できる。						個別化医療特論 (選) 薬学特別演習a/A 薬学特別演習b/B
2) 薬物動態に影響する代表的な遺伝的要因 (薬物代謝酵素・トランスポーターの遺伝子変異など) について、例を挙げて説明できる。						個別化医療特論 (選) 薬学特別演習a/A 薬学特別演習b/B
3) 遺伝的要因を考慮した薬物治療について、例を挙げて説明できる。						個別化医療特論 (選) 薬学特別演習a/A 薬学特別演習b/B
【②年齢的要因】						
1) 低出生体重児、新生児、乳児、幼児、小児における薬物動態と、薬物治療で注意すべき点を説明できる。						個別化医療特論 (選) 薬学特別演習a/A 薬学特別演習b/B
2) 高齢者における薬物動態と、薬物治療で注意すべき点を説明できる。			調剤学Ⅱ			個別化医療特論 (選) 薬学特別演習a/A 薬学特別演習b/B
【③臓器機能低下】						
1) 腎疾患・腎機能低下時における薬物動態と、薬物治療・投与設計において注意すべき点を説明できる。			調剤学Ⅱ			個別化医療特論 (選) 薬学特別演習a/A 薬学特別演習b/B
2) 肝疾患・肝機能低下時における薬物動態と、薬物治療・投与設計において注意すべき点を説明できる。						個別化医療特論 (選) 薬学特別演習a/A 薬学特別演習b/B
3) 心臓疾患を伴った患者における薬物動態と、薬物治療・投与設計において注意すべき点を説明できる。						個別化医療特論 (選) 薬学特別演習a/A 薬学特別演習b/B
【④その他の要因】						
1) 薬物の効果に影響する生理的要因 (性差、閉経、日内変動など) を列挙できる。						個別化医療特論 (選) 薬学特別演習a/A 薬学特別演習b/B
2) 妊娠・授乳期における薬物動態と、生殖・妊娠・授乳期の薬物治療で注意すべき点を説明できる。						個別化医療特論 (選) 薬学特別演習a/A 薬学特別演習b/B
3) 栄養状態の異なる患者 (肥満、低アルブミン血症、腹水など) における薬物動態と、薬物治療で注意すべき点を説明できる。						個別化医療特論 (選) 薬学特別演習a/A 薬学特別演習b/B

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【⑤個別化医療の計画・立案】						
1) 個別の患者情報 (遺伝的素因、年齢的要因、臓器機能など) と医薬品情報をもとに、薬物治療を計画・立案できる。(技能)						個別化医療特論 (選)
						個別化医療特論 (選)
2) コンパニオン診断にもとづく薬物治療について、例を挙げて説明できる。						薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
E4 薬の生体内運命						
(1) 薬物の体内動態						
【①生体膜透過】						
1) 薬物の生体膜透過における単純拡散、促進拡散および能動輸送の特徴を説明できる。		薬物動態学 I	薬剤学実習			実践薬剤学特論 (選)
						薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
2) 薬物の生体膜透過に関わるトランスポーターの例を挙げ、その特徴と薬物動態における役割を説明できる。		薬物動態学 I	薬剤学実習			実践薬剤学特論 (選)
						薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
【②吸収】						
1) 経口投与された薬物の吸収について説明できる。		薬物動態学 I	薬剤学実習			実践薬剤学特論 (選)
						薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
2) 非経口的に投与される薬物の吸収について説明できる。		薬物動態学 I	薬剤学実習			実践薬剤学特論 (選)
						薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
3) 薬物の吸収に影響する因子 (薬物の物性、生理学的要因など) を列挙し、説明できる。		薬物動態学 I	薬剤学実習			薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
4) 薬物の吸収過程における相互作用について例を挙げ、説明できる。		薬物動態学 I	薬剤学実習			薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
5) 初回通過効果について説明できる。		薬物動態学 I	薬剤学実習			薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
【③分布】						
1) 薬物が結合する代表的な血漿タンパク質を挙げ、タンパク結合の強い薬物を列挙できる。		薬物動態学 I	薬剤学実習			実践薬剤学特論 (選)
						薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
2) 薬物の組織移行性 (分布容積) と血漿タンパク結合ならびに組織結合との関係を、定量的に説明できる。		薬物動態学 I	薬剤学実習			実践薬剤学特論 (選)
						薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
3) 薬物のタンパク結合および結合阻害の測定・解析方法を説明できる。		薬物動態学 I	薬剤学実習			薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
4) 血液-組織関門の構造・機能と、薬物の脳や胎児等への移行について説明できる。		薬物動態学 I	薬剤学実習			薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
5) 薬物のリンパおよび乳汁中への移行について説明できる。		薬物動態学 I	薬剤学実習			薬学特別演習 a/A
						薬学特別演習 b/B
6) 薬物の分布過程における相互作用について例を挙げ、説明できる。		薬物動態学 I	薬剤学実習			実践薬剤学特論 (選)
						薬学特別演習 a/A
						薬学特別演習 b/B
【④代謝】						
1) 代表的な薬物代謝酵素を列挙し、その代謝反応が起こる組織ならびに細胞内小器官、反応様式について説明できる。		薬物動態学 I	薬剤学実習			薬学特別演習 a/A
						薬学特別演習 b/B
2) 薬物代謝の第 I 相反応 (酸化・還元・加水分解)、第 II 相反応 (抱合) について、例を挙げて説明できる。		薬物動態学 I	薬剤学実習			薬学特別演習 a/A
						薬学特別演習 b/B
3) 代表的な薬物代謝酵素 (分子種) により代謝される薬物を列挙できる。		薬物動態学 I	薬剤学実習			薬学特別演習 a/A
						薬学特別演習 b/B
4) プロドラッグと活性代謝物について、例を挙げて説明できる。		薬物動態学 I	薬剤学実習			薬学特別演習 a/A
						薬学特別演習 b/B
5) 薬物代謝酵素の阻害および誘導のメカニズムと、それらに関連して起こる相互作用について、例を挙げ、説明できる。		薬物動態学 I	薬剤学実習			実践薬剤学特論 (選)
						薬学特別演習 a/A
						薬学特別演習 b/B
【⑤排泄】						
1) 薬物の尿中排泄機構について説明できる。		薬物動態学 I	薬剤学実習			実践薬剤学特論 (選)
						薬学特別演習 a/A
						薬学特別演習 b/B
2) 腎クリアランスと、糸球体ろ過、分泌、再吸収の関係を定量的に説明できる。		薬物動態学 I	薬剤学実習			実践薬剤学特論 (選)
						薬学特別演習 a/A
						薬学特別演習 b/B
3) 代表的な腎排泄型薬物を列挙できる。		薬物動態学 I	薬剤学実習			薬学特別演習 a/A
						薬学特別演習 b/B
4) 薬物の胆汁中排泄と腸肝循環について説明できる。		薬物動態学 I	薬剤学実習			薬学特別演習 a/A
						薬学特別演習 b/B
5) 薬物の排泄過程における相互作用について例を挙げ、説明できる。		薬物動態学 I	薬剤学実習			実践薬剤学特論 (選)
						薬学特別演習 a/A
						薬学特別演習 b/B
(2) 薬物動態の解析						
【①薬物速度論】						
1) 線形コンパートメントモデルと、関連する薬物動態パラメータ (全身クリアランス、分布容積、消失半減期、生物学的利用能など) の概念を説明できる。		薬物動態学 I	薬物動態学 II			実践薬剤学特論 (選)
			薬剤学実習			薬学特別演習 a/A
						薬学特別演習 b/B
2) 線形 1-コンパートメントモデルに基づいた解析ができる (急速静注・経口投与 [単回および反復投与]、定速静注)。(知識、技能)		薬物動態学 I	薬物動態学 II			実践薬剤学特論 (選)
			薬剤学実習			薬学特別演習 a/A
						薬学特別演習 b/B

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
3) 体内動態が非線形性を示す薬物の例を挙げ、非線形モデルに基づいた解析ができる。(知識、技能)			薬物動態学Ⅱ			薬学特別演習a/A
			薬剤学実習			薬学特別演習b/B
4) モーメント解析の意味と、関連するパラメータの計算法について説明できる。			薬物動態学Ⅱ			薬学特別演習a/A
			薬剤学実習			薬学特別演習b/B
5) 組織クリアランス(肝、腎)および固有クリアランスの意味と、それらの関係について、数式を使って説明できる。			薬物動態学Ⅱ			実践薬剤学特論(選)
			薬剤学実習			薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
6) 薬物動態学-薬力学解析(PK-PD解析)について概説できる。			薬物動態学Ⅱ			薬学特別演習a/A
			臨床薬剤学Ⅰ			薬学特別演習b/B
【②TDM (Therapeutic Drug Monitoring) と投与設計】						
1) 治療薬物モニタリング(TDM)の意義を説明し、TDMが有効な薬物を列挙できる。			薬物動態学Ⅱ	実務実習事前学習Ⅱ		薬学特別演習a/A
			臨床薬剤学Ⅰ			薬学特別演習b/B
2) TDMを行う際の採血ポイント、試料の取り扱い、測定法について説明できる。			薬物動態学Ⅱ	実務実習事前学習Ⅱ		薬学特別演習a/A
			臨床薬剤学Ⅰ			薬学特別演習b/B
3) 薬物動態パラメータを用いて患者ごとの薬物投与設計ができる。(知識、技能)			薬物動態学Ⅱ	実務実習事前学習Ⅱ		薬学特別演習a/A
			臨床薬剤学Ⅰ			薬学特別演習b/B
4) ポピュレーションファーマコキネティクスの概念と応用について概説できる。			薬物動態学Ⅱ	実務実習事前学習Ⅱ		薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
E5 製剤化のサイエンス						
(1) 製剤の性質						
【①固形材料】						
1) 粉体の性質について説明できる。			製剤学			薬学特別演習a/A
			薬剤学実習			薬学特別演習b/B
2) 結晶(安定形および準安定形)や非晶質、無水物や水和物の性質について説明できる。		生命物理化学Ⅱ	製剤学			薬学特別演習a/A
			薬剤学実習			薬学特別演習b/B
3) 固形材料の溶解現象(溶解度、溶解平衡など)や溶解した物質の拡散と溶解速度について説明できる。 (C2(2)【①酸・塩基平衡】1.及び【②各種の化学平衡】2.参照)		生命物理化学Ⅱ	製剤学			薬学特別演習a/A
			薬剤学実習			薬学特別演習b/B
4) 固形材料の溶解に影響を及ぼす因子(pHや温度など)について説明できる。	生命物理化学Ⅰ		製剤学			薬学特別演習a/A
			薬剤学実習			薬学特別演習b/B
5) 固形材料の溶解度や溶解速度を高める代表的な製剤的手法を列挙し、説明できる。			製剤学			薬学特別演習a/A
			薬剤学実習			薬学特別演習b/B
【②半固形・液状材料】						
1) 流動と変形(レオロジー)について説明できる。		生命物理化学Ⅱ	製剤学			薬学特別演習a/A
			薬剤学実習			薬学特別演習b/B
2) 高分子の構造と高分子溶液の性質(粘度など)について説明できる。			製剤学			
【③分散系材料】						
1) 界面の性質(界面張力、分配平衡、吸着など)や代表的な界面活性剤の種類と性質について説明できる。 (C2(2)【②各種の化学平衡】4.参照)		生命物理化学Ⅱ	製剤学			薬学特別演習a/A
			薬剤学実習			薬学特別演習b/B

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
2) 代表的な分散系(分子集合体、コロイド、乳剤、懸濁剤など)を列挙し、その性質について説明できる。		生命物理化学 II	製剤学			薬学特別演習a/A
			薬剤学実習			薬学特別演習b/B
3) 分散した粒子の安定性と分離現象(沈降など)について説明できる。		生命物理化学 II	製剤学			薬学特別演習a/A
			薬剤学実習			薬学特別演習b/B
4) 分散安定性を高める代表的な製剤的手法を列挙し、説明できる。			製剤学			薬学特別演習a/A
			薬剤学実習			薬学特別演習b/B
【④薬物及び製剤材料の物性】						
1) 製剤分野で汎用される高分子の構造を理解し、その物性について説明できる。			製剤学			薬学特別演習a/A
			薬剤学実習			薬学特別演習b/B
2) 薬物の安定性(反応速度、複合反応など)や安定性に影響を及ぼす因子(pH、温度など)について説明できる。 (C1 (3) 【①反応速度】1.~7.参照)			製剤学			薬学特別演習a/A
			薬剤学実習			薬学特別演習b/B
3) 薬物の安定性を高める代表的な製剤的手法を列挙し、説明できる。			製剤学			薬学特別演習a/A
			薬剤学実習			薬学特別演習b/B
(2) 製剤設計						
【①代表的な製剤】						
1) 製剤化の概要と意義について説明できる。			製剤学			薬学特別演習a/A
			薬剤学実習			薬学特別演習b/B
2) 経口投与する製剤の種類とその特性について説明できる。			製剤学	日本薬局方概論		薬学特別演習a/A
			薬剤学実習			薬学特別演習b/B
3) 粘膜に適用する製剤(点眼剤、吸入剤など)の種類とその特性について説明できる。			製剤学	日本薬局方概論		薬学特別演習a/A
			薬剤学実習			薬学特別演習b/B
4) 注射により投与する製剤の種類とその特性について説明できる。			製剤学	日本薬局方概論		薬学特別演習a/A
			薬剤学実習			薬学特別演習b/B
5) 皮膚に適用する製剤の種類とその特性について説明できる。			製剤学	日本薬局方概論		薬学特別演習a/A
			薬剤学実習			薬学特別演習b/B
6) その他の製剤(生薬関連製剤、透析に用いる製剤など)の種類と特性について説明できる。			製剤学	日本薬局方概論		薬学特別演習a/A
			薬剤学実習			薬学特別演習b/B
【②製剤化と製剤試験法】						
1) 代表的な医薬品添加物の種類・用途・性質について説明できる。			製剤学	日本薬局方概論		薬学特別演習a/A
			薬剤学実習			薬学特別演習b/B
2) 製剤化の単位操作、汎用される製剤機械および代表的な製剤の具体的な製造工程について説明できる。			製剤学			薬学特別演習a/A
			薬剤学実習			薬学特別演習b/B
3) 汎用される容器、包装の種類や特徴について説明できる。			製剤学	日本薬局方概論		薬学特別演習a/A
			薬剤学実習			薬学特別演習b/B
4) 製剤に関連する試験法を列挙し、説明できる。			製剤学	日本薬局方概論		薬学特別演習a/A
			薬剤学実習			薬学特別演習b/B
【③生物学的同等性】						
1) 製剤の特性(適用部位、製剤からの薬物の放出性など)を理解した上で、生物学的同等性について説明できる。			製剤学	日本薬局方概論		薬学特別演習a/A
			薬物動態学 II			薬学特別演習b/B

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
(3) DDS (Drug Delivery System: 薬物送達システム)						
【①DDS の必要性】						
1) DDSの概念と有用性について説明できる。			製剤学			薬学特別演習a/A
			薬物動態学Ⅱ			薬学特別演習b/B
2) 代表的なDDS技術を列挙し、説明できる。 (プロドラッグについては、E4(1)【④代謝】4.も参照)			薬剤学実習			薬学特別演習a/A
			薬物動態学Ⅱ			薬学特別演習b/B
【②コントロールドリリース（放出制御）】						
1) コントロールドリリースの概要と意義について説明できる。			薬剤学実習			薬学特別演習a/A
			薬物動態学Ⅱ			薬学特別演習b/B
2) 投与部位ごとに、代表的なコントロールドリリース技術を列挙し、その特性について説明できる。			薬剤学実習			薬学特別演習a/A
			薬物動態学Ⅱ			薬学特別演習b/B
3) コントロールドリリース技術を適用した代表的な医薬品を列挙できる。			薬剤学実習			薬学特別演習a/A
			薬物動態学Ⅱ			薬学特別演習b/B
【③ターゲティング（標的指向化）】						
1) ターゲティングの概要と意義について説明できる。			製剤学			薬学特別演習a/A
			薬剤学実習			薬学特別演習b/B
2) 投与部位ごとに、代表的なターゲティング技術を列挙し、その特性について説明できる。			製剤学			薬学特別演習a/A
			薬剤学実習			薬学特別演習b/B
3) ターゲティング技術を適用した代表的な医薬品を列挙できる。			製剤学			薬学特別演習a/A
			薬剤学実習			薬学特別演習b/B
【④吸収改善】						
1) 吸収改善の概要と意義について説明できる。			製剤学			薬学特別演習a/A
			薬剤学実習			薬学特別演習b/B
2) 投与部位ごとに、代表的な吸収改善技術を列挙し、その特性について説明できる。			製剤学			薬学特別演習a/A
			薬剤学実習			薬学特別演習b/B
3) 吸収改善技術を適用した代表的な医薬品を列挙できる。			製剤学			薬学特別演習a/A
			薬剤学実習			薬学特別演習b/B
F 薬学臨床 前) : 病院・薬局での実務実習履修前に修得すべき事項						
(1) 薬学臨床の基礎						
【①早期臨床体験】 ※原則として 2年次修了までに学習する事項						
1) 患者・生活者の視点に立って、様々な薬剤師の業務を見聞し、その体験から薬剤師業務の重要性について討議する。(知識・態度)	早期体験学習Ⅰ	調剤学Ⅰ		薬局管理学		
2) 地域の保健・福祉を見聞した具体的体験に基づきその重要性や課題を討議する。(知識・態度)	早期体験学習Ⅰ	調剤学Ⅰ		薬局管理学		
3) 一次救命処置(心肺蘇生、外傷対応等)を説明し、シミュレータを用いて実施できる。(知識・技能)	早期体験学習Ⅰ			薬局管理学		

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【②臨床における心構え】 [A（1）、（2）参照]						
1）前）医療の担い手が守るべき倫理規範や法令について討議する。（態度）	臨床薬学概論	調剤学 I		実務実習事前学習 I		
				薬局管理学		
2）前）患者・生活者中心の医療の視点から患者・生活者の個人情報や自己決定権に配慮すべき個々の対応ができる。（態度）	臨床薬学概論	調剤学 I		実務実習事前学習 I		
				薬局管理学		
3）前）患者・生活者の健康の回復と維持、生活の質の向上に薬剤師が積極的に貢献することの重要性を討議する。（態度）	臨床薬学概論	調剤学 I		実務実習事前学習 I		
				薬局管理学		
4）医療の担い手が守るべき倫理規範を遵守し、ふさわしい態度で行動する。（態度）	臨床医学概論	調剤学 I		実務実習事前学習 I	薬局実務実習	
				薬局管理学	病院実務実習	
5）患者・生活者の基本的権利、自己決定権について配慮する。（態度）		調剤学 I		実務実習事前学習 I	薬局実務実習・病院実務実習	
				薬局管理学		
6）薬学的管理を実施する際に、インフォームド・コンセントを得ることができる。（態度）		調剤学 I		実務実習事前学習 I	薬局実務実習・病院実務実習	
				薬局管理学		
7）職務上知り得た情報について守秘義務を遵守する。（態度）		調剤学 I		実務実習事前学習 I	薬局実務実習・病院実務実習	
				薬局管理学		
【③臨床実習の基礎】						
1）前）病院・薬局における薬剤師業務全体の流れを概説できる。				実務実習事前学習 I		薬学特別演習a/A
				薬局管理学		薬学特別演習b/B
2）前）病院・薬局で薬剤師が実践する薬学的管理の重要性について説明できる。				実務実習事前学習 I		薬学特別演習a/A
				薬局管理学		薬学特別演習b/B
3）前）病院薬剤師部門を構成する各セクションの業務を列挙し、その内容と関連を概説できる。				実務実習事前学習 I		薬学特別演習a/A
				薬局管理学		薬学特別演習b/B
4）前）病院に所属する医療スタッフの職種名を列挙し、その業務内容を相互に関連づけて説明できる。				実務実習事前学習 I		薬学特別演習a/A
				薬局管理学		薬学特別演習b/B
5）前）薬剤師の関わる社会保障制度（医療、福祉、介護）の概略を説明できる。 [B（3）①参照]	看護・介護学概論			実務実習事前学習 I		薬学特別演習a/A
				薬局管理学		薬学特別演習b/B
6）病院における薬剤師部門の位置づけと業務の流れについて他部門と関連付けて説明できる。				実務実習事前学習 I	病院実務実習	薬学特別演習a/A
				薬局管理学		薬学特別演習b/B
7）代表的な疾患の入院治療における適切な薬学的管理について説明できる。				実務実習事前学習 I	病院実務実習	薬学特別演習a/A
				薬局管理学		薬学特別演習b/B
8）入院から退院に至るまで入院患者の医療に継続して関わることができる。（態度）				実務実習事前学習 I	病院実務実習	
				薬局管理学		
9）急性期医療（救急医療・集中治療・外傷治療等）や周術期医療における適切な薬学的管理について説明できる。				実務実習事前学習 I	病院実務実習	薬学特別演習a/A
				薬局管理学		薬学特別演習b/B
10）周産期医療や小児医療における適切な薬学的管理について説明できる。				実務実習事前学習 I	病院実務実習	薬学特別演習a/A
				薬局管理学		薬学特別演習b/B
11）終末期医療や緩和ケアにおける適切な薬学的管理について説明できる。				実務実習事前学習 I	病院実務実習	薬学特別演習a/A
				薬局管理学		薬学特別演習b/B

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
12) 外来化学療法における適切な薬学的管理について説明できる。				実務実習事前学習Ⅰ	病院実務実習	薬学特別演習a/A
				薬局管理学		薬学特別演習b/B
13) 保険評価要件を薬剤師業務と関連付けて概説することができる。				実務実習事前学習Ⅰ	薬局実務実習	薬学特別演習a/A
				薬局管理学		薬学特別演習b/B
14) 薬局における薬剤師業務の流れを相互に関連付けて説明できる。				実務実習事前学習Ⅰ	薬局実務実習	薬学特別演習a/A
				薬局管理学		薬学特別演習b/B
15) 来局者の調剤に対して、処方せんの受付から薬剤の交付に至るまで継続して関わることができる。（知識・態度）				実務実習事前学習Ⅰ	薬局実務実習	
				薬局管理学		
(2) 処方せんに基づく調剤						
【①法令・規則等の理解と遵守】 [B(2)、(3)参照]						
1) 前) 調剤業務に関わる事項（処方せん、調剤録、疑義照会等）の意義や取り扱いを法的根拠に基づいて説明できる。		調剤学Ⅰ	調剤学Ⅱ	模擬病院・薬局実習	薬局実務実習	薬学特別演習a/A
				薬局管理学	病院実務実習	薬学特別演習b/B
2) 調剤業務に関わる法的文書（処方せん、調剤録等）の適切な記載と保存・管理ができる。（知識・技能）		調剤学Ⅰ	調剤学Ⅱ	模擬病院・薬局実習	薬局実務実習	
				薬局管理学		
3) 法的根拠に基づき、一連の調剤業務を適正に実施する。（技能・態度）		調剤学Ⅰ	調剤学Ⅱ	模擬病院・薬局実習	病院実務実習	
				薬局管理学		
4) 保険薬局として必要な条件や設備等を具体的に関連付けて説明できる。		調剤学Ⅰ		模擬病院・薬局実習	薬局実務実習	薬学特別演習a/A
				薬局管理学		薬学特別演習b/B
【②処方せんと疑義照会】						
1) 前) 代表的な疾患に使用される医薬品について効能・効果、用法・用量、警告・禁忌、副作用、相互作用を列挙できる。		薬物動態学Ⅰ	薬物動態学Ⅰ	模擬病院・薬局実習	薬局実務実習	薬学特別演習a/A
		調剤学Ⅰ	調剤学Ⅱ	薬局管理学	病院実務実習	薬学特別演習b/B
2) 前) 処方オーダーリングシステムおよび電子カルテについて概説できる。			調剤学Ⅱ	薬業経済学	薬局実務実習	薬学特別演習a/A
				薬局管理学	病院実務実習	薬学特別演習b/B
3) 前) 処方せんの様式と必要記載事項、記載方法について説明できる。			調剤学Ⅱ	模擬病院・薬局実習	薬局実務実習	薬学特別演習a/A
				薬局管理学	病院実務実習	薬学特別演習b/B
4) 前) 処方せんの監査の意義、その必要性と注意点について説明できる。			調剤学Ⅱ	模擬病院・薬局実習	薬局実務実習	薬学特別演習a/A
				薬局管理学	病院実務実習	薬学特別演習b/B
5) 前) 処方せんに監査し、不適切な処方せんについて、その理由が説明できる。			調剤学Ⅱ	模擬病院・薬局実習	薬局実務実習	薬学特別演習a/A
				薬局管理学	病院実務実習	薬学特別演習b/B
6) 前) 処方せん等に基づき疑義照会ができる。（技能・態度）			調剤学Ⅱ	模擬病院・薬局実習	薬局実務実習	薬学特別演習a/A
				薬局管理学	病院実務実習	薬学特別演習b/B
7) 処方せんの記載事項（医薬品名、分量、用法・用量等）が適切であるか確認できる。（知識・技能）			調剤学Ⅱ	模擬病院・薬局実習	薬局実務実習	薬学特別演習a/A
				薬局管理学	病院実務実習	薬学特別演習b/B
8) 注射薬処方せんの記載事項（医薬品名、分量、投与速度、投与ルート等）が適切であるか確認できる。（知識・技能）			調剤学Ⅱ	模擬病院・薬局実習	病院実務実習	薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
9) 処方せんの正しい記載方法を例示できる。（技能）			調剤学Ⅱ	模擬病院・薬局実習	薬局実務実習	薬学特別演習a/A
				薬局管理学	病院実務実習	薬学特別演習b/B
10) 薬歴、診療録、患者の状態から処方処方が妥当であるか判断できる。（知識・技能）			調剤学Ⅱ	模擬病院・薬局実習	薬局実務実習	薬学特別演習a/A
				薬局管理学	病院実務実習	薬学特別演習b/B

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
11) 薬歴、診療録、患者の状態から判断して適切に疑義照会ができる。（技能・態度）				模擬病院・薬局実習	薬局実務実習	
				薬局管理学	病院実務実習	
【③処方せんに基づく医薬品の調製】						
1) 前) 薬袋、薬札（ラベル）に記載すべき事項を適切に記入できる。（技能）				模擬病院・薬局実習	薬局実務実習・病院実務実習	
				薬局管理学		
2) 前) 主な医薬品の成分（一般名）、商標名、剤形、規格等を列挙できる。			調剤学Ⅱ	模擬病院・薬局実習	薬局実務実習	薬学特別演習a/A
				薬局管理学	病院実務実習	薬学特別演習b/B
3) 前) 処方せんに従って、計数・計量調剤ができる。（技能）				模擬病院・薬局実習	薬局実務実習・病院実務実習	
				薬局管理学		
4) 前) 後発医薬品選択の手順を説明できる。				模擬病院・薬局実習	薬局実務実習	薬学特別演習a/A
				薬局管理学	病院実務実習	薬学特別演習b/B
5) 前) 代表的な注射剤・散剤・水剤等の配合変化のある組合せとその理由を説明できる。			調剤学Ⅱ	模擬病院・薬局実習	薬局実務実習	薬学特別演習a/A
				薬局管理学	病院実務実習	薬学特別演習b/B
6) 前) 無菌操作の原理を説明し、基本的な無菌操作を実施できる。（知識・技能）				模擬病院・薬局実習	薬局実務実習	
				薬局管理学	病院実務実習	
7) 前) 抗悪性腫瘍薬などの取扱いにおけるケミカルハザード回避の基本的な手技を実施できる。（技能）				模擬病院・薬局実習	薬局実務実習・病院実務実習	
				薬局管理学		
8) 前) 処方せんに基づき調剤された薬剤の監査ができる。（知識・技能）			調剤学Ⅱ	模擬病院・薬局実習	薬局実務実習	
				薬局管理学	病院実務実習	
9) 主な医薬品の一般名・剤形・規格から該当する製品を選択できる。（技能）				模擬病院・薬局実習	薬局実務実習・病院実務実習	
				薬局管理学		
10) 適切な手順で後発医薬品を選択できる。（知識・技能）				模擬病院・薬局実習	薬局実務実習	薬学特別演習a/A
				薬局管理学	病院実務実習	薬学特別演習b/B
11) 処方せんに従って計数・計量調剤ができる。（技能）				模擬病院・薬局実習	薬局実務実習・病院実務実習	
				薬局管理学		
12) 錠剤の粉碎、およびカプセル剤の開封の可否を判断し、実施できる。（知識・技能）			調剤学Ⅱ	模擬病院・薬局実習	薬局実務実習	
					病院実務実習	
13) 一回量（一包化）調剤の必要性を判断し、実施できる。（知識・技能）			調剤学Ⅱ	模擬病院・薬局実習	薬局実務実習	
					病院実務実習	
14) 注射処方せんに従って注射薬調剤ができる。（技能）				模擬病院・薬局実習	病院実務実習	
15) 注射剤・散剤・水剤等の配合変化に関して実施されている回避方法を列挙できる。			調剤学Ⅱ	模擬病院・薬局実習	病院実務実習	薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
16) 注射剤（高カロリー輸液等）の無菌的混合操作を実施できる。（技能）				模擬病院・薬局実習	病院実務実習	
17) 抗悪性腫瘍薬などの取扱いにおけるケミカルハザード回避の手技を実施できる。（知識・技能）				模擬病院・薬局実習	病院実務実習	
18) 特別な注意を要する医薬品（劇薬・毒薬・麻薬・向精神薬・抗悪性腫瘍薬等）の調剤と適切な取扱いができる。（知識・技能）			調剤学Ⅱ	模擬病院・薬局実習	薬局実務実習	
					病院実務実習	
19) 調製された薬剤に対して、監査が実施できる。（知識・技能）			調剤学Ⅱ	模擬病院・薬局実習	薬局実務実習	
					病院実務実習	

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【④患者・来局者対応、服薬指導、患者教育】						
1) 前) 適切な態度で、患者・来局者と対応できる。（態度）				模擬病院・薬局実習 薬局管理学	薬局実務実習・病院実務実習	
2) 前) 妊婦・授乳婦、小児、高齢者などへの対応や服薬指導において、配慮すべき事項を具体的に列挙できる。			薬物動態学Ⅱ 調剤学Ⅱ	模擬病院・薬局実習 薬局管理学	薬局実務実習 病院実務実習	薬学特別演習a/A 薬学特別演習b/B
3) 前) 患者・来局者から、必要な情報（症状、心理状態、既往歴、生活習慣、アレルギー歴、薬歴、副作用歴等）を適切な手順で聞き取ることができる。（知識・態度）			調剤学Ⅱ	模擬病院・薬局実習 薬局管理学	薬局実務実習 病院実務実習	
4) 前) 患者・来局者に、主な医薬品の効能・効果、用法・用量、警告・禁忌、副作用、相互作用、保管方法等について適切に説明できる。（技能・態度）				模擬病院・薬局実習 薬局管理学	薬局実務実習 病院実務実習	
5) 前) 代表的な疾患において注意すべき生活指導項目を列挙できる。				模擬病院・薬局実習 薬局管理学	薬局実務実習 病院実務実習	薬学特別演習a/A 薬学特別演習b/B
6) 前) 患者・来局者に使用上の説明が必要な製剤（眼軟膏、坐剤、吸入剤、自己注射剤等）の取扱い方法を説明できる。（技能・態度）				模擬病院・薬局実習 薬局管理学	薬局実務実習 病院実務実習	
7) 前) 薬歴・診療録の基本的な記載事項とその意義・重要性について説明できる。				模擬病院・薬局実習 薬局管理学	薬局実務実習 病院実務実習	薬学特別演習a/A 薬学特別演習b/B
8) 前) 代表的な疾患の症例についての患者対応の内容を適切に記録できる。（技能）				模擬病院・薬局実習 薬局管理学	薬局実務実習 病院実務実習	薬学特別演習a/A 薬学特別演習b/B
9) 患者・来局者に合わせて適切な対応ができる。（態度）				模擬病院・薬局実習	薬局実務実習	
10) 患者・来局者から、必要な情報（症状、心理状態、既往歴、生活習慣、アレルギー歴、薬歴、副作用歴等）を適切な手順で聞き取ることができる。（知識・態度）			調剤学Ⅱ	模擬病院・薬局実習	薬局実務実習	
11) 医師の治療方針を理解した上で、患者への適切な服薬指導を実施する。（知識・態度）				模擬病院・薬局実習	薬局実務実習 病院実務実習	
12) 患者・来局者の病状や背景に配慮し、医薬品を安全かつ有効に使用するための服薬指導や患者教育ができる。（知識・態度）				模擬病院・薬局実習	薬局実務実習 病院実務実習	
13) 妊婦・授乳婦、小児、高齢者等特別な配慮が必要な患者への服薬指導において、適切な対応ができる。（知識・態度）				模擬病院・薬局実習	薬局実務実習 病院実務実習	
14) お薬手帳、健康手帳、患者向け説明書等を使用した服薬指導ができる。（態度）				模擬病院・薬局実習 薬局管理学	薬局実務実習	
15) 収集した患者情報を薬歴や診療録に適切に記録することができる。（知識・技能）				模擬病院・薬局実習 薬局管理学	薬局実務実習 病院実務実習	
【⑤医薬品の供給と管理】						
1) 前) 医薬品管理の意義と必要性について説明できる。			調剤学Ⅱ	薬業経済学 模擬病院・薬局実習 薬局管理学	薬局実務実習 病院実務実習	薬学特別演習a/A 薬学特別演習b/B
2) 前) 医薬品管理の流れを概説できる。			調剤学Ⅱ	薬業経済学 模擬病院・薬局実習 薬局管理学	薬局実務実習 病院実務実習	薬学特別演習a/A 薬学特別演習b/B

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
3) 前) 劇薬、毒薬、麻薬、向精神薬および覚醒剤原料等の管理と取り扱いについて説明できる。			調剤学Ⅱ	薬業経済学	薬局実務実習	薬学特別演習a/A
				模擬病院・薬局実習	病院実務実習	薬学特別演習b/B
				薬局管理学		
4) 前) 特定生物由来製品の管理と取り扱いについて説明できる。			調剤学Ⅱ	薬業経済学	薬局実務実習	薬学特別演習a/A
				模擬病院・薬局実習	病院実務実習	薬学特別演習b/B
				薬局管理学		
5) 前) 代表的な放射性医薬品の種類と用途、保管管理方法を説明できる。				薬業経済学	薬局実務実習	薬学特別演習a/A
				模擬病院・薬局実習	病院実務実習	薬学特別演習b/B
				薬局管理学		
6) 前) 院内製剤の意義、調製上の手続き、品質管理などについて説明できる。				薬業経済学	薬局実務実習	薬学特別演習a/A
				模擬病院・薬局実習	病院実務実習	薬学特別演習b/B
				薬局管理学		
7) 前) 薬局製剤・漢方製剤について概説できる。				薬業経済学	薬局実務実習	薬学特別演習a/A
				模擬病院・薬局実習	病院実務実習	薬学特別演習b/B
				薬局管理学		
8) 前) 医薬品の品質に影響を与える因子と保存条件を説明できる。			調剤学Ⅱ	薬業経済学	薬局実務実習	薬学特別演習a/A
				模擬病院・薬局実習	病院実務実習	薬学特別演習b/B
				薬局管理学		
9) 医薬品の供給・保管・廃棄について適切に実施できる。（知識・技能）			調剤学Ⅱ	薬業経済学	薬局実務実習	
					病院実務実習	
10) 医薬品の適切な在庫管理を実施する。（知識・技能）			調剤学Ⅱ	薬業経済学	薬局実務実習	
					病院実務実習	
11) 医薬品の適正な採用と採用中止の流れについて説明できる。			調剤学Ⅱ	薬業経済学	薬局実務実習	薬学特別演習a/A
					病院実務実習	薬学特別演習b/B
12) 劇薬・毒薬・麻薬・向精神薬および覚醒剤原料の適切な管理と取り扱いができる。（知識・技能）			調剤学Ⅱ	薬業経済学	薬局実務実習	薬学特別演習a/A
					病院実務実習	薬学特別演習b/B
13) 特定生物由来製品の適切な管理と取り扱いを体験する。（知識・技能）			調剤学Ⅱ	薬業経済学	病院実務実習	
【⑥安全管理】						
1) 前) 処方から服薬（投薬）までの過程で誤りを生じやすい事例を列挙できる。			調剤学Ⅱ	実務実習事前学習Ⅰ	薬局実務実習	薬学特別演習a/A
				模擬病院・薬局実習	病院実務実習	薬学特別演習b/B
				薬局管理学		
2) 前) 特にリスクの高い代表的な医薬品（抗悪性腫瘍薬、糖尿病治療薬、使用制限のある薬等）の特徴と注意点を列挙できる。			調剤学Ⅱ	実務実習事前学習Ⅰ	薬局実務実習	薬学特別演習a/A
				模擬病院・薬局実習	病院実務実習	薬学特別演習b/B
				薬局管理学		
3) 前) 代表的なインシデント（ヒヤリハット）、アクシデント事例を解析し、その原因、リスクを回避するための具体策と発生後の適切な対処法を討議する。（知識・態度）			調剤学Ⅱ	実務実習事前学習Ⅰ	薬局実務実習	
				模擬病院・薬局実習	病院実務実習	
				薬局管理学		
4) 前) 感染予防の基本的考え方とその方法が説明できる。			臨床薬剤学Ⅰ	模擬病院・薬局実習	薬局実務実習	薬学特別演習a/A
				薬局管理学	病院実務実習	薬学特別演習b/B

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
5) 前) 衛生的な手洗い、スタンダードプリコーションを実施できる。(技能)			臨床薬剤学Ⅰ	模擬病院・薬局実習 薬局管理学	病院実務実習	
6) 前) 代表的な消毒薬の用途、使用濃度および調製時の注意点を説明できる。			臨床薬剤学Ⅰ	模擬病院・薬局実習 薬局管理学	薬局実務実習 病院実務実習	薬学特別演習a/A 薬学特別演習b/B
7) 前) 医薬品のリスクマネジメントプランを概説できる。			調剤学Ⅱ	実務実習事前学習Ⅰ 模擬病院・薬局実習 薬局管理学	薬局実務実習 病院実務実習	薬学特別演習a/A 薬学特別演習b/B
8) 特にリスクの高い代表的な医薬品（抗悪性腫瘍薬、糖尿病治療薬、使用制限のある薬等）の安全管理を体験する。(知識・技能・態度)			調剤学Ⅱ	実務実習事前学習Ⅰ	病院実務実習	
9) 調剤ミスを防止するために工夫されている事項を具体的に説明できる。			調剤学Ⅱ	実務実習事前学習Ⅰ	薬局実務実習 病院実務実習	薬学特別演習a/A 薬学特別演習b/B
10) 施設内のインシデント（ヒヤリハット）、アクシデントの事例をもとに、リスクを回避するための具体策と発生後の適切な対処法を提案することができる。(知識・態度)			調剤学Ⅱ	実務実習事前学習Ⅰ	薬局実務実習・病院実務実習	
11) 施設内の安全管理指針を遵守する。(態度)				実務実習事前学習Ⅰ	病院実務実習	
12) 施設内で衛生的な手洗い、スタンダードプリコーションを実施する。(技能)					病院実務実習	
13) 臨床検体・感染性廃棄物を適切に取り扱うことができる。(技能・態度)					病院実務実習	
14) 院内での感染対策（予防、蔓延防止など）について具体的な提案ができる。(知識・態度)					病院実務実習	
(3) 薬物療法の実践						
【①患者情報の把握】						
1) 前) 基本的な医療用語、略語の意味を説明できる。			調剤学Ⅱ	模擬病院・薬局実習 薬局管理学	薬局実務実習 病院実務実習	薬学特別演習a/A 薬学特別演習b/B
2) 前) 患者および種々の情報源（診療録、薬歴・指導記録、看護記録、お薬手帳、持参薬等）から、薬物療法に必要な情報を収集できる。(技能・態度) 〔E3(2)①参照〕	看護・介護学概論			模擬病院・薬局実習 薬局管理学	薬局実務実習 病院実務実習	薬学特別演習a/A 薬学特別演習b/B
3) 前) 身体所見の観察・測定（フィジカルアセスメント）の目的と得られた所見の薬学的管理への活用について説明できる。				模擬病院・薬局実習 薬局管理学	薬局実務実習 病院実務実習	薬学特別演習a/A 薬学特別演習b/B
4) 前) 基本的な身体所見を観察・測定し、評価できる。(知識・技能)				模擬病院・薬局実習 薬局管理学	薬局実務実習・病院実務実習	
5) 基本的な医療用語、略語を適切に使用できる。(知識・態度)			調剤学Ⅱ		薬局実務実習 病院実務実習	薬学特別演習a/A 薬学特別演習b/B
6) 患者・来局者および種々の情報源（診療録、薬歴・指導記録、看護記録、お薬手帳、持参薬等）から、薬物療法に必要な情報を収集できる。(技能・態度)	看護・介護学概論				薬局実務実習・病院実務実習	
7) 患者の身体所見を薬学的管理に活かすことができる。(技能・態度)					薬局実務実習・病院実務実習	
【②医薬品情報の収集と活用】〔E3(1)参照〕						
1) 前) 薬物療法に必要な医薬品情報を収集・整理・加工できる。(知識・技能)				模擬病院・薬局実習 薬局管理学		
2) 施設内において使用できる医薬品の情報源を把握し、利用することができる。(知識・技能)					薬局実務実習・病院実務実習	
3) 薬物療法に対する問い合わせに対し、根拠に基づいた報告書を作成できる。(知識・技能)					薬局実務実習・病院実務実習	
4) 医療スタッフおよび患者のニーズに合った医薬品情報提供を体験する。(知識・態度)					薬局実務実習・病院実務実習	
5) 安全で有効な薬物療法に必要な医薬品情報の評価、加工を体験する。(知識・技能)					薬局実務実習・病院実務実習	実践薬剤学特論（選）

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
6) 緊急安全性情報、安全性速報、不用品回収、製造中止などの緊急情報を施設内で適切に取扱うことができる。（知識・態度）					薬局実務実習・病院実務実習	
【③処方設計と薬物療法の実践（処方設計と提案）】						
1) 前) 代表的な疾患に対して、疾患の重症度等に応じて科学的根拠に基づいた処方設計ができる。			臨床薬剤学Ⅰ	処方提案論	薬局実務実習	薬学特別演習a/A
				処方解析学	病院実務実習	薬学特別演習b/B
				模擬病院・薬局実習		実践薬剤学特論（選）
				薬局管理学		
2) 前) 病態（肝・腎障害など）や生理的特性（妊婦・授乳婦、小児、高齢者など）等を考慮し、薬剤の選択や用法・用量設定を立案できる。			調剤学Ⅱ	処方提案論	薬局実務実習	薬学特別演習a/A
				模擬病院・薬局実習	病院実務実習	薬学特別演習b/B
				薬局管理学		
3) 前) 患者のアドヒアランスの評価方法、アドヒアランスが良くない原因とその対処法を説明できる。			調剤学Ⅱ	処方提案論	薬局実務実習	薬学特別演習a/A
				模擬病院・薬局実習	病院実務実習	薬学特別演習b/B
				薬局管理学		
4) 前) 皮下注射、筋肉内注射、静脈内注射・点滴等の基本的な手技を説明できる。				処方提案論	薬局実務実習	薬学特別演習a/A
				模擬病院・薬局実習	病院実務実習	薬学特別演習b/B
				薬局管理学		
5) 前) 代表的な輸液の種類と適応を説明できる。				処方提案論	病院実務実習	薬学特別演習a/A
				模擬病院・薬局実習		薬学特別演習b/B
				薬局管理学		
6) 前) 患者の栄養状態や体液量、電解質の過不足などが評価できる。				処方提案論	病院実務実習	薬学特別演習a/A
				模擬病院・薬局実習		薬学特別演習b/B
				薬局管理学		
7) 代表的な疾患の患者について、診断名、病態、科学的根拠等から薬物治療方針を確認できる。				処方提案論	薬局実務実習	薬学特別演習a/A
					病院実務実習	薬学特別演習b/B
8) 治療ガイドライン等を確認し、科学的根拠に基づいた処方を立案できる。				処方提案論	薬局実務実習	薬学特別演習a/A
					病院実務実習	薬学特別演習b/B
9) 患者の状態（疾患、重症度、合併症、肝・腎機能や全身状態、遺伝子の特性、心理・希望等）や薬剤の特徴（作用機序や製剤的性質等）に基づき、適切な処方を提案できる。（知識・態度）				処方提案論	薬局実務実習	薬学特別演習a/A
					病院実務実習	薬学特別演習b/B
10) 処方設計の提案に際し、薬物投与プロトコールやクリニカルパスを活用できる。（知識・態度）				処方提案論	病院実務実習	薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
11) 入院患者の持参薬について、継続・変更・中止の提案ができる。（知識・態度）				処方提案論	病院実務実習	薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
12) アドヒアランス向上のために、処方変更、調剤や用法の工夫が提案できる。（知識・態度）				処方提案論	薬局実務実習	薬学特別演習a/A
					病院実務実習	薬学特別演習b/B
13) 処方提案に際して、医薬品の経済性等を考慮して、適切な後発医薬品を選択できる。				処方提案論	薬局実務実習	薬学特別演習a/A
						薬学特別演習b/B
14) 処方提案に際し、薬剤の選択理由、投与量、投与方法、投与期間等について、医師や看護師等に判りやすく説明できる。（知識・態度）	看護・介護学概論			処方提案論	薬局実務実習	
					病院実務実習	
【④処方設計と薬物療法の実践（薬物療法における効果と副作用の評価）】						
1) 前) 代表的な疾患に用いられる医薬品の効果、副作用に関してモニタリングすべき症状と検査所見等を具体的に説明できる。				模擬病院・薬局実習	薬局実務実習	薬学特別演習a/A
				薬局管理学	病院実務実習	薬学特別演習b/B

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
2) 前) 代表的な疾患における薬物療法の評価に必要な患者情報収集ができる。(知識・技能)				模擬病院・薬局実習 薬局管理学	薬局実務実習 病院実務実習	
3) 前) 代表的な疾患の症例における薬物治療上の問題点を列挙し、適切な評価と薬学的管理の立案を行い、SOAP形式等で記録できる。(知識・技能)				模擬病院・薬局実習 薬局管理学	薬局実務実習 病院実務実習	
4) 医薬品の効果と副作用をモニタリングするための検査項目とその実施を提案できる。(知識・態度)				実務実習事前学習Ⅱ	薬局実務実習 病院実務実習	
5) 薬物血中濃度モニタリングが必要な医薬品が処方されている患者について、血中濃度測定の実案が提案できる。(知識・態度)			臨床薬剤学Ⅰ	実務実習事前学習Ⅱ	病院実務実習	
6) 薬物血中濃度の推移から薬物療法の効果および副作用について予測できる。(知識・技能)			臨床薬剤学Ⅰ	実務実習事前学習Ⅱ	病院実務実習	実践薬剤学特論(選)
7) 臨床検査値の変化と使用医薬品の関連性を説明できる。				実務実習事前学習Ⅱ	薬局実務実習 病院実務実習	薬学特別演習a/A 薬学特別演習b/B
8) 薬物治療の効果について、患者の症状や検査所見などから評価できる。				実務実習事前学習Ⅱ	薬局実務実習 病院実務実習	薬学特別演習a/A 薬学特別演習b/B
9) 副作用の発現について、患者の症状や検査所見などから評価できる。				実務実習事前学習Ⅱ	薬局実務実習 病院実務実習	薬学特別演習a/A 薬学特別演習b/B
10) 薬物治療の効果、副作用の発現、薬物血中濃度等に基づき、医師に対し、薬剤の種類、投与量、投与方法、投与期間等の変更を提案できる。(知識・態度)				実務実習事前学習Ⅱ	薬局実務実習 病院実務実習	
11) 報告に必要な要素(5W1H)に留意して、収集した患者情報を正確に記載できる。(技能)					薬局実務実習・病院実務実習	
12) 患者の薬物治療上の問題点を列挙し、適切な評価と薬学的管理の立案を行い、SOAP形式等で適切に記録する。(知識・技能)					薬局実務実習 病院実務実習	
13) 医薬品・医療機器等安全性情報報告用紙に、必要事項を記載できる。(知識・技能)					薬局実務実習 病院実務実習	
(4) チーム医療への参画 [A(4)参照]						
【①医療機関におけるチーム医療】						
1) 前) チーム医療における薬剤師の役割と重要性について説明できる。				模擬病院・薬局実習 処方解析学 薬局管理学	薬局実務実習 病院実務実習	薬学特別演習a/A 薬学特別演習b/B
2) 前) 多様な医療チームの目的と構成、構成員の役割を説明できる。				模擬病院・薬局実習 薬局管理学	薬局実務実習 病院実務実習	薬学特別演習a/A 薬学特別演習b/B
3) 前) 病院と地域の医療連携の意義と具体的な方法(連携クリニカルパス、退院時共同指導、病院・薬局連携、関連施設との連携等)を説明できる。				模擬病院・薬局実習 薬局管理学	薬局実務実習 病院実務実習	薬学特別演習a/A 薬学特別演習b/B
4) 薬物療法上の問題点を解決するために、他の薬剤師および医師・看護師等の医療スタッフと連携できる。(態度)	看護・介護学概論				薬局実務実習・病院実務実習	
5) 医師・看護師等の他職種と患者の状態(病状、検査値、アレルギー歴、心理、生活環境等)、治療開始後の変化(治療効果、副作用、心理状態、QOL等)の情報を共有する。(知識・態度)	看護・介護学概論				薬局実務実習・病院実務実習	
6) 医療チームの一員として、医師・看護師等の医療スタッフと患者の治療目標と治療方針について討議(カンファレンスや患者回診への参加等)する。(知識・態度)	看護・介護学概論				薬局実務実習・病院実務実習	
7) 医師・看護師等の医療スタッフと連携・協力して、患者の最善の治療・ケア提案を体験する。(知識・態度)	看護・介護学概論				薬局実務実習・病院実務実習	
8) 医師・看護師等の医療スタッフと連携して退院後の治療・ケアの計画を検討できる。(知識・態度)	看護・介護学概論				薬局実務実習・病院実務実習	

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
9) 病院内の多様な医療チーム（ICT、NST、緩和ケアチーム、褥瘡チーム等）の活動に薬剤師の立場で参加できる。（知識・態度）	看護・介護学概論			実務実習事前学習Ⅱ	病院実務実習	
【②地域におけるチーム医療】						
1) 前) 地域の保健、医療、福祉に関わる職種とその連携体制（地域包括ケア）およびその意義について説明できる。			調剤学Ⅰ	模擬病院・薬局実習	薬局実務実習	薬学特別演習a/A
				薬局管理学		薬学特別演習b/B
2) 前) 地域における医療機関と薬局薬剤師の連携の重要性を討議する。（知識・態度）			調剤学Ⅰ	模擬病院・薬局実習	薬局実務実習	
				薬局管理学		
3) 地域における医療機関と薬局薬剤師の連携を体験する。（知識・態度）					薬局実務実習	
4) 地域医療を担う職種間で地域住民に関する情報共有を体験する。（技能・態度）					薬局実務実習	
（5）地域の保健・医療・福祉への参画 [B（4）参照]						
【①在宅（訪問）医療・介護への参画】						
1) 前) 在宅医療・介護の目的、仕組み、支援の内容を具体的に説明できる。	看護・介護学概論		調剤学Ⅰ	模擬病院・薬局実習	薬局実務実習	薬学特別演習a/A
				薬局管理学		薬学特別演習b/B
2) 前) 在宅医療・介護を受ける患者の特色と背景を説明できる。	看護・介護学概論		調剤学Ⅰ	模擬病院・薬局実習	薬局実務実習	薬学特別演習a/A
				薬局管理学		薬学特別演習b/B
3) 前) 在宅医療・介護に関わる薬剤師の役割とその重要性について説明できる。	看護・介護学概論		調剤学Ⅰ	模擬病院・薬局実習	薬局実務実習	薬学特別演習a/A
				薬局管理学		薬学特別演習b/B
4) 在宅医療・介護に関する薬剤師の管理業務（訪問薬剤管理指導業務、居宅療養管理指導業務）を体験する。（知識・態度）					薬局実務実習	
5) 地域における介護サービスや介護支援専門員等の活動と薬剤師との関わりを体験する。（知識・態度）					薬局実務実習	
6) 在宅患者の病状（症状、疾患と重症度、栄養状態等）とその変化、生活環境等の情報収集と報告を体験する。（知識・態度）					薬局実務実習	
【②地域保健（公衆衛生、学校薬剤師、啓発活動）への参画】						
1) 前) 地域保健における薬剤師の役割と代表的な活動（薬物乱用防止、自殺防止、感染予防、アンチドーピング活動等）について説明できる。			調剤学Ⅰ	模擬病院・薬局実習	薬局実務実習	薬学特別演習a/A
				薬局管理学		薬学特別演習b/B
2) 前) 公衆衛生に求められる具体的な感染防止対策を説明できる。			調剤学Ⅰ	模擬病院・薬局実習	薬局実務実習	薬学特別演習a/A
				薬局管理学		薬学特別演習b/B
3) 学校薬剤師の業務を体験する。（知識・技能）					薬局実務実習	
4) 地域住民の衛生管理（消毒、食中毒の予防、日用品に含まれる化学物質の誤嚥誤飲の予防等）における薬剤師活動を体験する。（知識・技能）					薬局実務実習	
【③プライマリケア、セルフメディケーションの実践】 [E2（9）参照]						
1) 前) 現在の医療システムの中でのプライマリケア、セルフメディケーションの重要性を討議する。（態度）			調剤学Ⅰ	模擬病院・薬局実習	薬局実務実習	
				実務実習事前学習Ⅱ		
				薬局管理学		
2) 前) 代表的な症候（頭痛・腹痛・発熱等）を示す来局者について、適切な情報収集と疾患の推測、適切な対応の選択ができる。（知識・態度）			調剤学Ⅰ	模擬病院・薬局実習	薬局実務実習	薬学特別演習a/A
				実務実習事前学習Ⅱ		薬学特別演習b/B
				薬局管理学		
3) 前) 代表的な症候に対する薬局製剤（漢方製剤含む）、要指導医薬品・一般用医薬品の適切な取り扱いと説明ができる。（技能・態度）			調剤学Ⅰ	模擬病院・薬局実習	薬局実務実習	薬学特別演習a/A
				薬局管理学		薬学特別演習b/B

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
4) 前) 代表的な生活習慣の改善に対するアドバイスができる。(知識・態度)			調剤学Ⅰ	模擬病院・薬局実習 薬局管理学	薬局実務実習	
5) 薬局製剤(漢方製剤含む)、要指導医薬品・一般用医薬品、健康食品、サプリメント、医療機器等をリスクに応じ適切に取り扱い、管理できる。(技能・態度)					薬局実務実習	セルフメディケーション・在宅医療特
6) 薬局から収集した情報や身体所見などに基づき、薬局者の病状(疾患、重症度等)や体調を推測できる。(知識・態度)					薬局実務実習	セルフメディケーション・在宅医療特
7) 薬局者に対して、病状に合わせた適切な対応(医師への受診勧奨、救急対応、要指導医薬品・一般用医薬品および検査薬などの推奨、生活指導等)を選択できる。(知識・態度)					薬局実務実習	セルフメディケーション・在宅医療特
8) 選択した薬局製剤(漢方製剤含む)、要指導医薬品・一般用医薬品、健康食品、サプリメント、医療機器等の使用方法や注意点などを薬局者に適切に判りやすく説明できる。(知識・態度)					薬局実務実習	セルフメディケーション・在宅医療特
9) 疾病の予防および健康管理についてのアドバイスを体験する。(知識・態度)					薬局実務実習	セルフメディケーション・在宅医療特
【④災害時医療と薬剤師】						
1) 前) 災害時医療について概説できる。	臨床薬学概論				薬局実務実習	薬学特別演習a/A 薬学特別演習b/B
2) 災害時における地域の医薬品供給体制・医療救護体制について説明できる。					薬局実務実習	薬学特別演習a/A 薬学特別演習b/B
3) 災害時における病院・薬局と薬剤師の役割について討議する。(態度)					薬局実務実習	
G 薬学研究						
(1) 薬学における研究の位置づけ						
1) 基礎から臨床に至る研究の目的と役割について説明できる。			薬学基礎研究	薬学研究Ⅰ	薬学研究Ⅱ	薬学研究Ⅲ
2) 研究には自立性と独創性が求められていることを知る。			薬学基礎研究	薬学研究Ⅰ	薬学研究Ⅱ	薬学研究Ⅲ
3) 現象を客観的に捉える観察眼をもち、論理的に思考できる。(知識・技能・態度)			薬学基礎研究	薬学研究Ⅰ	薬学研究Ⅱ	薬学研究Ⅲ
4) 新たな課題にチャレンジする創造的精神を養う。(態度)			薬学基礎研究	薬学研究Ⅰ	薬学研究Ⅱ	薬学研究Ⅲ
(2) 研究に必要な法規範と倫理						
1) 自らが実施する研究に係る法令、指針について概説できる。			薬学基礎研究	薬学研究Ⅰ	薬学研究Ⅱ	薬学研究Ⅲ
2) 研究の実施、患者情報の取扱い等において配慮すべき事項について説明できる。	臨床医学概論		薬学基礎研究	薬学研究Ⅰ	薬学研究Ⅱ	薬学研究Ⅲ
3) 正義性、社会性、誠実性に配慮し、法規範を遵守して研究に取り組む。(態度) A-(2)-④-3再掲	臨床医学概論		薬学基礎研究	薬学研究Ⅰ	薬学研究Ⅱ	薬学研究Ⅲ
(3) 研究の実践						
1) 研究課題に関する国内外の研究成果を調査し、読解、評価できる。(知識・技能)			薬学基礎研究	薬学研究Ⅰ	薬学研究Ⅱ	薬学研究Ⅲ
2) 課題達成のために解決すべき問題点を抽出し、研究計画を立案する。(知識・技能)			薬学基礎研究	薬学研究Ⅰ	薬学研究Ⅱ	薬学研究Ⅲ
3) 研究計画に沿って、意欲的に研究を実施できる。(技能・態度)			薬学基礎研究	薬学研究Ⅰ	薬学研究Ⅱ	薬学研究Ⅲ
4) 研究の各プロセスを適切に記録し、結果を考察する。(知識・技能・態度)			薬学基礎研究	薬学研究Ⅰ	薬学研究Ⅱ	薬学研究Ⅲ
5) 研究成果の効果的なプレゼンテーションを行い、適切な質疑応答ができる。(知識・技能・態度)			薬学基礎研究	薬学研究Ⅰ	薬学研究Ⅱ	薬学研究Ⅲ
6) 研究成果を報告書や論文としてまとめることができる。(技能)			薬学基礎研究	薬学研究Ⅰ	薬学研究Ⅱ	薬学研究Ⅲ

(基礎資料3-1) 評価実施年度における学年別在籍状況

2021年5月1日現在

学年		1年	2年	3年	4年	5年	6年
入学年度の入学定員 ¹⁾		125	125	120	120	120	120
入学時の学生数 ²⁾	A	122	122	123	132	124	126
在籍学生数 ³⁾	B	123	124	128	124	121	123
過年度在籍者数 ⁴⁾	留年による者 C	1	6	14	8	12	16
	休学による者 D	0	0	0	0	0	0
編入学などによる在籍者数 E		0	0	0	0	0	0
ストレート在籍者数 ⁵⁾	F	122	118	114	116	109	107
ストレート在籍率 ⁶⁾	F/A	1.00	0.97	0.93	0.88	0.88	0.85
過年度在籍率 ⁷⁾	(C+D)/B	0.01	0.05	0.11	0.06	0.10	0.13

1) 各学年が入学した年度の入学者選抜で設定されていた入学定員を記載してください。

2) 当該学年が入学した時点での実入学者数を記載してください。

3) 評価実施年度の5月1日現在における各学年の在籍学生数を記載してください。

4) 過年度在籍者数を「留年による者」と「休学による者」に分けて記載してください。休学と留年が重複する学生は留年者に算入してください。

5) (在籍学生数) - [(過年度在籍者数) + (編入学などによる在籍者数)] を記載してください。
 ストレート在籍者数 [B - (C + D + E)]

6) (ストレート在籍者数) / (入学時の学生数) の値を小数点以下第2位まで記載してください。(％表示でなく、1.00のように記載ください)

7) (過年度在籍者数) / (在籍学生数) の値を小数点以下第2位まで記載してください。(％表示でなく、1.00のように記載ください)

(基礎資料3-2) 評価実施年度の直近5年間ににおける6年制学科の学年別学籍異動状況

在籍者を確定する基準日:5月1日

		2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
1年次	在籍者数 ¹⁾	126	134	123	126	123
	休学者数 ²⁾	0	0	0	0	0
	退学者数 ²⁾	4	4	1	4	2
	留年者数 ²⁾	1	0	4	1	0
	進級率 ³⁾	0.96	0.97	0.96	0.96	0.98
2年次	在籍者数 ¹⁾	131	123	137	123	124
	休学者数 ²⁾	0	0	0	0	0
	退学者数 ²⁾	5	2	1	2	3
	留年者数 ²⁾	2	7	5	3	2
	進級率 ³⁾	0.95	0.93	0.96	0.96	0.96
3年次	在籍者数 ¹⁾	121	132	130	138	128
	休学者数 ²⁾	0	0	0	0	0
	退学者数 ²⁾	0	3	2	4	2
	留年者数 ²⁾	8	16	7	10	3
	進級率 ³⁾	0.93	0.86	0.93	0.90	0.96
4年次	在籍者数 ¹⁾	134	113	113	121	124
	休学者数 ²⁾	0	0	0	0	0
	退学者数 ²⁾	1	0	0	0	0
	留年者数 ²⁾	0	0	0	0	0
	進級率 ³⁾	0.99	1.00	1.00	1.00	1.00
5年次	在籍者数 ¹⁾	144	133	113	113	121
	休学者数 ²⁾	0	0	0	0	0
	退学者数 ²⁾	1	0	0	0	0
	留年者数 ²⁾	0	0	0	0	0
	進級率 ³⁾	0.99	1.00	1.00	1.00	1.00

(基礎資料3-3) 評価実施年度の直近5年間における学士課程修了(卒業)状況の実態

		2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
卒業判定時(年度末)の在籍学生数 ¹⁾ A		131	142	137	118	116
学士課程修了(卒業)者数 ¹⁾ B		129	131	130	108	108
卒業率 ²⁾ B/A		0.98	0.92	0.95	0.92	0.93
卒業までに要した 在学期間別の 内訳 ³⁾	6年 C	115	118	118	99	103
	7年	7	12	9	5	5
	8年	6	1	3	4	0
	9年以上	1	0	0	0	0
入学時の学生数(実入学者数) ⁴⁾ D		140	154	139	116	122
ストレート卒業率 ⁵⁾ C/D		0.82	0.77	0.85	0.85	0.84

- 1) 当該年度の9月に卒業した学生は、「在籍学生数」(A)にも、「卒業生数」(B)にも含みません。
なお、卒業生数は、当該年度の卒業判定会議(年度末)における卒業認定者数を記載してください。
- 2) 卒業率 = (学士課程修了者数) / (6年次の在籍者数) の値(B/A)を小数点以下第2位まで記載してください。
- 3) 「編入学生を除いた卒業生数」の内訳を卒業までに要した期間別に記載してください。
- 4) それぞれの年度の6年次学生(C)が入学した年度の実入学者数(編入学生を除く)を記載してください。
- 5) ストレート卒業率 = (卒業までに要した在学期間が6年間の学生数) / (入学時の学生数) の値(C/D)を、小数点以下第2位まで記載してください。

(基礎資料3-4) 直近6年間の定員充足状況と編入学者の動向

入学年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	平均値 ⁵⁾
入学定員 A	120	120	120	120	125	125	
実入学者数 ¹⁾ B	126	124	132	123	122	122	
入学定員充足率 ²⁾ B/A	1.05	1.03	1.1	1.03	0.98	0.98	1.03
編入学定員	0	0	0	0	0	0	
編入学者数 ³⁾ C+D+E	0	0	0	0	0	0	0
編入学した学年別の内数 ⁴⁾	2年次 C	0	0	0	0	0	0
	3年次 D	0	0	0	0	0	0
	4年次 E	0	0	0	0	0	0

- 1) 各年度の実入学者数として、当該年の5月1日に在籍していた新入生数を記載してください。
- 2) 各年度の実入学者数をその年度の入学定員で除した数値(小数点以下第2位まで)を記載してください。
- 3) その年度に受け入れた編入学者(転学部、転学科などを含む)の合計数を記載してください。
- 4) 編入(転入)学による入学者の受け入れ学年別の内数を記入してください。
- 5) 6年間の平均値を人数については整数で、充足率については小数点以下第2位まで記入してください。

(基礎資料4) 学生受入れ状況(入学試験種別別)

学部	学科名	入試の種類	2017年度入試(2016年度実施) 2018年度入試(2017年度実施) 2019年度入試(2018年度実施) 2020年度入試(2019年度実施) 2021年度入試(2020年度実施) 2022年度入試(2021年度実施)						募集定員数に対する入学者数の比率(6年間の平均)																				
			受験者数	合格者数	入学者数(A)	募集定員数(B)	A/B*100(%)	受験者数		合格者数	入学者数(A)	募集定員数(B)	A/B*100(%)	受験者数	合格者数	入学者数(A)	募集定員数(B)	A/B*100(%)	受験者数	合格者数	入学者数(A)	募集定員数(B)	A/B*100(%)	受験者数	合格者数	入学者数(A)	募集定員数(B)	A/B*100(%)	受験者数
薬学部	薬科	一般入試	受験者数	729	686	580	655	596	567																				
			合格者数	175	179	153	209	260	224																				
			入学者数(A)	59	72	52	56	69	65																				
			募集定員数(B)	67	67	67	76	76	76																				
		A/B*100(%)	88.06	107.46	77.61	73.68	90.79	85.53																					
		大学入学共通テスト利用入試	受験者数	122	87	102	79	81	71																				
			合格者数	40	28	30	30	29	34																				
			入学者数(A)	3	1	4	0	0	0																				
			募集定員数(B)	6	6	6	6	6	6																				
		A/B*100(%)	50.00	16.67	66.67	0.00	0.00	0.00																					
		A〇入試	受験者数	0	0	0	1	0	0																				
			合格者数	0	0	0	1	0	0																				
			入学者数(A)	0	0	0	1	0	0																				
			募集定員数(B)	1	1	1	1	1	1																				
		A/B*100(%)	0.00	0.00	0.00	100.00	0.00	0.00																					
		推薦入試B(指定校推薦)	受験者数	9	15	17	14	14	19																				
			合格者数	9	15	17	14	14	19																				
			入学者数(A)	9	15	17	14	14	19																				
			募集定員数(B)	5	5	5	8	8	8																				
		A/B*100(%)	180.00	300.00	340.00	175.00	175.00	237.50																					
		社内校推薦入試	受験者数	15	10	17	11	9	19																				
			合格者数	15	10	17	11	9	19																				
			入学者数(A)	15	10	17	11	9	19																				
			募集定員数(B)	※	※	※	若干名	若干名	若干名																				
		A/B*100(%)	—	—	—	—	—	—																					
		協定校推薦入試	受験者数	0	1	0	1	1	2																				
			合格者数	0	1	0	1	1	2																				
			入学者数(A)	0	1	0	1	1	2																				
			募集定員数(B)	※	※	※	若干名	若干名	若干名																				
		A/B*100(%)	—	—	—	—	—	—																					
		教育連携特別推薦入試	受験者数	5	5	3	8	4	9																				
			合格者数	5	5	3	8	4	9																				
			入学者数(A)	5	5	3	8	4	9																				
			募集定員数(B)	若干名	若干名	若干名	若干名	若干名	若干名																				
		A/B*100(%)	—	—	—	—	—	—																					
		推薦入試S(公募推薦入試)	受験者数	352	416	297	269	347	355																				
			合格者数	95	87	88	88	115	125																				
			入学者数(A)	32	27	29	31	23	25																				
			募集定員数(B)	29	29	29	32	32	32																				
		A/B*100(%)	110.34	93.10	100.00	96.88	71.88	78.13																					
		推薦入試C(同窓子女対象)	受験者数	5	6	6	3	8	3																				
			合格者数	1	1	1	0	0	1																				
入学者数(A)	1		1	1	0	0	1																						
募集定員数(B)	2		2	2	2	2	2																						
A/B*100(%)	50.00	50.00	50.00	0.00	0.00	50.00																							
社会人入試	受験者数	1	0	1	1	1	0																						
	合格者数	0	0	0	1	1	0																						
	入学者数(A)	0	0	0	0	1	0																						
	募集定員数(B)	若干名	若干名	若干名	若干名	若干名	若干名																						
A/B*100(%)	—	—	—	—	—	—																							
外国人留学生入試	受験者数	0	0	0	0	0	0																						
	合格者数	0	0	0	0	0	0																						
	入学者数(A)	0	0	0	0	0	0																						
	募集定員数(B)	若干名	若干名	若干名	若干名	若干名	若干名																						
A/B*100(%)	—	—	—	—	—	—																							
帰国生入試	受験者数	0	0	0	1	1	1																						
	合格者数	0	0	0	0	1	1																						
	入学者数(A)	0	0	0	0	1	1																						
	募集定員数(B)	若干名	若干名	若干名	若干名	若干名	若干名																						
A/B*100(%)	—	—	—	—	—	—																							
学科計	受験者数	1,238	1,226	1,023	1,043	1,062	1,046																						
	合格者数	340	326	309	363	434	434																						
	入学者数(A)	124	132	123	122	122	141																						
	募集定員数(B)	120	120	120	125	125	125																						
A/B*100(%)	103.33	110.00	102.50	97.60	97.60	112.80																							

※ 2017年度～2019年度の社内校推薦入試と協定校推薦入試の募集定員数は、2つの入試をあわせて10名で設定。

- [注] 1 入学者数は、実施した入試により5月1日(評価対象年度に実施した入試のデータは調査提出時)に新入学者となっている学生数を記入してください。
- 2 実施している全種類の入試が網羅されるように「入試の種類」の名称を記入し、適宜欄を設けて記入してください。なお、該当しない入試方法の欄は削除してください。
- 3 入試の種類ごとに「募集定員数(B)に対する入学者数(A)」の割合[A/B*100(%)]を算出してください。
- 4 「留学生入試」に交換留学生は含めないでください。
- 5 各入学(募集)定員が若干名の場合は「若干名」と記入してください。
- 6 6年制が複数学科で構成されている場合は、「学部合計」欄を設けて記入してください。
- 7 薬科学科との一括入試の場合は、欄外に「(備考)〇年次に・・・を基に学科を決定する。なお、薬学科の定員は△△△名」と注を記入してください。

(基礎資料5) 教員・職員の数

表1. 大学設置基準(別表第1)の対象となる薬学科(6年制)の専任教員

教授	准教授	専任講師	助教	合計	基準数 ¹⁾
18名	7名	0名	14名	39名	30名
上記における臨床実務経験を有する者の内数					
教授	准教授	専任講師	助教	合計	必要数 ²⁾
5名	1名	0名	0名	6名	5名

1) 大学設置基準第13条別表第1のイ(表1)及び備考4に基づく数/別表2の教員は含まず

2) 上記基準数の6分の1(大学設置基準第13条別表第1のイ備考10)に相当する数

表2. 薬学科(6年制)の教育研究に携わっている表1.以外の薬学部教員

助手 ¹⁾	兼任教員 ²⁾
6名	0名

1) 学校教育法第92条⑨による教員として大学設置基準第10条2の教育業務及び研究に携わる常勤者

2) 4年制学科を併設する薬学部で、薬学科の専門教育を担当する4年制学科の専任教員

表3. 演習、実習、実験などの補助に当たる教員以外の者

TA	SA	その他 ¹⁾	合計
1名	0名	0名	1名

自己点検・評価を実施した年度の実績を記入

1) 実習などの補助を担当する臨時、契約職員など(無給は除く)

表4. 薬学部専任の職員

事務職員 ¹⁾	技能職員 ²⁾	その他 ³⁾	合計	備考
8(6)名	0名	0名	8名	薬用植物園、実験動物の管理は業務委託

1) 薬学部の業務を専門に行う職員(非常勤を含む。ただし非常勤者数は()に内数で記入。複数学部の兼任は含まないこと。)

2) 薬用植物園や実験動物の管理、電気施設など保守管理に携わる職員

3) 司書、保健・看護職員など

(基礎資料6) 専任教員(基礎資料5の表1)の年齢構成

	教授	准教授	専任講師	助教	合計	比率
70代	0名	0名	0名	0名	0名	0%
60代	10名	0名	0名	0名	10名	25.6%
50代	7名	5名	0名	0名	12名	30.8%
40代	1名	2名	0名	7名	10名	25.6%
30代	0名	0名	0名	6名	6名	15.4%
20代	0名	0名	0名	1名	1名	2.6%
合計	18名	7名	0名	14名	39名	100.0%

専任教員の定年年齢:(65 歳)

※但し、年齢満65歳以上で、教授として適格と認められる者は、特任教授として任用することができる(雇用契約期間は5年を限度とする。)

(参考資料) 専任教員(基礎資料5の表1)の男女構成

	教授	准教授	専任講師	助教	合計	比率
男性	13名	5名	0名	8名	26名	66.7%
女性	5名	2名	0名	6名	13名	33.3%

(基礎資料7) 教員の教育担当状況

表1. 薬学科(6年制)専任教員(基礎資料5の表1)が担当する授業科目と担当時間

学科 ¹⁾	職名 ²⁾	氏名	年齢	性別	学位称号	現職就任年月日	授業担当科目 ³⁾	授業時間 ⁴⁾	年間で平均した週当り授業時間 ⁵⁾	
医療薬学科	教授	■■■■■	■	■	■■■■■	■■■■■	薬理学実習	◎	22.50	0.75
							薬理学実習	◎	22.50	0.75
							薬理学特論		4.50	0.15
							病院実務実習	◎	3.00	0.10
							病院実務実習	◎	3.00	0.10
							薬局実務実習	◎	3.00	0.10
							薬局実務実習	◎	3.00	0.10
							生物統計学		22.50	0.75
							薬理学Ⅱ		22.50	0.75
							薬学特別演習 a/薬学特別演習 A		6.00	0.20
							薬学特別演習 b/薬学特別演習 B		6.00	0.20
							薬理学Ⅲ		22.50	0.75
							薬理学Ⅳ		22.50	0.75
							臨床医学入門		2.25	0.08
							保健医療統計		12.00	0.40
							医療薬学総合実習	◎院	22.50	0.75
							授業担当時間の合計			
医療薬学科	教授	■■■■■	■	■	■■■■■	■■■■■	微生物学実習	◎	22.50	0.75
							微生物学実習	◎	22.50	0.75
							免疫・感染症学特論		9.00	0.30
							病院実務実習	◎	3.00	0.10
							病院実務実習	◎	3.00	0.10
							薬局実務実習	◎	3.00	0.10
							薬局実務実習	◎	3.00	0.10
							微生物学		22.50	0.75
							免疫・感染症学		22.50	0.75
							薬学特別演習 a/薬学特別演習 A		6.00	0.20
							薬学特別演習 b/薬学特別演習 B		6.00	0.20
							微生物学・免疫学		22.50	0.75
							基礎薬学総合実習	◎院	22.50	0.75
							微生物感染症学特論	院	22.50	0.75
授業担当時間の合計								190.50	6.35	
医療薬学科	教授	■■■■■	■	■	■■■■■	■■■■■	ゲノム創薬特論		9.00	0.30
							病院実務実習	◎	3.00	0.10
							病院実務実習	◎	3.00	0.10
							薬局実務実習	◎	3.00	0.10
							薬局実務実習	◎	3.00	0.10
							薬学特別演習 a/薬学特別演習 A		6.00	0.20
							薬学特別演習 b/薬学特別演習 B		6.00	0.20
							生命物理化学Ⅰ		22.50	0.75
							生命物理化学Ⅱ		22.50	0.75
							生命物理化学実習	◎	22.50	0.75
							生命物理化学実習	◎	22.50	0.75
							基礎薬学総合実習	◎院	22.50	0.75
							生体分子機能学特論	院	22.50	0.75
授業担当時間の合計								168.00	5.60	
医療薬学科	教授	■■■■■	■	■	■■■■■	■■■■■	医薬品分析化学実習	◎	22.50	0.75
							医薬品分析化学実習	◎	22.50	0.75
							病院実務実習	◎	3.00	0.10
							病院実務実習	◎	3.00	0.10
							薬局実務実習	◎	3.00	0.10
							薬局実務実習	◎	3.00	0.10
							医薬品分析化学Ⅱ		22.50	0.75
							機器分析学		22.50	0.75
							日本薬局方概論		22.50	0.75
							薬学特別演習 a/薬学特別演習 A		6.00	0.20
							薬学特別演習 b/薬学特別演習 B		6.00	0.20
							医療薬学総合実習	◎院	22.50	0.75
授業担当時間の合計								159.00	5.30	
医療薬学科	教授	■■■■■	■	■	■■■■■	■■■■■	薬の発明・発見史Ⅰ		22.50	0.75
							薬の発明・発見史Ⅱ		22.50	0.75
							病態生化学Ⅰ		22.50	0.75
							病態生化学Ⅱ		22.50	0.75
							薬学特別演習 a/薬学特別演習 A		6.00	0.20
							薬学特別演習 b/薬学特別演習 B		6.00	0.20
授業担当時間の合計								102.00	3.40	

学科 ¹⁾	職名 ²⁾	氏名	年齢	性別	学位称号	現職就任年月日	授業担当科目 ³⁾	授業時間 ⁴⁾	年間で平均した週当り授業時間 ⁵⁾	
医療薬学科	教授	■■■■■	■	■	■■■■■	■■■■■	生化学実習	◎	22.50	0.75
							生化学実習	◎	22.50	0.75
							薬理学特論		1.50	0.05
							病院実務実習	◎	3.00	0.10
							病院実務実習	◎	3.00	0.10
							薬局実務実習	◎	3.00	0.10
							薬局実務実習	◎	3.00	0.10
							機能形態学Ⅱ		22.50	0.75
							薬理学Ⅰ		19.50	0.65
							臨床病態生化学		19.50	0.65
							薬学特別演習 a/薬学特別演習 A		6.00	0.20
							薬学特別演習 b/薬学特別演習 B		6.00	0.20
							医療薬学総合実習	◎院	22.50	0.75
							がん分子標的治療学特論	院	22.50	0.75
							授業担当時間の合計			
医療薬学科	教授(実務)	■■■■■	■	■	■■■■■	■■■■■	薬剤学実習	◎	22.50	0.75
							薬剤学実習	◎	22.50	0.75
							模擬病院・薬局実習	◎	67.50	2.25
							模擬病院・薬局実習	◎	67.50	2.25
							病院実務実習	◎	3.00	0.10
							病院実務実習	◎	3.00	0.10
							薬局実務実習	◎	3.00	0.10
							薬局実務実習	◎	3.00	0.10
							基礎数学		22.50	0.75
							物理薬剤学		19.50	0.65
							薬学特別演習 a/薬学特別演習 A		6.00	0.20
							薬学特別演習 b/薬学特別演習 B		6.00	0.20
							早期体験学習Ⅰ		0.54	0.02
							早期体験学習Ⅱ		1.33	0.04
							臨床薬学概論		16.50	0.55
							調剤学Ⅰ		16.50	0.55
							製剤学		22.50	0.75
							実務実習事前学習Ⅰ		9.00	0.30
							セルフメディケーション・在宅医療特論		9.00	0.30
							実践薬剤学特論		3.00	0.10
授業担当時間の合計								324.37	10.81	
医療薬学科	教授	■■■■■	■	■	■■■■■	■■■■■	病院実務実習	◎	3.00	0.10
							病院実務実習	◎	3.00	0.10
							薬局実務実習	◎	3.00	0.10
							薬局実務実習	◎	3.00	0.10
							薬学特別演習 a/薬学特別演習 A		6.00	0.20
							薬学特別演習 b/薬学特別演習 B		6.00	0.20
							有機化学Ⅱ		22.50	0.75
							有機化学Ⅲ		22.50	0.75
							創薬化学特論		3.00	0.10
							有機化学実習	◎	22.50	0.75
							有機化学実習	◎	22.50	0.75
							基礎薬学総合実習	◎院	22.50	0.75
医薬品分子機能解析学特論	院	22.50	0.75							
授業担当時間の合計								162.00	5.40	
医療薬学科	教授(実務)	■■■■■	■	■	■■■■■	■■■■■	模擬病院・薬局実習	◎	67.50	2.25
							模擬病院・薬局実習	◎	67.50	2.25
							病院実務実習	◎	3.00	0.10
							病院実務実習	◎	3.00	0.10
							薬局実務実習	◎	3.00	0.10
							薬局実務実習	◎	3.00	0.10
							臨床栄養学特論		12.00	0.40
							薬学特別演習 a/薬学特別演習 A		6.00	0.20
							薬学特別演習 b/薬学特別演習 B		6.00	0.20
							早期体験学習Ⅰ		0.54	0.02
							早期体験学習Ⅱ		1.03	0.03
							実務実習事前学習Ⅰ		3.00	0.10
							薬事関連法規・制度		22.50	0.75
							子一ム医療実践演習		22.50	0.75
							臨床医学入門		2.25	0.08
授業担当時間の合計								222.82	7.43	

学科 ¹⁾	職名 ²⁾	氏名	年齢	性別	学位称号	現職就任年月日	授業担当科目 ³⁾	授業時間 ⁴⁾	年間で平均した週当り授業時間 ⁵⁾	
医療薬学科	教授 (実務)	■■■■■	■	■	■■■■■	■■■■■	模擬病院・薬局実習	◎	67.50	2.25
							模擬病院・薬局実習	◎	67.50	2.25
							病院実務実習	◎	3.00	0.10
							病院実務実習	◎	3.00	0.10
							薬局実務実習	◎	3.00	0.10
							薬局実務実習	◎	3.00	0.10
							薬物治療学 I		22.50	0.75
							薬学特別演習 a/薬学特別演習 A		6.00	0.20
							早期体験学習 I		1.44	0.05
							早期体験学習 II		1.78	0.06
							実務実習事前学習 I		1.50	0.05
							処方提案論		22.50	0.75
							個別化医療特論		12.00	0.40
							薬学特別演習 b/薬学特別演習 B		6.00	0.20
							授業担当時間の合計		220.72	7.36
医療薬学科	教授	■■■■■	■	■	■■■■■	■■■■■	薬学英語 B		3.00	0.10
							生化学実習	◎	22.50	0.75
							生化学実習	◎	22.50	0.75
							病院実務実習	◎	3.00	0.10
							病院実務実習	◎	3.00	0.10
							薬局実務実習	◎	3.00	0.10
							薬局実務実習	◎	3.00	0.10
							生化学 I		22.50	0.75
							生化学 II		22.50	0.75
							分子生物薬学		22.50	0.75
							薬学特別演習 a/薬学特別演習 A		6.00	0.20
							薬学特別演習 b/薬学特別演習 B		6.00	0.20
							基礎薬学総合実習	◎院	22.50	0.75
							分子病態生化学特論	院	22.50	0.75
							授業担当時間の合計		184.50	6.15
医療薬学科	教授	■■■■■	■	■	■■■■■	■■■■■	薬物治療学実習	◎	22.50	0.75
							薬物治療学実習	◎	22.50	0.75
							病院実務実習	◎	3.00	0.10
							病院実務実習	◎	3.00	0.10
							薬局実務実習	◎	3.00	0.10
							薬局実務実習	◎	3.00	0.10
							臨床医学概論		18.00	0.60
							薬物治療学 II		16.50	0.55
							薬学特別演習 a/薬学特別演習 A		6.00	0.20
							薬物治療学 III		16.50	0.55
							実務実習事前学習 I		1.50	0.05
							薬学特別演習 b/薬学特別演習 B		6.00	0.20
							内科疾病・治療学		22.50	0.75
							女性のためのライフプランニング		10.50	0.35
							授業担当時間の合計		154.50	5.15
医療薬学科	准教授	■■■■■	■	■	■■■■■	■■■■■	薬剤学実習	◎	22.50	0.75
							薬剤学実習	◎	22.50	0.75
							模擬病院・薬局実習	◎	67.50	2.25
							模擬病院・薬局実習	◎	67.50	2.25
							病院実務実習	◎	3.00	0.10
							病院実務実習	◎	3.00	0.10
							薬局実務実習	◎	3.00	0.10
							薬局実務実習	◎	3.00	0.10
							薬物動態学 I		22.50	0.75
							薬物動態学 II		22.50	0.75
							薬学特別演習 a/薬学特別演習 A		6.00	0.20
							薬学特別演習 b/薬学特別演習 B		6.00	0.20
							実務実習事前学習 I		1.50	0.05
							臨床医学入門		2.25	0.08
							実践薬剤学特論		6.00	0.20
授業担当時間の合計		258.75	8.63							

学科 ¹⁾	職名 ²⁾	氏名	年齢	性別	学位称号	現職就任年月日	授業担当科目 ³⁾	授業時間 ⁴⁾	年間で平均した週当り授業時間 ⁵⁾	
医療薬学科	准教授 (実務)	■■■■■	■	■	■■■■■	■■■■■	模擬病院・薬局実習	◎	67.50	2.25
							模擬病院・薬局実習	◎	67.50	2.25
							病院実務実習	◎	3.00	0.10
							病院実務実習	◎	3.00	0.10
							薬局実務実習	◎	3.00	0.10
							薬局実務実習	◎	3.00	0.10
							臨床薬剤学 I		2.25	0.08
							臨床薬剤学 II		3.00	0.10
							医薬品情報学		22.50	0.75
							薬学特別演習 a / 薬学特別演習 A		6.00	0.20
							薬学特別演習 b / 薬学特別演習 B		6.00	0.20
							早期体験学習 I		0.54	0.02
							早期体験学習 II		1.11	0.04
							調剤学 II		2.25	0.08
							実務実習事前学習 I		3.00	0.10
							実務実習事前学習 II		6.00	0.20
							感染対策特論		6.00	0.20
授業担当時間の合計								205.65	6.86	
医療薬学科	准教授	■■■■■	■	■	■■■■■	■■■■■	薬学英語 A		7.50	0.25
							薬学英語 A		7.50	0.25
							薬学英語 A		7.50	0.25
							生薬学実習	◎	22.50	0.75
							生薬学実習	◎	22.50	0.75
							東洋医学特論		6.00	0.20
							病院実務実習	◎	3.00	0.10
							病院実務実習	◎	3.00	0.10
							薬局実務実習	◎	3.00	0.10
							薬局実務実習	◎	3.00	0.10
							天然医薬品化学		22.50	0.75
							薬学特別演習 a / 薬学特別演習 A		6.00	0.20
							薬学特別演習 b / 薬学特別演習 B		6.00	0.20
							生薬学 I		22.50	0.75
生薬学 II		22.50	0.75							
授業担当時間の合計								165.00	5.50	
医療薬学科	准教授	■■■■■	■	■	■■■■■	■■■■■	薬学英語 A		7.50	0.25
							薬学英語 A		7.50	0.25
							薬学英語 A		7.50	0.25
							東洋医学特論		6.00	0.20
							模擬病院・薬局実習	◎	67.50	2.25
							模擬病院・薬局実習	◎	67.50	2.25
							病院実務実習	◎	3.00	0.10
							病院実務実習	◎	3.00	0.10
							薬局実務実習	◎	3.00	0.10
							薬局実務実習	◎	3.00	0.10
							薬学特別演習 a / 薬学特別演習 A		6.00	0.20
							薬学特別演習 b / 薬学特別演習 B		6.00	0.20
							早期体験学習 I		6.69	0.22
							早期体験学習 II		5.33	0.18
							処方解析学		22.50	0.75
							実務実習事前学習 I		4.50	0.15
実践薬剤学特論		3.00	0.10							
授業担当時間の合計								229.52	7.65	
医療薬学科	准教授	■■■■■	■	■	■■■■■	■■■■■	ゲノム創薬特論		1.50	0.05
							病院実務実習	◎	3.00	0.10
							病院実務実習	◎	3.00	0.10
							薬局実務実習	◎	3.00	0.10
							薬局実務実習	◎	3.00	0.10
							基礎物理化学		22.50	0.75
							医薬品無機・放射化学		22.50	0.75
							薬学特別演習 a / 薬学特別演習 A		6.00	0.20
							薬学特別演習 b / 薬学特別演習 B		6.00	0.20
							生命物理化学実習	◎	22.50	0.75
生命物理化学実習	◎	22.50	0.75							
授業担当時間の合計								115.50	3.85	

学科 ¹⁾	職名 ²⁾	氏名	年齢	性別	学位称号	現職就任年月日	授業担当科目 ³⁾	授業時間 ⁴⁾	年間で平均した週当り授業時間 ⁵⁾	
医療薬学科	准教授	■■■■■	■	■	■■■■■	■■■■■	病院実務実習	◎	3.00	0.10
							病院実務実習	◎	3.00	0.10
							薬局実務実習	◎	3.00	0.10
							薬局実務実習	◎	3.00	0.10
							薬学特別演習 a / 薬学特別演習 A		6.00	0.20
							薬学特別演習 b / 薬学特別演習 B		6.00	0.20
							有機化学 I		19.50	0.65
							有機化学 IV		19.50	0.65
							創薬化学特論		3.00	0.10
							有機化学実習	◎	22.50	0.75
							有機化学実習	◎	22.50	0.75
							基礎薬学総合実習	◎院	22.50	0.75
							医薬品構造機能相関学特論	院	22.50	0.75
							授業担当時間の合計			
医療薬学科	准教授	■■■■■	■	■	■■■■■	■■■■■	薬学英語 A		7.50	0.25
							薬学英語 A		7.50	0.25
							薬学英語 A		7.50	0.25
							医薬品分析化学実習	◎	22.50	0.75
							医薬品分析化学実習	◎	22.50	0.75
							病院実務実習	◎	3.00	0.10
							病院実務実習	◎	3.00	0.10
							薬局実務実習	◎	3.00	0.10
							薬局実務実習	◎	3.00	0.10
							基礎化学		22.50	0.75
							医薬品分析化学 I		22.50	0.75
							生体分析化学		22.50	0.75
							薬学特別演習 a / 薬学特別演習 A		6.00	0.20
							薬学特別演習 b / 薬学特別演習 B		6.00	0.20
授業担当時間の合計								159.00	5.30	
医療薬学科	特任教授	■■■■■	■	■	■■■■■	■■■■■	病院実務実習	◎	3.00	0.10
							病院実務実習	◎	3.00	0.10
							薬局実務実習	◎	3.00	0.10
							薬局実務実習	◎	3.00	0.10
							基礎生物学		22.50	0.75
							機能形態学 I		22.50	0.75
							薬学特別演習 a / 薬学特別演習 A		36.00	1.20
							薬学特別演習 b / 薬学特別演習 B		33.00	1.10
							実務実習事前学習 I		7.50	0.25
							実務実習事前学習 II		16.50	0.55
							授業担当時間の合計			
医療薬学科	特任教授 (実務)	■■■■■	■	■	■■■■■	■■■■■	女性のための医学		12.00	0.40
							模擬病院・薬局実習	◎	67.50	2.25
							模擬病院・薬局実習	◎	67.50	2.25
							病院実務実習	◎	3.00	0.10
							病院実務実習	◎	3.00	0.10
							薬局実務実習	◎	3.00	0.10
							薬局実務実習	◎	3.00	0.10
							薬業経済学		16.50	0.55
							薬剤管理指導特論		12.00	0.40
							薬学特別演習 a / 薬学特別演習 A		6.00	0.20
							薬学特別演習 b / 薬学特別演習 B		6.00	0.20
							早期体験学習 I		6.69	0.22
							早期体験学習 II		5.33	0.18
							医療倫理入門		13.50	0.45
							実務実習事前学習 I		3.00	0.10
女性のための医学		12.00	0.40							
授業担当時間の合計								240.02	8.00	

学科 ¹⁾	職名 ²⁾	氏名	年齢	性別	学位称号	現職就任年月日	授業担当科目 ³⁾	授業時間 ⁴⁾	年間で平均した週当り授業時間 ⁵⁾	
医療薬学科	特任教授	■■■■■	■	■	■■■	■■■■■	衛生薬学実習	◎	22.50	0.75
							衛生薬学実習	◎	22.50	0.75
							病院実務実習	◎	3.00	0.10
							病院実務実習	◎	3.00	0.10
							薬局実務実習	◎	3.00	0.10
							薬局実務実習	◎	3.00	0.10
							衛生化学		22.50	0.75
							食品衛生化学		16.50	0.55
							公衆衛生学		19.50	0.65
							環境衛生学		22.50	0.75
							薬学特別演習 a / 薬学特別演習 A		6.00	0.20
							薬学特別演習 b		9.00	0.30
							医療薬学総合実習	◎院	22.50	0.75
							授業担当時間の合計			
医療薬学科	特任教授(実務)	■■■■■	■	■	■■■	■■■■■	模擬病院・薬局実習	◎	67.50	2.25
							模擬病院・薬局実習	◎	67.50	2.25
							病院実務実習	◎	3.00	0.10
							病院実務実習	◎	3.00	0.10
							薬局実務実習	◎	3.00	0.10
							薬局実務実習	◎	3.00	0.10
							臨床薬剤学 I		20.25	0.68
							臨床薬剤学 II		19.50	0.65
							薬学特別演習 a / 薬学特別演習 A		6.00	0.20
							薬学特別演習 b / 薬学特別演習 B		6.00	0.20
							早期体験学習 I		0.54	0.02
							早期体験学習 II		1.03	0.03
							調剤学 II		20.25	0.68
							実務実習事前学習 I		4.50	0.15
							実務実習事前学習 II		19.50	0.65
							感染対策特論		6.00	0.20
授業担当時間の合計								250.57	8.35	
医療薬学科	特任教授	■■■■■	■	■	■■■	■■■■■	薬物治療学実習	◎	22.50	0.75
							薬物治療学実習	◎	22.50	0.75
							病院実務実習	◎	3.00	0.10
							病院実務実習	◎	3.00	0.10
							薬局実務実習	◎	3.00	0.10
							薬局実務実習	◎	3.00	0.10
							臨床医学概論		4.50	0.15
							薬物治療学 II		6.00	0.20
							薬学特別演習 a / 薬学特別演習 A		6.00	0.20
							薬学特別演習 b / 薬学特別演習 B		6.00	0.20
							基礎病理学		22.50	0.75
							臨床病理学		22.50	0.75
							薬物治療学 III		6.00	0.20
							実務実習事前学習 I		1.50	0.05
							臨床医学入門		2.25	0.08
							体のしくみ		22.50	0.75
							基盤病理学		22.50	0.75
女性のためのライフプランニング		12.00	0.40							
医療薬学総合実習	◎院	22.50	0.75							
授業担当時間の合計								213.75	7.13	
医療薬学科	特任教授	■■■■■	■	■	■■■	■■■■■	薬学英語 B		3.00	0.10
							薬理学実習	◎	22.50	0.75
							薬理学実習	◎	22.50	0.75
							薬理学特論		3.00	0.10
							病院実務実習	◎	3.00	0.10
							病院実務実習	◎	3.00	0.10
							薬局実務実習	◎	3.00	0.10
							薬局実務実習	◎	3.00	0.10
							病態生理学		22.50	0.75
							医薬品毒性学		22.50	0.75
							医療安全性学		22.50	0.75
							薬学特別演習 a / 薬学特別演習 A		6.00	0.20
							薬学特別演習 b / 薬学特別演習 B		6.00	0.20
							医療薬学総合実習	◎院	22.50	0.75
授業担当時間の合計								165.00	5.50	

学科 ¹⁾	職名 ²⁾	氏名	年齢	性別	学位称号	現職就任年月日	授業担当科目 ³⁾	授業時間 ⁴⁾	年間で平均した週当り授業時間 ⁵⁾							
医療薬学科	特任助教 (有期)	■■■■■	■	■	■■■■■	■■■■■	薬剤学実習	◎	22.50	0.75						
							薬剤学実習	◎	22.50	0.75						
							病院実務実習	◎	3.00	0.10						
							病院実務実習	◎	3.00	0.10						
							薬局実務実習	◎	3.00	0.10						
							薬局実務実習	◎	3.00	0.10						
							物理薬剤学		3.00	0.10						
							早期体験学習 I		1.07	0.04						
							実務実習事前学習 I		0.75	0.03						
授業担当時間の合計								61.82	2.06							
医療薬学科	特任助教 (有期)	■■■■■	■	■	■■■■■	■■■■■	生化学実習	◎	22.50	0.75						
							生化学実習	◎	22.50	0.75						
							免疫・感染症学特論		1.50	0.05						
							病院実務実習	◎	3.00	0.10						
							病院実務実習	◎	3.00	0.10						
							薬局実務実習	◎	3.00	0.10						
							薬局実務実習	◎	3.00	0.10						
							臨床病態生化学		3.00	0.10						
							授業担当時間の合計								61.50	2.05
医療薬学科	特任助教 (有期)	■■■■■	■	■	■■■■■	■■■■■	薬剤学実習	◎	22.50	0.75						
							薬剤学実習	◎	22.50	0.75						
							模擬病院・薬局実習	◎	67.50	2.25						
							模擬病院・薬局実習	◎	67.50	2.25						
							病院実務実習	◎	3.00	0.10						
							病院実務実習	◎	3.00	0.10						
							薬局実務実習	◎	3.00	0.10						
							薬局実務実習	◎	3.00	0.10						
							授業担当時間の合計								192.00	6.40
医療薬学科	特任助教 (有期)	■■■■■	■	■	■■■■■	■■■■■	薬理学実習	◎	22.50	0.75						
							薬理学実習	◎	22.50	0.75						
							薬理学特論		1.50	0.05						
							病院実務実習	◎	3.00	0.10						
							病院実務実習	◎	3.00	0.10						
							薬局実務実習	◎	3.00	0.10						
							薬局実務実習	◎	3.00	0.10						
							授業担当時間の合計								58.50	1.95
							医療薬学科	特任助教 (有期)	■■■■■	■	■	■■■■■	■■■■■	病院実務実習	◎	3.00
病院実務実習	◎	3.00	0.10													
薬局実務実習	◎	3.00	0.10													
薬局実務実習	◎	3.00	0.10													
有機化学 I		1.50	0.05													
有機化学IV		1.50	0.05													
創薬化学特論		1.50	0.05													
有機化学実習	◎	22.50	0.75													
有機化学実習	◎	22.50	0.75													
授業担当時間の合計								61.50	2.05							
医療薬学科	特任助教 (有期)	■■■■■	■	■	■■■■■	■■■■■	病院実務実習	◎	3.00	0.10						
							病院実務実習	◎	3.00	0.10						
							薬局実務実習	◎	3.00	0.10						
							薬局実務実習	◎	3.00	0.10						
							有機化学 I		1.50	0.05						
							有機化学IV		1.50	0.05						
							創薬化学特論		1.50	0.05						
							有機化学実習	◎	22.50	0.75						
							有機化学実習	◎	22.50	0.75						
授業担当時間の合計								61.50	2.05							
医療薬学科	特任助教 (有期)	■■■■■	■	■	■■■■■	■■■■■	薬理学実習	◎	22.50	0.75						
							薬理学実習	◎	22.50	0.75						
							薬理学特論		1.50	0.05						
							病院実務実習	◎	3.00	0.10						
							病院実務実習	◎	3.00	0.10						
							薬局実務実習	◎	3.00	0.10						
							薬局実務実習	◎	3.00	0.10						
授業担当時間の合計								58.50	1.95							

学科 ¹⁾	職名 ²⁾	氏名	年齢	性別	学位称号	現職就任年月日	授業担当科目 ³⁾	授業時間 ⁴⁾	年間で平均した週当り授業時間 ⁵⁾	
医療薬学科	特任助教 (有期)	■■■■■	■	■	■■■■■	■■■■■	薬剤学実習	◎	22.50	0.75
							薬剤学実習	◎	22.50	0.75
							模擬病院・薬局実習	◎	67.50	2.25
							模擬病院・薬局実習	◎	67.50	2.25
							病院実務実習	◎	3.00	0.10
							病院実務実習	◎	3.00	0.10
							薬局実務実習	◎	3.00	0.10
							薬局実務実習	◎	3.00	0.10
							早期体験学習Ⅰ		1.44	0.05
							早期体験学習Ⅱ		2.08	0.07
							臨床薬学概論		6.00	0.20
							調剤学Ⅰ		6.00	0.20
							実務実習事前学習Ⅰ		0.75	0.03
							セルフメディケーション・在宅医療特論		3.00	0.10
授業担当時間の合計								211.27	7.04	
医療薬学科	特任助教 (有期)	■■■■■	■	■	■■■■■	■■■■■	衛生薬学実習	◎	22.50	0.75
							衛生薬学実習	◎	22.50	0.75
							ゲノム創薬特論		1.50	0.05
							食品衛生化学		4.50	0.15
							病院実務実習	◎	3.00	0.10
							病院実務実習	◎	3.00	0.10
							薬局実務実習	◎	3.00	0.10
							薬局実務実習	◎	3.00	0.10
							授業担当時間の合計			
医療薬学科	特任助教 (有期)	■■■■■	■	■	■■■■■	■■■■■	生化学実習	◎	22.50	0.75
							生化学実習	◎	22.50	0.75
							病院実務実習	◎	3.00	0.10
							病院実務実習	◎	3.00	0.10
							薬局実務実習	◎	3.00	0.10
							薬局実務実習	◎	3.00	0.10
							薬理学Ⅰ		3.00	0.10
授業担当時間の合計								60.00	2.00	
医療薬学科	特任助教 (有期)	■■■■■	■	■	■■■■■	■■■■■	衛生薬学実習	◎	22.50	0.75
							衛生薬学実習	◎	22.50	0.75
							食品衛生化学		1.50	0.05
							公衆衛生学		3.00	0.10
							病院実務実習	◎	3.00	0.10
							病院実務実習	◎	3.00	0.10
							薬局実務実習	◎	3.00	0.10
							薬局実務実習	◎	3.00	0.10
授業担当時間の合計								61.50	2.05	
医療薬学科	特任助教 (有期)	■■■■■	■	■	■■■■■	■■■■■	薬剤学実習	◎	22.50	0.75
							薬剤学実習	◎	22.50	0.75
							病院実務実習	◎	3.00	0.10
							病院実務実習	◎	3.00	0.10
							薬局実務実習	◎	3.00	0.10
							薬局実務実習	◎	3.00	0.10
授業担当時間の合計								57.00	1.90	
医療薬学科	特任助教 (有期)	■■■■■	■	■	■■■■■	■■■■■	生化学実習	◎	22.50	0.75
							生化学実習	◎	22.50	0.75
							免疫・感染症学特論		1.50	0.05
							病院実務実習	◎	3.00	0.10
							病院実務実習	◎	3.00	0.10
							薬局実務実習	◎	3.00	0.10
							薬局実務実習	◎	3.00	0.10
授業担当時間の合計								58.50	1.95	
医療薬学科	特任助教 (有期)	■■■■■	■	■	■■■■■	■■■■■	病院実務実習	◎	3.00	0.10
							病院実務実習	◎	3.00	0.10
							薬局実務実習	◎	3.00	0.10
							薬局実務実習	◎	3.00	0.10
							有機化学実習	◎	22.50	0.75
							有機化学実習	◎	22.50	0.75
授業担当時間の合計								57.00	1.90	

- 1) 薬学科（6年制）専任教員のみが対象ですが、2学科制薬学部で4年制学科の兼任教員となっている場合は（兼任学科名）を付記してください。
- 2) 臨床における実務経験を有する専任教員には、職名に（実務）と付記してください。
- 3) 「授業担当科目」には、「卒業研究」の指導を除く全ての授業担当科目（兼任学科・兼任学科の科目、大学院の授業科目も含む）を記入し、実習科目は科目名の右欄に◎を、大学院科目は「院」の字を記入してください。
- 4) 「授業時間」には、当該教員がその科目で行う延べ授業時間を時間数を、以下に従ってご記入ください。
※講義科目は時間割から計算される実際の時間数（1コマ90分の授業15回担当すれば、 $90 \times 15 \div 60 = 22.5$ 時間）を記入します。
※複数教員で分担している場合は授業回数を分担回数とし、履修者が多いため同一科目を反復開講している場合は授業時間数に反復回数を乗じます。
※実習科目では、同一科目を複数教員（例えば、教授1名と助教、助手2名）が担当していても、常時共同で指導している場合は分担担当としません。
- 5) 「年間で平均した週当り授業時間」には、総授業時間を「30」（授業が実施される1年間の基準週数）で除した値を記入してください。
開講する週数が30週ではない大学でも、大学間の比較ができるよう「30」で除してください。

(基礎資料7) 教員の教育担当状況(続)

表2. 助手(基礎資料5の表2)の教育担当状況

学科	職名	氏名	年齢	性別	学位	就任年月日	授業担当科目	◎	総授業時間	年間で平均した週当り授業時間
医療薬学科	助手	■	■	■	■	■	生薬学実習	◎	22.50	0.75
							生薬学実習	◎	22.50	0.75
医療薬学科	助手	■	■	■	■	■	薬物治療学実習	◎	22.50	0.75
							薬物治療学実習	◎	22.50	0.75
医療薬学科	助手	■	■	■	■	■	模擬病院・薬局実習	◎	67.50	2.25
							模擬病院・薬局実習	◎	67.50	2.25
医療薬学科	助手	■	■	■	■	■	微生物学実習	◎	22.50	0.75
							微生物学実習	◎	22.50	0.75
医療薬学科	助手	■	■	■	■	■	薬理学実習	◎	22.50	0.75
							薬理学実習	◎	22.50	0.75
医療薬学科	助手	■	■	■	■	■	医薬品分析化学実習	◎	22.50	0.75
							医薬品分析化学実習	◎	22.50	0.75

[注] 担当時間数などの記入については(基礎資料7)の表1の脚注に倣ってください。助手については、「授業担当時間の合計」の算出は不要です。

表3. 兼任教員(基礎資料5の表2)が担当する薬学科(6年制)の専門科目と担当時間

学科	職名	氏名	年齢	性別	学位	現職就任年月日	授業担当科目	◎	総授業時間	年間で平均した週当り授業時間
該当なし										

[注] 担当時間数などの記入については(基礎資料7)の表1の脚注に倣ってください。兼任教員については、「授業担当時間の合計」の算出は不要です。

(基礎資料 8) 卒業研究の学生配属状況および研究室の広さ

4年生の在籍学生数	124名
5年生の在籍学生数	121名
6年生の在籍学生数	123名

2021年5月1日現在

	配属講座など	指導教員数	4年生	5年生	6年生	合計	卒業研究を実施する研究室の面積 (m ²)
			配属学生数	配属学生数	配属学生数		
1	薬理学研究室	3	8	7	7	22	140
2	薬物治療学研究室	3	9	8	6	23	140
3	病態生理学研究室	2	7	7	7	21	140
4	生命物理化学研究室	2	6	10	6	22	140
5	医薬品分析学研究室	3	7	7	7	21	140
6	創薬有機化学研究室	3	8	8	7	23	140
7	微生物薬品化学研究室	2	8	8	8	24	140
8	生化学研究室	2	6	7	8	21	140
9	病態分子制御学研究室	3	9	1	5	15	140
10	医薬品製造化学研究室	2	8	8	5	21	140
11	生薬学研究室	2	8	6	8	22	140
12	衛生化学研究室	3	8	8	6	22	140
13	臨床薬剤学研究室	3	9	7	7	23	140
14	生物薬剤学研究室	3	8	8	8	24	140
15	薬物動態学研究室	3	7	7	8	22	140
16	臨床薬学教育研究センター	3	8	13	11	32	100
合 計		42	124	120	114		

- [注] 1 卒業研究を実施している学年にあわせ、欄を増減して作成してください。
 2 指導教員数には担当する教員（助手を含む）の数を記入してください。
 3 講座制をとっていない大学は、配属講座名を適宜変更して作成してください。
 4 隣接する複数の講座などで共有して使用する実験室などは、基礎資料11-2に記載してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
同志社女子大学	講座名 薬理学研究室	職名 教授	氏名 藤井 健志
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫			なし
2 作成した教科書、教材、参考書			なし
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項			なし
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Distinct Roles of $\alpha 7$ nAChRs in Antigen-Presenting Cells and CD4+ T Cells in the Regulation of T Cell Differentiation.	共著	2019年5月	Front Immunol 10: 1102.
(論文) Minireview: Divergent roles of $\alpha 7$ nicotinic acetylcholine receptors expressed on antigen-presenting cells and CD4+ T cells in the regulation of T cell differentiation.	共著	2020年2月	Int Immunopharmacol 82: 106306.
(論文) $\alpha 7$ nAChRs expressed on antigen presenting cells are insensitive to the conventional antagonists α -bungarotoxin and methyllycaconitine.	共著	2020年4月	Int Immunopharmacol 81: 106276.
(論文) The 89-kDa PARP1 cleavage fragment serves as a cytoplasmic PAR carrier to induce AIF-mediated apoptosis.	共著	2021年1月	J Biol Chem 296: 100046.
(論文) Regulation of Immune Functions by Non-Neuronal Acetylcholine (ACh) via Muscarinic and Nicotinic ACh Receptors.	共著	2021年6月	Int J Mol Sci 22: 6818
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
$\alpha 7$ nAChR作動薬の免疫療法への臨床応用を目指したトランスレーショナルリサーチ	共著	2021年9月	令和2年度助成研究発表会、公益社団法人喫煙科学研究財団
O-Glu-Nac修飾の増減がSTIM-Ser621リン酸化抑制を介してSOCEを減少させる	共著	2021年10月	第71回日本薬学会関西支部総会・大会
ユビキチンリガーゼ Iduna は PARP1 依存的 EGFR のエンドサイトーシスを促進する	共著	2021年10月	第71回日本薬学会関西支部総会・大会
PARP1 によるエンドサイトーシスの抑制はプログラム細胞死 parthanatos の新たな機序となる	共著	2021年10月	第71回日本薬学会関西支部総会・大会
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2017年4月～現在	日本薬理学会学術評議員		
2017～現在	学会誌・商業誌等論文審査員(Elsevier: Act Pharma Sin, BBActa, Clin Immunol, J Neuroimmunol, Life Sci, Brain Res, Int Immunopharmacol; Frontiers: Immunol, Cell Develop Biol, Neurosci, Pharmacol; Biomed; Int J Mol Sci Res,)		
2018	Journal of Neuroimmunologyエルゼビア審査員優秀賞		
2021年7月～2022年6月	独立行政法人日本学術振興会 特別研究員等専門委員、卓越研究員候補者選考委員会書面審査委員及び国際事業委員会書面審査委員・書面審査評価委員		

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は in press を含む。
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
同志社女子大学	講座名 微生物薬品化学	職名 教授	氏名 川崎清史
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 授業に関するアンケートと振り返りシート		毎年学期末	学期末ごとに「授業に関するアンケート」の結果を踏まえて「振り返りシート」を提出して改善に努めている
2 作成した教科書、教材、参考書 薬学領域の病原微生物学・感染症学・化学療法学(第4版)		2018年3月	薬系微生物学の教科書。改訂版(第4版)。共著
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			特記事項なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 FD講習会参加 アクティブラーニング研究会参加			2020年度FD講習会「遠隔授業における著作権について」、2019年度FD講習会「授業改善につなげるルーブリック評価の意義と実践」、2017年度FD講習会「3つのポリシーと学習成果」 第15回アクティブ・ラーニング研究会「Face to Faceの教育／学びのSide by side」、第12回アクティブ・ラーニング研究会「アクティブ・ラーニングの必要性・その種類・可能性」、第11回アクティブ・ラーニング研究会「音楽によるアウトリーチ」初年度の取り組み、第10回アクティブ・ラーニング研究会「つくって・かたって・ふりかえる」授業の設計と学習環境デザイン、第9回アクティブ・ラーニング研究会「学生主体の英語劇上演への取り組み—「シェイクスピア・プロダクション」の歩みと現状—」、第8回アクティブ・ラーニング研究会「薬学教育における技能と態度領域の学習—実習科目における実践—」
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
Phagocytosis of microparticles increases responsiveness of macrophage-like cell lines U937 and THP-1 to bacterial lipopolysaccharide and lipopeptide	共著	2021年3月	Scientific Reports 11:6782
Enhanced cellular uptake of CpG DNA by α -helical antimicrobial peptide Kn2-7: Effects on macrophage responsiveness to CpG DNA	共著	2020年9月	Biochem. Biophys. Res. Commun. vol.530, 100-106

Maspin binds to cardiolipin in mitochondria and triggers apoptosis	共著	2019年5月	FASEB J. Vol.33 (5) 6354-6364
Imidazolines increase the levels of the autophagosomal marker LC3-II in macrophage-like RAW264.7 cells.	共著	2018年8月	Can. J. Physiol. Pharmacol. Vol. 96, No. 8: pp. 845-849
D-form KLKLLLLLKLK-NH2 peptide exerts higher antimicrobial properties than its L-form counterpart via an association with bacterial cell wall components	共著	2017年3月	Scientific Reports 7:43384
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
抗菌ペプチドのマクロファージCpG DNA認識応答増強作用にはペプチドの両親媒性が重要である		2021年11月	第94回日本生化学会大会
Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
2015年4月～2018年3月	日本薬学会 学術誌編集委員		
2018年8月～現在	日本薬学会 環境衛生部会 BPB Reports 編集委員会 委員		

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
同志社女子大学	講座名 生命物理化学	職名 教授	氏名 桑原 淳
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 なし			
2 作成した教科書、教材、参考書 生命物理化学実習書 生命物理化学PC実習書		2017年10月1日 2017年10月1日	学生実習に供する実習書（毎年） 学生実習に供する実習書（毎年）
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 なし			
4 その他教育活動上特記すべき事項 薬学部 基礎教育推進委員会 委員長 国家試験問題検討委員会 委員		2016年4月1日- 2018年5月1日 2005年4月1日 - 現在	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
(論文) Identification of heteromolecular binding sites in transcription factors Sp1 and TAF4 using high-resolution nuclear magnetic resonance spectroscopy.	共著	2017年11月	Protein Sci. Vol. 26, No. 11, 2280-2290. 米国蛋白質学会
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
(演題名) 転写因子の核輸送におけるzinc finger-importin相互作用		2021年・3月	日本薬学会 第141年会
(演題名) 転写因子GATA3の核局在化シグナルの解析口		2021年・3月	日本薬学会 第141年会
(演題名) C2H2 zinc finger-based nuclear import: Possible interaction of the zinc fingers with nuclear transporter		2021年・6月	第30回 金属の関与する生体関連反応シンポジウム
III 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
2017年4月～現在	金属の関与する生体関連反応シンポジウム（日本薬学会）評議員		
2017年4月～現在	米国蛋白質学会会員、蛋白質科学会会員		
2017年4月～現在	日本生化学会会員		
2017年4月～現在	日本薬学会会員		

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は in press を含む。
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
同志社女子大学	講座名 医薬品分析学研究室	職名 教授	氏名 前川 京子
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫			
(1)Power point映写等の視聴覚機材やプリント機材を活用した授業及び講義の動画配信		2017年1月～現在	プリント資料とPower Point映写を教科書とともに併用し、授業動画を作成した。Web学習支援システムを通して演習問題を配信し、学生の復習を促すことで、教育効果が向上した。
(2) 研究室所属学生を対象とした研究進捗発表会		2017年1月～現在	卒業研究の進捗発表会を適宜行うことで、学生のプレゼンテーション力やディスカッション力が向上した。
2 作成した教科書、教材、参考書			
(1)アップデート機器分析学（廣川書店）		2020年3月	薬学生を対象として、薬学領域に必要な機器分析法の最新の技術と理論を学習できるように編集された教科書である。臨床分析総論（pp. 245-252）、遺伝子分析法（pp. 274-282）の執筆を担当した。 編者：轟木堅一郎、明楽一己
(2) 医薬品分析学実習テキスト（第12～16版）		2017年～2021年度	医薬品分析化学実習テキストは同志社女子大学薬学部生のための実習テキストであり、化学的分析法と機器分析法を取り扱っている。 編者：前川京子、山内雄二、高橋知里
(3) 第十八改正日本薬局方		2021年6月	独立行政法人医薬品医療機器総合機構専門委員として、第十八改正日本薬局方の作成に従事した。参考情報 G8. 標準品関連の執筆を担当した。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項			
(1) 宗教主任		2019年4月～2021年3月	薬学部の宗教主任として、創立者墓前礼拝や春季リトリート等に参加した。
(2) 教務主任		2021年4月～現在	薬学部の宗教主任として、全学の教務部主任会、カリキュラム委員会に参加した

II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
(論文) Structure of Cytochrome P450 2C9*2 in Complex with Losartan: Insights into the Effect of Genetic Polymorphism.	共著	2020年11月	Mol Pharmacol.; 98:529-539.
(論文) Serum lipidomics for exploring biomarkers of bortezomib therapy in patients with multiple myeloma.	共著	2019年10月	Cancer Sci.; 110:3267-3274.
(論文) 高速液体クロマトグラフィー - 質量分析計 (HPLC-MS/MS) を用いたゲンタマイシン硫酸塩の品質評価法の検討.	共著	2019年5月	医薬品医療機器レギュラトリーサイエンス; 50: 286-294.
(論文) Structural Basis of Single Nucleotide Polymorphisms in CytochromeP450 2C9.	共著	2017年10月	Biochemistry; 56:5476-5480.
(論文) Plasma Lipidomics of Healthy Japanese Adults Reveals Gender- and Age-Related Differences.	共著	2017年9月	J Pharm Sci.; 106:2914-2918.
2. 学会発表		発表年・月	学会名
(演題名) 生物物理学的アプローチによるロサルタンの薬物代謝酵素 CYP2C9への結合基盤の解明		2021年11月	日本薬物動態学会
III 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
2017年5月～現在	独立行政法人医薬品医療機器総合機構専門委員		
2017年8月～現在	奈良県後発医薬品安心使用促進協議会委員		
2017年11月～2021年11月	日本薬物動態学会理事		
2020年4月～現在	日本薬学会物理系薬学部会 世話人		
2021年10月～現在	内閣府食品安全委員会委員		

[注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。

2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。

4 「II 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。

5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

※ 「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。

※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
同志社女子大学	講座名	臨床病態生化学	職名教授 氏名 松野浩之
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 該当なし			
2 作成した教科書、教材、参考書 Endocrinology Blood & Circulation Gastroenterology & Gynecology		2019.4 2020.4 2021.4	内分泌疾患、症例・病態学習 血液・循環器、症例・病態学習 消化器・婦人科領域、症例・病態学習
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 該当なし			
4 その他教育活動上特記すべき事項 該当なし			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
該当なし			
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
該当なし			
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2021年6月-9月	コロナワクチン摂取ボランティア(不定期に週末)		

- [注] 1 対象期限: 評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は in press を含む。
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください(年度ごとに代表的なもの2件まで)。
- 4 「II 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
同志社女子大学	講座名 病態分子制御学	職名 教授	氏名 尾崎 恵一
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫	2017年4月 2020年4月	大阪薬科大学にて双方向ICTツール(レスポソ)を導入 対面、オンライン講義、動画配信等多様な授業実施
2	作成した教科書、教材、参考書	2017年4月 2020年4月	大阪薬科大学にて生物学実習書 編纂 生化学実習書(動物編) 編纂
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等	2017年9月 2019年8月	第2回日本薬学教育学会にて教育・FD活動について講演 第4回日本薬学教育学会にて初年次教育効果について発表
4	その他教育活動上特記すべき事項	2017年8月 2021年10月	大阪薬科大学にてFD研修会 講師 第16回アクティブラーニング研究会 講師
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号 数)等の名称
Effects of sterol derivatives in cationic liposomes on biodistribution and gene knockdown in the lungs of mice systemically injected with siRNA lipoplexes.	共著	2021年6月	<i>Mol. Med. Rep.</i> 24:598
microRNA-30c attenuates fibrosis progression and vascular dysfunction in systemic sclerosis model mice.	共著	2021年4月	<i>Mol. Bio. Rep.</i> 48:3431-37
Effect of PEG-anchor in PEGylated siRNA lipoplexes on in vitro gene silencing effects and siRNA biodistribution in mice.	共著	2020年8月	<i>Mol. Med. Rep.</i> 22:4183-96
Optimized combination of cationic lipids and neutral helper lipids in cationic liposomes for siRNA delivery into the lung by intravenous injection of siRNA lipoplexes.	共著	2019年6月	<i>J. Drug Deliv. Sci. Tec.</i> 52:1042-50
Effect of cationic lipid in cationic liposomes on siRNA delivery into the lung by intravenous injection of cationic lipoplex.	共著	2019年2月	<i>J. Drug Target.</i> 27:217-27
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
3T3-L1脂肪細胞分化・炎症シグナルに対するERK5-MAPキナーゼ阻害剤の影響		2021年10月	第71回 日本薬学会関西支部総会・大会
多剤耐性慢性骨髄性白血病細胞のHDAC阻害剤耐性化とその耐性克服法		2021年10月	第71回 日本薬学会関西支部総会・大会
BRAF-V600E変異大腸がん細胞株に対するMNK阻害剤とHDAC阻害剤との併用効果		2021年10月	第71回 日本薬学会関西支部総会・大会
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2012年4月～現在	日本がん分子標的治療学会 評議員		
2018年4月～現在	日本内分泌学会 評議員		
2020年4月～現在	日本薬学会 編集委員		
2020年4月～現在	大阪医科薬科大学 招聘教授・客員研究員		
2021年10月9日	第71回 日本薬学会関西支部総会・大会 口頭発表優秀発表賞審査員		

[注] 1 対象期限: 評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。

- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 - 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
 - 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 - 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
同志社女子大学	講座名 生物薬剤学研究室	職名 教授	氏名 芝田信人
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫		2020年1月1日 2020年4月1日 2021年4月1日	マナビーを用いたオンデマンド教材の作成 ZOOMあるいはTeamsを用いた授業動画配信 ZOOMを用いた多職種連携システム
2 作成した教科書、教材、参考書		2019年4月1日 2020年4月1日 2021年4月1日	2019年度臨床薬学概論講義書 2020年度臨床薬学概論講義書 2021年度臨床薬学概論講義書
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		2022年2月1日	大学院FD研究発表会
4 その他教育活動上特記すべき事項		2021年4月1日 2020年8月6日 2020年6月27日	地域における多職種連携構想に関する協議 第15回アクティブ・ラーニング研究会 第14回アクティブ・ラーニング研究会
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
先発医薬品・後発医薬品(錠剤)の溶出挙動の比較と評価	共著	2018年10月	同志社女子大学総合文化研究所紀要
Population Pharmacokinetics of Vancomycin in Patients Undergoing Allogeneic Hematopoietic Stem-Cell Transplantation	共著	2018年9月	Journal of Clinical Pharmacology
Pharmacokinetic-Pharmacodynamic Analysis of Cisplatin with Hydration and Mannitol Diuresis: The Contribution of Urine Cisplatin Concentration to Nephrotoxicity.	共著	2018年4月	European Journal of Drug Metabolism and Pharmacokinetics
Alterations in Cisplatin Pharmacokinetics and Its Acute/Sub-chronic Kidney Injury over Multiple Cycles of Cisplatin Treatment in Rats.	共著	2017年10月	Biological and Pharmaceutical Bulletin
Population pharmacokinetics of cyclosporine A in Japanese renal transplant patients: comprehensive analysis in a single center	共著	2017年6月	Pharmacokinetics and Disposition
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
亜鉛フィンガータンパク質をテンプレートに用いたCX2CおよびCX4C配位モチーフの酸化反応メカニズムの解明		2021年10月9日	第71回 日本薬学会関西支部総会・大会
二次構造形成時に誘起される二次元カチオンクラスターの細胞膜透過における重要性		2021年10月9日	第71回 日本薬学会関西支部総会・大会
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2017年4月~2021年12月	日本薬学会会員		
2017年4月~2021年12月	日本薬剤学会会員		
2017年4月~2021年12月	日本DDS学会会員		
2021年4月~2021年12月	関西広域連合登録販売者試験問題作成委員		

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は in press を含む。
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
同志社女子大学	講座名 医薬品製造化学研究室	職名 教授	氏名 白井 隆一
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫			
コロナ禍における在宅学習の効率化と教育効果の向上		2021年度	授業動画の配信と演習用ドリルを併用した
コロナ禍における在宅学習の効率化と教育効果の向上		2020年度	授業動画の配信と演習用ドリルを併用した
公正な非対面での定期試験実施法の開発		2020年度	不正行為をさせない遠隔定期試験を工夫した
2 作成した教科書、教材、参考書			
Web学習用演習問題		2021年度	毎講義ごとに作成したドリルで演習を実施した
対面・遠隔のハイブリッド授業用の動画作成		2021年度	作成した動画をStream上で公開した
Web学習用演習問題		2020年度	毎講義ごとに作成したドリルで演習を実施した
有機化学実習実習書		2020年度	有機化学実習で使用するテキストを作成した
Web学習用演習問題		2019年度	毎講義ごとに作成したドリルで演習を実施した
有機化学実習実習書		2019年度	有機化学実習で使用するテキストを作成した
Web学習用演習問題		2018年度	毎講義ごとに作成したドリルで演習を実施した
有機化学実習実習書		2018年度	有機化学実習で使用するテキストを作成した
Web学習用演習問題		2017年度	毎講義ごとに作成したドリルで演習を実施した
有機化学実習実習書		2017年度	有機化学実習で使用するテキストを作成した
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
なし			
4 その他教育活動上特記すべき事項			
なし			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
なし			
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) キラル相間移動触媒によるトロパ酸β-ラク톤の非酵素的不斉加水分解		2022年・3月	日本薬学会第142年会
(演題名) キラルリチウムアミドによるα-アリルオキシカルボン酸の不斉[2,3]-Wittig転位		2022年・3月	日本薬学会第142年会
(演題名) キラル相間移動触媒を用いたトロパ酸β-ラク톤の不斉加水分解		2021年・10月	第71回日本薬学会関西支部総会・大会
(演題名) キラルリチウムアミドを利用したカルボン酸エノラートの不斉Wittig転位		2021年・10月	第71回日本薬学会関西支部総会・大会
(演題名) 新規キラルリチウムアミドによるラセミ体カルボン酸の速度論的光学分割		2021年・10月	第47回反応と合成の進歩シンポジウム

Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）	
2017年4月～現在	日本薬学会代議員
2017年4月～現在	日本薬学会関西支部幹事
2017年	日本学術振興会 科学研究費補助金 第一段（書面審査）委員
2017年	日本学術振興会 卓越研究員候補者選考委員会 書面審査委員
2020年	日本薬学会 役員選考委員会委員

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
同志社女子大学	講座名	臨床薬学教育研究センター	職名 教授 氏名 杉浦伸一
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫		2017年4月	教育活動に食品、健康職員材料および化粧品等身近なものの効果を臨床研究によって評価する教育研究を取り入れたことで、薬の開発過程を安全に体験させることを可能とした。
2 作成した教科書、教材、参考書			倫理委員会資料の作成に学生を関わらせた
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			学生研究の結果を英文論文として投稿した
4 その他教育活動上特記すべき事項 なし			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Outbreak of immediate-type hydrolyzed wheat protein allergy due to a facial soap in Japan	共著	2017年7月	J Allergy Clin Immunol 2017; 7;140(3):879-881
(論文) Cochineal dye-induced immediate allergy: Review of Japanese cases and proposed new diagnostic chart	共著	2018年2月	Allergol Int. 2018 Oct;67(4):496-505
(論文) Cyanobacterium proliferative actions by special-glaze-applied ceramic pieces and their utilization.	共著	2020年3月	Glycative Stress Research 2020; 7 (1): 88-104
(論文) Water quality improvement effect from the installation of special-glaze-applied ceramics: Benten Pond, Ichikawa, Chiba, Japan	共著	2021年3月	Glycative Stress Research 2021; 8 (1): 20-28
(論文) Effects of bee pollen on athletes' conditions and exercise performances.	共著	2021年3月	Glycative Stress Research 2021; 8 (1): 29-45
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
なし			

Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）	
2017年4月～2021年3月	NPO法人抗がん剤曝露対策協議会 副理事長
2017年4月～2021年3月	NPO法人Medical Device Certificate Center 理事
2017年4月～2021年3月	医療の安全を考える研究会 常任理事
2017年4月～2021年3月	日本老年薬学会理事 指導薬剤師
2017年4月～2021年3月	日本臨床栄養代謝学会 理事 代議委員 NST専門療法士
2017年4月～2021年3月	ヨーロッパ臨床栄養代謝学会（ESPEN）生涯教育講師（LLL-TTT）
2017年4月～2021年3月	日本注射薬臨床情報学会 副理事長
2017年4月～2021年3月	日本医療薬学会 指導薬剤師

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は in press を含む。
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
同志社女子大学	講座名	臨床薬学教育研究センター	職名：教授 氏名：内田まよこ
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫		2021年9月28日	処方提案において、自ら学び自ら考える力の育成を図るために、グループワークの時間を設けることで、確実な定着を図り、個性を生かす教育の充実に努めた。
2 作成した教科書、教材、参考書		2021年4月1日 2020年7月29日	がん薬物療法－副作用対策&曝露対策－, 南山堂 図解 腫瘍薬学, 南山堂
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		2020年10月24日 2020年10月24日	がん緩和医療における薬剤師育成のための卒後研修2年後の受講者の行動変化調査 保険薬局薬剤師を対象とした無菌調製実技セミナーに関する有用性評価
4 その他教育活動上特記すべき事項		2021年9月10日 2021年5月12日	A I時代に求められる新しいリテラシー：大学教育の再設計をめざして 女性大学院生としての経験を生かすには？
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
(著書) 薬剤師レジメントマニュアル第3版	共著	2021年3月	医学書院
(著書) 白血病治療マニュアル改訂第4版	共著	2020年11月	南江堂
(論文) Pharmacovigilance Evaluation of Bendamustine-related Skin Disorders using the Japanese Adverse Drug Event Report Database	共著	2021年4月	J Pharm Pharm Sci. 24, 16-22, 2021
(論文) Evaluation of changes in pharmacist behaviors following a systematic education program on palliative care in cancer	共著	2021年4月	Curr Pharm Teach Learn. 13: 417-422, 2021
(論文) Evaluation of a web-based educational program for pharmacists during the COVID-19 pandemic in Japan	共著	2021年9月	J Clin Pharm Ther, In press, 2021
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
(演題名) 医薬品副作用データベースにおける胃がんで使用される抗がん薬に関連する急性腎障害の評価		2021年10月	第31回日本医療薬学会年会
(演題名) 医薬品副作用データベースを用いたベンダムスチン関連の皮膚障害に関する評価		2021年7月	第29回クリニカルファーマシーシンポジウム
III 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
2020年5月～現在	日本臨床腫瘍薬学会理事		
2021年7月～現在	日本緩和医療薬学会 教育研修委員会 副委員長		
2021年7月～現在	日本緩和医療薬学会 臨床研究委員会 副委員長		
2021年9月～現在	日本臨床腫瘍薬学会 免疫チェックポイント阻害薬マネージメント教育プログラム開発ワーキンググループ 副委員長		

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は in press を含む。
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
同志社女子大学	講座名 生化学	職名 教授	氏名 和田 戈虹
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫	2017年～	生化学IとII、分子生物薬学を担当し、授業テキストを作製した。動画等を導入した授業用powerpoint資料を作製した。授業動画のライブラリーの作成した。国家試験の対策も兼ねて各講義に予習復習テスト・ドリルも独自に実施し、良好な効果が得られた。	
2 作成した教科書、教材、参考書 (1) コンパス分子生物学 —創薬・テーラーメイド医療に向けて— (南江堂) 改訂第3版	2021年3月	本書は、改訂薬学教育モデル・コアカリキュラムに沿って分子生物学を理解することができるように、分子生物学の基礎、遺伝子工学、医療分野での貢献という三部構成になっている。6年制薬学教育課程の学生にとって役に立つ教科書である。演習課題付。進展著しい分子生物学領域の最新情報を取り入れた第3版を改訂出版した。編者：荒牧弘範、大戸茂弘 担当部分：分子標的薬の基礎	
(2) 生化学 (南江堂) 改訂第2版	2019年12月	本書は、改訂薬学教育モデル・コアカリキュラムに沿って生化学の領域のミニマムエッセンスを抑えた内容とし、Exerciseには国家試験問題も積極的に含むようにした。 編者：前田正知、浅野真司 担当部分：生体膜と輸送	
(3) 生化学実習 実習テキスト (酵素学実習・PCR実習) 第12版 同志社女子大学 薬学部 生化学研究室	2017年3月	生化学実習の酵素学とPCRの実験技法を習得すると同時に、プロトコールの書き方、ピペットマンの使用法など生化学・分子生物学に必要な実験の基礎も学んでもらう内容である。さらに、予習復習できるように、実習手法の動画も作成し、Manabeとストリームで開示している。	
(4) 生化学実習 実習テキスト (酵素学実習・PCR実習) 第13版 同志社女子大学 薬学部 生化学研究室	2018年3月	生化学実習の酵素学とPCRの実験技法を習得すると同時に、プロトコールの書き方、ピペットマンの使用法など生化学・分子生物学に必要な実験の基礎も学んでもらう内容である。さらに、予習復習できるように、実習手法の動画も作成し、Manabeとストリームで開示している。	
(5) 生化学実習 実習テキスト (酵素学実習) 第14版 同志社女子大学 薬学部 生化学研究室	2019年3月	生化学実習の酵素学実験技法を習得すると同時に、プロトコールの書き方、ピペットマンの使用法など生化学に必要な実験の基礎も学んでもらう内容である。さらに、予習復習できるように、実習手法の動画も作成し、Manabeとストリームで開示している。データをiPad入力し、リアルタイムで各グループの結果をグラフ化できるようなシステムを導入した。	

<p>(6) 生化学実習 実習テキスト (酵素学実習) 第15版 同志社女子大学 薬学部 生化学研究室</p>	<p>2020年3月</p>	<p>生化学実習の酵素学実験技法を習得すると同時、プロトコールの書き方、ピペットマンの使用法など生化学に必要な実験の基礎も学んでもらう内容である。さらに、予習復習できるように、実習手法の動画も作成し、Manabeとストーリームで開示している。コロナ禍の関係上、遠隔でデータの共有などのシステムも導入した。</p>
<p>(7) 生化学実習 実習テキスト (酵素学実習) 第16版 同志社女子大学 薬学部 生化学研究室</p>	<p>2021年3月</p>	<p>生化学実習の酵素学実験技法を習得すると同時、プロトコールの書き方、ピペットマンの使用法など生化学に必要な実験の基礎も学んでもらう内容である。さらに、予習復習できるように、実習手法の動画も作成し、Manabeとストーリームで開示している。</p>
<p>(8) 分子生物薬学 講義テキスト 同志社女子大学 薬学部 生化学研究室</p>	<p>2017年～現在</p>	<p>分子生物薬学の講義内容をノートできる形式の講義テキストである。新たな資料を加え、毎年改訂を行っている。</p>
<p>(9) 生化学I & II 講義テキスト 同志社女子大学 薬学部 生化学研究室</p>	<p>2017年～現在</p>	<p>生化学の講義内容をノートできる形式の講義テキストである。新たな資料を加え、毎年改訂を行っている。</p>
<p>3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等</p>		<p>特記すべき事項なし□</p>
<p>4 その他教育活動上特記すべき事項</p>		
<p>1. 2017年度FD講習会 「3つのポリシーと学習成果」 同志社女子大学教育開発支援センター 同志社女子大学</p>	<p>2017年10月18日</p>	
<p>2. 第8回アクティブ・ラーニング研究会 「薬学教育における技能と態度領域の学習—実習科目における実践—」 同志社女子大学教育開発支援センター 同志社女子大学</p>	<p>2018年1月24日</p>	
<p>3. 2018年度FD講習会 「高次の能力を捉えるための評価—パフォーマンス評価のデザイナー—」 同志社女子大学教育開発支援センター 同志社女子大学</p>	<p>2018年10月17日</p>	
<p>4. 第10回アクティブ・ラーニング研究会 「つくって・かたって・ふりかえる」 授業の設計と学習環境デザイン 同志社女子大学教育開発支援センター 同志社女子大学 2019/1/23</p>	<p>2019年1月23日</p>	
<p>5. 2019年度FD講習会 「授業改善につなげるルーブリック評価の意義と実践」 同志社女子大学教育開発支援センター 同志社女子大学</p>	<p>2019年10月16日</p>	
<p>6. 第12回アクティブ・ラーニング研究会 「アクティブ・ラーニングの必要性・その種類・可能性」 同志社女子大学教育開発支援センター 同志社女子大学</p>	<p>2020年1月22日</p>	
<p>7. 第15回アクティブ・ラーニング研究会 「Face to Faceの教育／学びのSide by side」 同志社女子大学教育開発支援センター オンライン開催</p>	<p>2020年8月6日</p>	

II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
(論文) Vacuolar-type proton ATPase is required for maintenance of apicobasal polarity of embryonic visceral endoderm.	共著	2021年9月	Scientific Reports 11巻 p19355-
(論文) Rab7-mediated endocytosis establishes patterning of Wnt activity through inactivation of Dkk antagonism.	共著	2020年6月	Cell Reports 31巻 p107733-
(論文) Observations From a Mouse Model of Forebrain Voa1 Knockout: Focus on Hippocampal Structure and Function.	共著	2019年11月	Front Cell Neurosci. 13巻 p484-
(論文) Essential role of the a3 isoform of V-ATPase in secretory lysosome trafficking via Rab7 recruitment	共著	2018年4月	Scientific Reports 8巻 p6701-
(論文) Combating herpesvirus encephalitis by potentiating a TLR3-mTORC2 axis	共著	2018年10月	Nature Immunology 19巻 p1071-
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
PARP1によるエンドサイトーシスの抑制はプログラム細胞死parthanatosの新たな機序となる		2021年10月	日本薬学会近畿支部会年会
ユビキチンリガーゼIdunaはPARP1 依存的 EGFR のエンドサイトーシスを促進する		2021年10月	日本薬学会近畿支部会年会
III 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
2014年度～	アジア・オセアニア生化学・分子生物学学者連盟・日本生化学会代表		
2021年度～2024年度	日本薬学会 学術誌編集委員		
2008年度～	日本生化学会 近畿支部会幹事		
2019年度～2021年度	独立行政法人日本学術振興会 科学研究費委員会専門委員		

[注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。

各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。

2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。

4 「II 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。

5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

※ 「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。

※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
同志社女子大学	講座名	薬物治療学研究室	職名 教授 氏名 吉川清次
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫		2021年4月～ 2022年1月	薬物治療学II・III 薬物治療学視覚的資料の開発
		2021年4月～7月	内科疾病治療学 内科疾病治療学視覚的資料の開発
2 作成した教科書、教材、参考書 なし			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 なし			
4 その他教育活動上特記すべき事項 なし			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号 数）等の名称
なし			
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
(演題名) Dynamic metabolic change during epithelial-mesenchymal transition in human mammary epithelial cells.		2021年10月	第80回 日本癌学会学術総会
III 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
1996年4月～～現在	日本癌学会会員		
1996年1月～現在	日本乳癌学会会員		
2003年10月～現在	日本癌治療学会会員		
2021年10月	日本薬学会関西支部総会 優秀賞審査委員		

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「II 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
同志社女子大学	講座名 薬物動態学研究室	職名 准教授	氏名 喜里山 暁子
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫			
授業振り返りシート作成(2021年度春学期)		2021年8月14日	
授業振り返りシート作成(2020年度秋学期)		2021年2月20日	
授業振り返りシート作成(2020年度春学期)		2020年9月11日	
授業振り返りシート作成(2019年度春学期)		2019年9月30日	
授業振り返りシート作成(2019年度秋学期)		2020年2月20日	
授業振り返りシート作成(2018年度春学期)		2018年9月26日	
授業振り返りシート作成(2018年度秋学期)		2019年3月15日	
2 作成した教科書、教材、参考書			
薬剤学実習実習書(2021年度版)		2021年4月5日	
実践薬剤学特論教材(2021年度版)		2021年5月24日	
薬剤学実習実習書(2020年度版)		2020年4月5日	
実践薬剤学特論教材(2020年度版)		2020年5月24日	
薬剤学実習実習書(2019年度版)		2019年4月5日	
実践薬剤学特論教材(2019年度版)		2019年5月24日	
薬剤学実習実習書(2018年度版)		2018年4月5日	
新薬開発特論教材(2018年度版)		2018年5月24日	
薬剤学実習実習書(2017年度版)		2017年4月5日	
新薬開発特論教材(2017年度版)		2017年5月24日	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 なし			
4 その他教育活動上特記すべき事項			
学生支援主任		2020年4月- 2022年3月	
薬学共用試験OSCEモニター員(京都薬科大学)		2021年12月12日- 13日	
薬学共用試験OSCE実施責任者		2021年12月5日	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
Pharmacokinetics/Pharmacodynamic Analysis to Link Pharmacokinetics to Efficacy and Drug Interaction of Alzheimer's Disease Drugs	単著	2021年6月	YAKUGAKU ZASSHI 141, 831-833
α 2-Antiplasmin as a potential regulator of the spatial memory process and age-related cognitive decline.	共著	2021年10月	Mol. Brain, 13(1), 140

Supramolecular Complexation in Biological Media: NMR Study on Inclusion of an Anionic Tetraarylporphyrin into a Per-O-Methylated β -Cyclodextrin Cavity in Serum, Blood, and Urine.	共著	2019年8月	Chem Asian J., 14(19), 3320
Novel strategy for the systemic delivery of furosemide based on a new drug transport mechanism	共著	2018年12月	Biological and Pharmaceutical Bulletin, 41(12), 1769
Pharmacokinetic-Pharmacodynamic Analyses of Anti-diabetes, Glimpiride: Comparison of the Streptozotocin-Induced Diabetic, GK, and Wistar Rats	共著	2017年8月	Journal of Drug Metabolism and Toxicology, 8(2), 1000229
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
なし			
Ⅲ 学会および社会における主な活動 (直近5年間に携わったもの数件)			
1993~	日本薬学会 会員		
1994~	日本薬物動態学会 会員		
2017~	日本薬剤学会 会員		

- [注] 1 対象期限: 評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は in press を含む。
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください (年度ごとに代表的なもの 2件まで)。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
同志社女子大学	講座名 臨床薬剤学	職名 准教授	氏名 松元加奈
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫		2007年10月～ 2017年11月～ 2019年1月～	模擬患者を導入した演習や実習により、臨床現場の臨場感のある教育を実践している。 図書館スタッフと連携して、4年次生に対して図書館データベースの活用法に関する演習を実施している。 実務実習事前学習Ⅱにおいて4年次生に対し、ルーブリック評価表を用いた自己評価方法を指導している。
2 作成した教科書、教材、参考書 EBM 血液疾患の治療		2021年1月10日	造血幹細胞移植の『前処置薬の血中濃度測定の意義』を担当し、いくつかの論文を紹介し、薬物血中濃度モニタリング (TDM) の必要性やTDM実施時の注意点について解説した。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		2021年8月21日	第6回日本薬学教育学会大会のシンポジウム『薬学育児世代の「就業継続」』のシンポジストとして『教育・研究業務と育児の両立に向けての取り組み』と題して、薬学教育と育児の両立に向けた工夫を紹介し、次世代の薬学教育者や薬剤師の参考となるような提案を行った。
4 その他教育活動上特記すべき事項		2019年4月～	ふるさとにおける実務実習の調整を担当している。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月 (西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
(論文) Prospective study of allogeneic hematopoietic stem cell transplantation with post-transplantation cyclophosphamide and antithymocyte globulin from HLA-mismatched related donors for nonmalignant diseases.	共著	2020年11月	Biology of blood and marrow transplantation vol.26 No.11
(論文) Effect of prophylactic post-transplant ponatinib administration on outcomes in patients with philadelphia chromosome-positive acute lymphoblastic leukemia.	共著	2020年12月	Clinical lymphoma, myeloma & leukemia vol.20 No.12
(論文) Pharmacokinetics of intravenous busulfan as condition for hematopoietic stem cell transplantation: comparison between combinations with cyclophosphamide and fludarabine.	共著	2021年1月	International journal of hematology vol.113 No.1
(論文) Two-point blood sampling is sufficient and necessary to estimate the area under the concentration-time curve for intravenous busulfan in infants and young children.	共著	2021年4月	Pediatric blood cancer vol.69 No.8

(論文) Intraocular penetration of liposomal amphotericin B after intravenous injection in inflamed human eyes.	共著	2021年9月	Journal of Infection and Chemotherapy vol. 27 No. 9
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) 真菌性眼感染症におけるアムホテリシンBリポソーム製剤の		2021年4月	第125回日本眼科学会総会
(演題名) 生活保護受給者の後発医薬品使用状況の調査と医療従事者への意識調査		2021年10月	第15回日本薬局学会学術総会
Ⅲ 学会および社会における主な活動 (直近5年間に携わったもの数件)			
2011年11月～現在	京都府薬剤師会 大学薬剤師会会長		
2012年7月～現在	日本感染症学会/日本化学療法学会 感染症ガイド作成ワーキンググループ委員		
2019年4月～現在	日本化学療法学会 抗菌化学療法認定薬剤師認定委員会委員		
2021年2月～現在	日本医真菌学会 将来計画委員会委員		

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください (年度ごとに代表的なもの2件まで)。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
同志社女子大学	講座名 生薬学研究室	職名 准教授	氏名 中村憲夫
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 実習を除くすべての科目の授業動画を配信している		2020年4月～	新型コロナウイルス感染症発生のため対面での授業が困難になったため
2 作成した教科書、教材、参考書 (教科書) 生薬成分の構造と生合成 (教科書) 2021年生薬学実習		2021年4月 2021年10月	生薬学 I、天然医薬品化学の教科書として使用 生薬学実習において実習書として使用
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 特記すべき事項なし			
4 その他教育活動上特記すべき事項 第26回FDフォーラム参加 2019年度FD講習会参加		2021年2月 2019年10月	「あらためて大学とはなにか～コロナ禍を超えて新しい時代へ～」オンライン開催 「授業改善につなげるルーブリック評価の意義と実践」
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(著書) パートナー生薬学	分担執筆	2018年2月	南江堂
(論文) 紫雲膏とヒルドイドソフト軟膏の混合軟膏の外観変化による安定性の評価と配合変化に関する考察	共著	2021年7月	同志社女子大学総合文化研究所紀要第38巻135-141
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
なし			
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2015年4月～	日本生薬学会代議員		

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください(年度ごとに代表的なもの2件まで)。
- 4 「II 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
同志社女子大学	講座名 臨床薬学教育	職名：准教授	氏名：成橋和正
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫			
早期臨床体験における学習・教育効果を高める取り組み(*)	2017年4月～	薬学コアカリキュラムF薬学臨床の「早期臨床体験」(本学での科目名：早期体験学習I、II)で従来より実施している薬局見学・病院見学の前に、学内の模擬薬局見学、ならびに、現場の薬剤師の講義を行い、見学の効果を向上に努めた。*	
学際的英語教育方法の実践	2017年10月～	学内学科横断プロジェクト「少人数の英語学習環境づくり」として、「みんな de 英語サロン」の設置と運営に携わった。	
本学オリジナル「覚えるクスリ」の制作と活用	2018年4月～	本学オリジナルテキスト「覚えるクスリ」を企画、作成した。6年間同じテキストを使用して薬名・分類を頭にたたき込むことを目的としており、1年次、3年次、6年次学生に配布している。活用のスタートとして、1年次(早期体験学習I、II)で「クスリテスト」を実施しているが、専門科目を学ぶ前の早期に薬名(「単語」)を覚え、専門科目の受講(「読解」)がスムーズとなるようにしている。	
早期臨床体験、薬学臨床(前)における学生の相互のモチベーションを向上させる取り組み	2018年10月～	F薬学臨床の「早期臨床体験」(本学での科目名：早期体験学習I、II)を学ぶ1年次の学生が、薬学部での学びの見通しをつけることを目的に、また、F薬学臨床(前)(本学での科目名：模擬病院薬局実習)を学ぶ4年次の学生が後輩の良き見本となるような意識付けを目的に、4年次学生の実習に1年次学生を見学させ、相互のモチベーションの向上に努めた。2018年度末の学生アンケートより、上記*の項目とともに学習効果ならに学生の意欲の増加が見られた。この内容は本学が発行する「FDレポート(年刊)」で学科の取り組みとして紹介された。	
自研究室での研究成果を講義内に取り込み、学生の学習効果を高める取り組み	2019年6月～	自研究室で行った漢方製剤の多様性の実態に関する調査研究の成果を講義(東洋医学特論)に取り入れた。研究著者が身近であることで学生の興味への刺激を増大させ、それに続く、薬剤師のコミュニケーションのあり方について深く考えさせることが出来た。	
学部・学科を越えた英語の学び	2019年12月	学内学科横断プロジェクト「学部・学科を越えた英語の学び」として、薬学部医療薬学科・国際教養学科の「共に学修するコミュニティ」での英語による医療ドラマ制作の取り組みに参画した。学生はIntercollegiate Oral Communication Festivalで発表した。	

Interprofessional Education (IPE) の導入	2021年4月～	本学看護学部看護学科の教員と薬学部・看護学部の1年次生がInterprofessional Educationとして実施の可能性を模索した。薬学部は早期体験学習I（必修科目）、看護学部では看護学概論（必修科目）において「車椅子体験」を題材とし、両学部1年次において全ての学生がIPEを実施することができた。薬学部・看護学部の学生とともに、IPEを入学初年次から体験・体感することができた。
コロナ禍による遠隔対応授業での	2021年7月～	コロナ禍による教室収容学生数に対して、特別な機器を導入せず既存の機器の利用で2教室での実習同時実施（実務実習事前学習I、早期体験学習I）、外部講師による特別講演のWebを利用したLive受講（早期体験学習II）を実施した。
2 作成した教科書、教材、参考書 医療薬物代謝学 第2版（エムスリーエデュケーション[旧:テコム]）	2018年1月	薬学部における「薬物代謝学」の教科書として、初心者に分かりやすい表現を徹底して書かれている。薬学教育モデルコアカリキュラム準拠。CBT試験対策にも適しており、また、各章末の練習問題（国試出題例）で学習到達度を確認できるようになっている。重要事項はイラスト解説を加え、視覚的に理解を深められる。薬物代謝学の教科書としてのみならず、自習書・副読本としても活用できる。 担当部分：2.1.3 くすりの分布（pp. 27-28） 編集者：山崎浩史、小澤正吾
早期体験学習I, II（2018年度）	2018年4月	学内オリジナルテキスト。執筆ならびに編集。
早期体験学習I, II（2019年度）	2019年4月	学内オリジナルテキスト。執筆ならびに編集。
早期体験学習I, II（2020年度）	2020年4月	学内オリジナルテキスト。執筆ならびに編集。
実務実習事前学習I、II、模擬病院・薬局実習（2020年度）	2020年4月	学内オリジナルテキスト。「無菌調製時の衛生的取り扱い」「注射剤無菌調製」の章を執筆。
早期体験学習I, II（2021年度）	2021年4月	学内オリジナルテキスト。執筆ならびに編集。
実務実習事前学習I、II、模擬病院・薬局実習（2021年度）	2021年4月	学内オリジナルテキスト。「無菌調製時の衛生的取り扱い」「注射剤無菌調製」の章を執筆。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 ICTを使った産出型 reading 授業の成果	2018年8月28日	Japan Association of College English Teachers第57回国際大会（仙台）
英語を専門としない大学生の英語学習に対する動機—英語専門学部の学生との比較を通して—	2019年8月28日	Japan Association of College English Teachers第58回国際大会（名古屋）
漢方製剤の多様性の実態調査と薬学部生教育への利用	2019年9月8日	第13回ファーマシューティカルコミュニケーション学会大会（岐阜）
4 その他教育活動上特記すべき事項 なし		

II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
（論文）紫雲膏とヒルドイドソフト軟膏の混合軟膏の外観変化による安定性の評価と配合変化に関する考察	共著	2021年7月	総合文化研究所紀要38号
（論文）一般英語能力と専門英語の修得能力との関連性に関する研究：本学薬学部生での調査	単著	2021年7月	総合文化研究所紀要38号
（論文）An attempt at administering a transdermal formulation of bisoprolol in patients with acute cardiac symptoms	共著	2021年1月	Am J Emerg Med. vol.39 No.1
（論文）本学大学1年次生の英語学習に対する動機—国際教養学科と看護学科との比較を通して—	単著	2020年7月	総合文化研究所紀要37号
（論文）医療用・一般用漢方製剤の情報の比較検討：葛根湯	単著	2019年7月	総合文化研究所紀要36号
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
なし			
III 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
2019年12月～現在	医療法人英仁会 大阪プレストクリニック 治験審査委員会 委員		
2019年12月～現在	医療法人英仁会 大阪プレストクリニック 倫理審査委員会 委員		
2021年7月～現在	一般社団法人 京都府薬剤師会 代議員		

[注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。

各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。

2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。

4 「II 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。

5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

※ 「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。

※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
同志社女子大学	講座名 生命物理化学研究室	職名 准教授	氏名 根木 滋
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫		2017年～ 2021年 2021年	担当授業では、マナバ（マナビー）およびOffice365を用いるなどICTを取り入れた授業を積極的に行い、双方性授業を積極的に行っている。また、定期試験に加えて、オンラインによる記述式の授業の振り返りや、マークシート式の確認テストを行い総合的に評価している。
2 作成した教科書、教材、参考書			特記すべき事項なし
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			特記すべき事項なし
4 その他教育活動上特記すべき事項		2017. 10. 18 2017. 12. 25-26 2018. 1. 24 2018. 3. 3 2019. 1. 23 2019. 10. 16 2020. 1. 22 2020. 8. 6 2021. 2. 17 2021. 9. 10	3つのポリシーと学習成果 日本薬学会 第2回若手薬学教育者のための アドバンスワークショップ 薬学教育における技能と態度領域の学習 —実習科目における実践— 大学コンソーシアム 第24回FDフォーラム 大学におけるダイバーシティ つくって・かたって・ふりかえる 授業の設計と学習環境デザイン 授業改善につなげるルーブリック評価の 意義と実践 アクティブ・ラーニングの必要性 ・その種類・可能性 Face to Faceの教育／学びのSide by side 同志社女子大学 ラーニング・コモンズ 想い、課題、そして期待 AI時代に求められる新しいリテラシー

II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Detection and Removal of Endogenous Carbon Monoxide by Selective and Cell-Permeable Hemoprotein Model Complexes.(査読有)	共著	2017年5月	J. Am. Chem. Soc., Vol. 139, pp. 5984-5991
(論文) Circadian clock disruption by selective removal of endogenous carbon monoxide(査読有)	共著	2018年6月	Sci Rep., Vol. 8, pp. 11996-12008
(論文) Supramolecular Complexation in Biological Media: NMR Study on Inclusion of an Anionic Tetraarylporphyrin into a Per-O-Methylated β -Cyclodextrin Cavity in Serum, Blood, and Urine(査読有)	共著	2019/10月	Chem. Asian. J, Vol.14, pp. 3320-3328
(論文) The 89-kDa PARP1 cleavage fragment serves as a cytoplasmic PAR carrier to induce AIF-mediated apoptosis(査読有)	共著	2021/6月	J. Biol. Chem. Vol296, pp. 100046
(Proceeding) New Role of Biological Trace Metal Elements in Cooperative Protein Reduction by Glutathione and its Derivatives(査読有)	共著	2021年3月	The Japanese Peptide Society p.p.85-88
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
亜鉛フィンガータンパク質の過酸化水素による酸化反応メカニズムの解明		2021年5月	第67回 日本生化学会近畿支部例会 (WEB開催)
PARP-1W589残基による2本鎖切断DNAの5'末端との協同的分子間相互作用		2021年5月	第67回 日本生化学会近畿支部例会 (WEB開催)
グルタチオンと金属コファクターとの協同的還元反応メカニズムの解明		2021年5月	第67回 日本生化学会近畿支部例会 (WEB開催)
カチオンクラスター鎖長がウシ胸腺DNAの凝集過程に及ぼす影響		2021年5月	第67回 日本生化学会近畿支部例会 (WEB開催)
PARP1 W589残基によるDNAとの協同的分子間相互作用		2021年6月	第47回生体分子科学討論会 (WEB開催)
微量金属イオンがペプチド転移酵素Sortase Aの酵素反応に及ぼす影響		2021年6月	第47回生体分子科学討論会 (WEB開催)
亜鉛フィンガータンパク質をテンプレートに用いたCX2CおよびCX4Cモチーフの酸化反応メカニズムの解明		2021年6月	第47回生体分子科学討論会 (WEB開催)
DNA凝集剤のカチオンクラスター長がDNA凝縮および in vitro 転写・翻訳に及ぼす影響		2021年9月	第15回バイオ関連化学シンポジウム (WEB開催)

細胞膜透過におけるフォールディング構造が形成する 二次元カチオンクラスターの重要性	2021年9月	第15回バイオ関連化学シン ポジウム (WEB開催)
PARP-1の自己PAR化反応における協同的分子間相互作用の重要性	2021年9月	第15回バイオ関連化学シン ポジウム (WEB開催)
PARP-1 の自己ポリADP リボシル化反応： W589 残基のDNA 修復機構における 協同的分子間相互作用の重要性	2021年10月	第71回 日本薬学会関西支 部総会・大会
亜鉛フィンガータンパク質をテンプレートに用いたCX2CおよびCX4C配位モチーフの 酸化 反応メカニズムの解明	2021年10月	第71回 日本薬学会関西支 部総会・大会
QCM 法を用いたPARP-1 のDNA 結合および自己PAR 化反応の定量	2021年10月	第71回 日本薬学会関西支 部総会・大会
二次構造形成時に誘起される二次元カチオンクラスターの細胞膜透過における重要 性	2021年10月	第71回 日本薬学会関西支 部総会・大会
Ⅲ 学会および社会における主な活動 (直近5年間に携わったもの数件)		
2017年～2021年	日本薬学会会員	
2017年～2021年	日本化学会会員	
2017年～2021年	日本ペプチド学会会員	
2017年～2021年	日本蛋白質学会会員	
2017年～2021年	日本生物物理学会会員	
2017年～2021年	日本シクロデキストリン学会会員	

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください (年度ごとに代表的なもの2件まで)。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
同志社女子大学	講座名 創薬有機化学	職名 准教授	氏名 山本 康友
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫		2018年-2021年 2019年-2021年 2020年-2021年	授業評価実施9科目：有機化学Ⅰ、有機化学Ⅳ、創薬化学特論、有機化学実習、薬学特別演習B/b、薬学基礎研究、薬学研究Ⅰ、薬学研究Ⅱ、薬学研究Ⅲ 授業毎の小テスト、解答解説の配信、学生毎のポートフォリオ作成におけるICTの利用（有機化学Ⅰ、有機化学Ⅳ） 対面授業と同時にスライド画面および音声を記録し、授業動画として配信（有機化学Ⅰ、薬学特別演習B/b）
2 作成した教科書、教材、参考書			該当なし
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		2021年3月	FDレポート 第14号 「遠隔授業における成績評価 —カンニングし放題のオンライン試験に意味はあるのか?—」 同志社女子大学教育・研究推進センター
4 その他教育活動上特記すべき事項		2021年2月17日 2020年6月27日 2020年1月22日 2019年1月23日 2018年10月6日-8日 2018年2月21日 2018年1月24日	第13回アクティブ・ラーニング研究会 「同志社女子大学 ラーニング・コモンズ 想い、課題、そして期待」同志社女子大学教育開発支援センター 第14回アクティブ・ラーニング研究会 「Webexとインターネットを利用した遠隔授業の可能性」同志社女子大学教育開発支援センター 第12回アクティブ・ラーニング研究会 「アクティブ・ラーニングの必要性・その種類・可能性」同志社女子大学教育開発支援センター 第10回アクティブ・ラーニング研究会 「つくって・かたって・ふりかえる」授業の設計と学習環境デザイン 同志社女子大学教育開発支援センター 日本薬学会第4回若手薬学教育者のためのアドバンスト・ワークショップ 「卒業時における教育の質保証～卒業時に求められる資質・能力とその評価を考える～」 公益社団法人 日本薬学会 第9回アクティブ・ラーニング研究会 「学生主体の英語劇上演への取り組み—「シェイクスピア・プロダクション」の歩みと現状—」同志社女子大学教育開発支援センター 第8回アクティブ・ラーニング研究会 「薬学教育における技能と態度領域の学習—実習科目における実践—」同志社女子大学教育開発支援センター

II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
(論文) Phosphazene Base-Catalyzed Hydroamination of Aminoalkenes for the Construction of Isoindoline Scaffolds: Application to the Total Synthesis of Aristocularine.	共著	2021年12月	<i>Tetrahedron Lett.</i> , 2022, 89, 153599. Elsevier
(論文) Asymmetric total synthesis of (-)-javaberine A and (-)- <i>epi</i> -javaberine A based on catalytic intramolecular hydroamination of <i>N</i> -methyl-2-(2-styrylaryl)ethylamine.	共著	2021年6月	<i>Tetrahedron</i> , 2021, 90, 132615. Elsevier
(論文) Stereoselective Synthesis of Diastereomeric Berberine Alkaloids, <i>O</i> -Methylcorytenchirine and Coralydine.	共著	2021年1月	<i>Heterocycles</i> , 2021, 103, 817-826. The Japan Institute of Heterocyclic Chemistry
(論文) Stereoselective Construction of a Berberine C-8 Benzyl Group for the Synthesis of Javaberine Derivatives.	共著	2019年10月	<i>Heterocycles</i> , 2020, 101, 512-523. The Japan Institute of Heterocyclic Chemistry
(論文) Aminolithiation-arylation consecutive cyclization of <i>N</i> -(2-fluorophenyl)methyl-aminoalkylstyryls giving aryl-substituted pyrido[1,2- <i>b</i>]isoquinolines.	共著	2018年6月	<i>Tetrahedron</i> , 2018, 74, 5309-5318. Elsevier
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
(演題名) <i>O</i> -Methylcorytenchirine, coralydine, (-)-javaberine A の全合成		2021年9月16日	第63回天然有機化合物討論会
(演題名) ホスファゼン塩基を用いたイソインドリン類およびフタラン類の骨格構築と aristocularine の全合成		2021年10月4日	第47回反応と合成の進歩シンポジウム
(演題名) ホスファゼン塩基触媒によるアミノアルケンの分子内ヒドロアミノ化反応		2021年10月9日	第71回日本薬学会関西支部総会・大会
(演題名) ホスファゼン塩基触媒によるヒドロキシアルケンの分子内ヒドロアルコキシ化反応		2021年10月9日	第71回日本薬学会関西支部総会・大会
III 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
2019年-2020年	日本薬学会 代議員（関西支部）		
2019年	The 4th International Symposium on Process Chemistry, Local Committee		

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「II 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧				
同志社女子大学	講座名	医薬品分析学	職名	准教授
			氏名	山内 雄二
I 教育活動				
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫				
マルチメディア機器の活用(1)		2017年1月～現在	<p>基礎化学や医薬品分析化学などの授業において、複雑な数式や化学構造及び図表を解説する際、教科書の閲覧や板書だけでは的確に表現し解説することが困難である。マルチメディアプロジェクターなどのマルチメディア機器を活用し、数式や化学構造式及び図表などを的確かつ詳細にスライド表示し学生の理解が深まるよう工夫している。プロジェクターで表示したスライド表示はノートテイクすることが困難な場合が多いため、できる限り印刷してプリントを配布するようにしている。</p>	
マルチメディア機器の活用(2)		2017年1月～現在	<p>生体分析化学の授業において、各種臨床分析法の原理や各種臨床分析機器を解説する際、教科書の閲覧や板書だけでは的確に表現し解説することが困難である。マルチメディアプロジェクターなどのマルチメディア機器を活用し、臨床分析法の原理図や臨床分析機器などの概念図や画像を的確かつ詳細にスライド表示し学生の理解が深まるよう工夫している。また臨床画像診断法における臨床画像や臨床動画を適宜表示し学生の興味や理解が深まるよう工夫している。プロジェクターで表示したスライド表示はノートテイクすることが困難な場合が多いため、できる動画を除きできる限り印刷してプリントを配布するようにしている。</p>	
学習支援システム(mabnaba)の活用		2019年4月～現在	<p>講義資料の提示及び演習課題レポートの提示・回収を学習支援システム(manaba)を用いて実施している。特に新型コロナウイルス感染症拡大後からは授業動画もmanabaを通じて提示することで遠隔授業にも対応している。対面授業を実施している講義においても授業動画をmanabaを通じて提示し、病気や忌引きなどの理由で授業を欠席した学生や不登校・準不登校学生に対しても学習の機会を提供するようにしている。また演習課題レポートの評価においては、レポートの記載内容だけでなくレポートの提出時期も評価対象としている。毎回の講義毎に演習課題レポートを提示・回収・評価することで、定期試験による総括評価だけでなく演習課題レポートによる形成的評価も学習評価基準に取り入れるよう工夫している。</p>	
2 作成した教科書、教材、参考書				
医薬品分析化学実習テキスト第12版		2017年6月	2017年度医薬品分析化学実習のための実習内容、実験操作法、レポート記入用紙をまとめた実習テキストを作成した。	
医薬品分析化学実習テキスト第13版		2018年6月	2018年度医薬品分析化学実習のための実習内容、実験操作法、レポート記入用紙をまとめた実習テキストを作成した。	
医薬品分析化学実習テキスト第14版		2019年6月	2019年度医薬品分析化学実習のための実習内容、実験操作法、レポート記入用紙をまとめた実習テキストを作成した。	
医薬品分析化学実習テキスト第15版		2020年6月	2020年度医薬品分析化学実習のための実習内容、実験操作法、レポート記入用紙をまとめた実習テキストを作成した。	

医薬品分析化学実習テキスト第16版	2021年6月	2021年度医薬品分析化学実習のための実習内容、実験操作法、レポート記入用紙をまとめた実習テキストを作成した。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等なし			
4 その他教育活動上特記すべき事項			
第7回アクティブ・ラーニング研究会参加	2017年1月	「地域住民とのコラボによる看護OSCEの紹介」	
2017年度FD講習会参加	2017年10月	「3つのポリシーと学習成果」	
2018年度FD講習会参加	2018年10月	「高次の能力を捉えるための評価－パフォーマンス評価のデザイン」	
第10回アクティブ・ラーニング研究会参加	2019年1月	「「つくって・かたって・ふりかえる」授業の設計と学習環境デザイン」	
学内礼拝（チャペル・アワー）奨励担当	2019年7月	「利己？ 利他？」	
2019年度FD講習会参加	2019年10月	「授業改善につなげるルーブリック評価の意義と実践」	
第14回アクティブ・ラーニング研究会参加	2020年6月	「Webexとインターネットを利用した遠隔授業の可能性」	
2020年度FD講習会参加	2020年7月	「遠隔授業における著作権について」	
学内礼拝（チャペル・アワー）奨励担当	2021年6月	「この1年で学んだこと」	
2021年度FD講習会参加	2021年9月	「AI時代に求められる新しいリテラシー」	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
なし			
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
なし			
III 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
2017年2月	第85回認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップ（薬学教育者ワークショップ）in 近畿 タスクフォース		
2017年9月	第89回認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップ（薬学教育者ワークショップ）in 近畿 タスクフォース		
2017年9月	高校出張講義（大阪府立寝屋川高等学校）		
2017年10月	高校出張講義（兵庫県立尼崎稲園高等学校）		
2017年10月	第90回認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップ（薬学教育者ワークショップ）in 近畿 タスクフォース		
2017年12月	高校出張講義（大阪府立山田高等学校）		
2018年9月	第93回認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップ（薬学教育者ワークショップ）in 近畿 タスクフォース		
2021年7月	高校出張講義（兵庫県立明石北高等学校）		
2021年7月～8月	新型コロナウイルスワクチン職域接種（学校法人同志社）補助業務（薬剤師・ワクチン充填）		

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は in press を含む。
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
同志社女子大学	講座名 総合薬学教育	職名 特任教授 (1号)	氏名 小谷晶子
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫			
講義担当科目 (1年次生「基礎生物学」、「機能形態学Ⅰ」)		2017年～現在	<ul style="list-style-type: none"> ・授業は学生が授業に集中しやすいように、講義補助プリントをPDF化し、iPadのアプリ「GoodNote」上で書き込みながら進める形式で行っている。対面授業では教室のプロジェクタに投影して授業を進行した。遠隔授業ではZoomで授業動画を作成し、Streamにアップした。1コマ中、10～20分程度の動画を数本作成し、遠隔でも授業にアクセスしやすいよう工夫した。 ・担当授業では教科書を指定しているが、講義時には教科書記載内容を抜粋しさらに情報を追加した補助プリントを使用した。補助プリントは、わかりやすい文章とし、図表やイラストを豊富に用いた。また、学生の理解を深める演習問題として、五者択一、1問1答形式、穴埋め等、様々なバリエーションのものを作成した。 ・「授業に関するアンケート」から、概ね授業に対する学生の満足度は高い。さらに理解度を深めるための工夫を重ねる予定である。
実務実習事前学習 (4年次生)		2018年～現在	実務実習に必要な医薬品関連の知識を定着させることを目的として、生物系(機能形態学、生化学、微生物学、免疫学等)から薬理学、薬物動態学を中心とした「事前演習」を行っている。
リメディアル講座 (1年次生)		2017年5月～11月	1年次生対象。入学時のプレースメントテストの結果から、物理、化学、生物の成績下位者を対象に「リメディアル講座」を週1回企画立案した。高校物理、化学、生物の内容をもとに、薬学で必要となる知識も盛り込み、薬学への橋渡しとなる講義資料の作成を担当した。
有志勉強会、個別指導、学習相談会、個人面談等		2017年～現在	学生からの要望に対して随時対応してきた。質問や学習相談は随時対応している。個別指導は、学生から希望があった場合、1対1、もしくは少人数のグループで定期的に行う場合もある。
フォローアップサークル		2018年～2019年	学力に不安のある学生を対象とし、有志教員により1～2年次生科目のフォローアップを月2回程度実施した。小教室で少人数(最大30名程度)で学生の理解度を確認しながら講義、解説、演習等を行った。
2 作成した教科書、教材、参考書			
演習問題集およびWeb解答システム		2017年～現在	計画的な自己学習を支援することを目的として、3～6年次生に対するドリル形式の演習問題集およびWeb解答システムを構築し運用している。演習問題集は五肢択一形式であり、既出薬剤師国家試験必須問題およびオリジナル問題から成る。学生は、配布された演習問題集の冊子を用いて演習を行う。解答は、学部オリジナルサイト内に設けた「Web解答システム」にアクセスして解答する。毎年バージョンアップを続け、現在は、問題集活用の他、Web上で問題および解説を表示し、すべての演習ができるようにした。平常の復習、CBT対策としての演習、薬剤師国家試験対策の教材としても有用である。

「覚える 薬理作用別 クスリ」および「練習帳」	2018年～現在	薬剤師国家試験に出題された医薬品を中心に、約1,000種類の医薬品について、薬効・薬理作用機序別に分類した小冊子を作成し、毎年1,4,6年次生へ配布している。平常の復習、CBT対策としての演習、薬剤師国家試験対策の教材としても有用である。2021年、書き込み可能な「練習帳」を作成した。	
マナビー連携「小テスト」作成システム	2021年～	マナビー「小テスト」と連携した小テスト作成システムの開発。演習問題をデータベース化し、任意に抽出した問題をマナビー「小テスト」にアップ可能なExcelシートへ変換するシステムである。現在、直近5年間の薬剤師国家試験「必須問題」を用いてシステムβ版構築中。	
Web「薬理カード」システム	2021年～	自己学習教材として、Webで操作可能な「薬理カード」を開発。β版構築中。	
リメディアル講座テキスト	2017年	1年次生対象。高校物理、化学、生物の内容をもとに、薬学で必要となる知識も盛り込み、薬学への橋渡しとなる内容としたテキストを作成した。	
成績管理システムの構築・運用	2017年～現在	全学生の学力試験・模擬試験等の成績管理システムを、Microsoft Office Accessを利用して構築した。学生の成績推移（ポートフォリオ）を担当教員に配布し、学生との面談および学習指導時の資料として活用されている。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		特記すべき事項なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項			
6年次生学年オリエンテーション	2019年～現在	年間スケジュール、論文作成・発表、「薬学特別演習B/b」および単位試験、国家試験対策、模擬試験、学習の進め方	
新入生オリエンテーション	2018年～2019年	「大学での勉強方法について」	
FD講習会参加（学外、学内） 一例）「平成30年度 FDのための情報技術研究講習会、LMS活用編：レッスンとテストの作成、公益社団法人私立大学情報教育協会、FD情報技術講習会運営委員会、追手門学院大学（大阪府茨木市）」	2017年～現在 2019年2月	学外および学内のFD講習会に参加し、授業の進め方、教材作成、対話型PBL、データサイエンス・AI活用教育、著作権問題などについて学んだ。	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
特記すべき事項なし			
2. 学会発表		発表年・月	学会名
特記すべき事項なし			
III 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
2020年10月8日	出張講義 すぐ、そこにある「毒」。（京都ノートルダム女学院高等学校）		

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
同志社女子大学	講座名 臨床薬学教育研究センター	職名特任教授(1号)	氏名 関本裕美
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫		2020. 4. 1 2021. 4. 1 2021. 4. 1	オンデマンド授業 出席、理解力評価のためマナビー活用 薬剤管理指導 実症例に基づく薬学的管理のSGD オンデマンド授業 双方向性の時間割導入
2 作成した教科書、教材、参考書		2020. 4. 1 2021. 9. 15 2021. 4. 1	医療倫理入門、女性のための医学の教材と動画 薬業経済学の教材と動画 薬剤管理指導の教材と動画
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		2021. 9. 10	けいはんな学研都市市民公開講座
4 その他教育活動上特記すべき事項			なし
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(著書) 老年医療における向精神薬坐剤の可能性について	共著	2021年6月	星和書店、臨床精神薬理(24・6)
(著書) z小児の薬物療法への関わり	単著	2019年1月	週刊薬事新報
(論文) 末梢ブドウ糖加アミノ酸輸液投与速度の介入によるBacillus cereus血流感染リスクの軽減について	共著	2021年3月	国立医療学会誌医療(第75巻第3号)
(論文) 抗がん剤催吐リスク分類における患者関連因子が悪心嘔吐に及ぼす影響	共著	2020年6月	日本緩和医療薬学雑誌(第13巻第2号)
(論文) Efficacy and safety of levetiracetam in Japanese epilepsy patients: A retrospective cohort study	共著	2019年8月	Journal of Clinical Pharmacy and Therapeutics(44)
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
なし			
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2016年1月～2019年12月	近畿国立病院薬剤師会 副会長		
2016年4月～2020年3月	近畿国立病院薬剤部科長協議会 副会長		
2016年4月～2020年3月	全国国立病院薬剤部科長協議会常任理事		
2016年4月～	近畿国立病院生涯教育センター副理事長		

- [注] 1 対象期限: 評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください(年度ごとに代表的なもの2件まで)。
- 4 「II 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。

※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
同志社女子大学	講座名 衛生化学	職名 特任教授(2号)	氏名 木津良一
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 なし			
2 作成した教科書、教材、参考書			
環境衛生学の授業用教材		2017-2021	環境衛生学で講義する内容 [薬学教育モデル・コアカリキュラム [D2 環境 (2) 生活環境と健康 ①~⑥] をまとめたもの。
公衆衛生学の授業用教材		2017-2021	公衆衛生学で講義する内容 [薬学教育モデル・コアカリキュラム [D1 健康 (1) 社会・集団と健康 ①~③、(2) 疾病の予防 ①~⑤] をまとめたもの。
衛生化学の授業用教材		2017-2021	衛生化学で講義する内容 [薬学教育モデル・コアカリキュラム [D2 環境 (1) 化学物質・放射線の生体への影響 ①~④] をまとめたもの。
食品衛生化学の授業用教材		2017-2021	食品衛生化学で講義する内容 [薬学教育モデル・コアカリキュラム [D1 健康 (3) 栄養と健康 ①~③] をまとめたもの。
衛生薬学実習の実習用教材		2017-2021	衛生薬学実習で行う項目について、使用器具、使用機器、使用試薬、操作、課題をまとめたもの。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 なし			
4 その他教育活動上特記すべき事項 なし			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月 (西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
(論文) Aryl hydrocarbon receptor counteracts pharmacological efficacy of doxorubicin via enhanced AKR1C3 expression in triple negative breast cancer cells.	共著	2019年8月	Biochem Biophys Res Commun. 516(3):693-698.
(論文) An androgen-independent mechanism underlying the androgenic effects of 3-methylcholanthrene, a potent aryl hydrocarbon receptor agonist.	共著	2020年5月	Toxicol Res. 9(3):271-282.
(論文) Polycyclic aromatic hydrocarbons induce CYP3A5 gene expression via aryl hydrocarbon receptor in HepG2 cells.	共著	2021年1月	J Toxicol Sci. 46(1):25-29.

(論文) The 89-kDa PARP1 cleavage fragment serves as a cytoplasmic PAR carrier to induce AIF-mediated apoptosis.	共著	2021年7月	J Biol Chem. 296:100046.
(論文) Activation of the aryl hydrocarbon receptor by 3-methylcholanthrene, but not by indirubin, suppresses mammosphere formation via downregulation of CDC20 expression in breast cancer cells.	共著	2021年9月	Biochem Biophys Res Commun. 570:131-136.
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) アリル炭化水素受容体アゴニストによる乳がん腫瘍様塊の形成抑制作用の相違		2021年9月	フォーラム 2021 衛生薬学・環境トキシコロジー
(演題名) Aryl hydrocarbon receptor agonists inhibit EGFR/HER4 signaling in breast cancer cells.		2021年10月	第80回 日本癌学会学術総会
Ⅲ 学会および社会における主な活動 (直近5年間に携わったもの数件)			
なし			

- [注] 1 対象期限: 評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください (年度ごとに代表的なもの2件まで)。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
同志社女子大学	講座名 臨床薬剤学	職名 特任教授(2号)	氏名 森田邦彦
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
□ 教育内容・方法の工夫		2006年4月～	模擬病院・薬局実習に向けて、大学近隣の地域住民に模擬患者 (SP) 役をボランティアで演じていただきたい旨の広報活動を展開し、現在までに延べ約30名のSPを本学薬学部独自に養成した。
		2015年4月～	本学に導入された双方向学習システム (manabi) を利用して、授業2回に1回の頻度で課題 (小テスト) を学生に課し、解説を加えてフィードバックする手法を調剤学Ⅱ (旧・調剤学)、臨床薬剤学Ⅰ及びⅡで実践。学生にふだんから少しずつ学習を積み重ねるよう習慣づけている。
		2017年4月～	実務実習事前学習ⅠおよびⅡにて、team-based learning (TBL) の手法を取り入れ、4名～6名の少人数グループで意見を交わし、グループとして命題を解決していく学習方法を実践。自分一人では気づけなかったことが他の学生の意見に耳を傾けることで気づきが得られ、楽しい、等の学生からの評判は上々である。
2 作成した教科書、教材、参考書		2021年8月	日本化学療法学会認定薬剤師テキスト
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項		2021年2月16日	薬学部FD講習会にて講演。題目「実務・態度教育のいくつかの場面をダイジェストでお届けします」
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月 (西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
(論文) Effective plasma concentrations of itraconazole and its active metabolite for the treatment of pulmonary asper-gillosis.	共著	2019年8月	Pediatric blood cancer vol. 69 No. 8
(論文) In vitro evaluation of linezolid and doripenem clearance with different hemofilters.	共著	2020年1月	Blood purification vol. 49 No. 3

(論文) Effect of Prophylactic Post-transplant Ponatinib Administration on Outcomes in Patients With Philadelphia Chromosome-positive Acute Lymphoblastic Leukemia.	共著	2020年12月	Clinical lymphoma, myeloma & leukemia vol.20 No.12
(論文) Pharmacokinetics of intravenous busulfan as condition for hematopoietic stem cell transplantation: comparison between combinations with cyclophosphamide and fludarabine.	共著	2021年1月	International journal of hematology vol.113 No.1
(論文) Intraocular penetration of liposomal amphotericin B after intravenous injection in inflamed human eyes.	共著	2021年9月	Journal of Infection and Chemotherapy vol.27 No.9
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) 生活保護受給者の後発医薬品使用状況の調査と医療従事者への意識調査		2021年10月	第15回日本薬局学会学術総会
Ⅲ 学会および社会における主な活動 (直近5年間に携わったもの数件)			
2018年11月16～18日	第66回日本化学療法学会西日本支部総会会長 (於・かごしま県民交流センター)		
2014年6月～2018年5月	公益社団法人 日本化学療法学会 理事		
2014年6月～現在	日本化学療法学会 抗菌化学療法認定薬剤師認定委員会委員長 (現在に至る)		
1979年4月～現在	日本薬学会会員		

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください (年度ごとに代表的なもの2件まで)。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
同志社女子大学	講座名 薬物治療学研究室	職名 特任教授(2号)	氏名 高橋 玲
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫		2020年5月 2021年4月	シミュレーターを用いた薬物治療学実習をオンラインで行うシステムを検討した。 毎回の授業中にmanabaのresponを用いて学生との双方向授業の充実に努めた。
2 作成した教科書、教材、参考書 Dr. レイの病理学講義 改訂3版 (金芳堂)		2018年1月	病理学の教科書。第1回～第20回までの講義形式とし、各講義の冒頭にはトピックスや重点項目を扱った序文を挿入した。国家試験出題基準や教育課程基準において、必須項目とされているものを網羅した。シューマを豊富に用いて、病態や病気の原因をまとめて解説した。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		2019年2月 2019年12月	第10回卒後教育講演会(同志社女子大学にて) 乳癌幹細胞って何? その変幻自在なふるまい 医療講演(神戸ラ・スイートにて) 癌幹細胞について
4 その他教育活動上特記すべき事項		1993年5月～ 現在 2009年4月～ 現在	愛媛大学医学部では、骨髄疾患の病態と解析および臨床像についての研究セミナーおよび学生の指導を毎年1回行っている。 京都大学医学部附属病院において、解剖症例検討会(CPC)の指導を続けている。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) 本学の教育理念及びVision 150を活かした共通英語教育開発のための基礎研究:1年目のまとめと考察	共著	2018年7月	同志社女子大学 総合文化研究所紀要(第35巻)
(論文) Stem-like Human Breast Cancer Cells Initiate Vasculogenic Mimicry on Matrigel	共著	2018年12月	Acta histochemica et cytochemica (Vol.51 No.6)
(論文) Estrogen Induces Mammary Ductal Dysplasia via the Upregulation of Myc Expression in a DNA-Repair-Deficient Condition	共著	2020年2月	iScience (23巻2号)
(論文) 本学大学1年次生の英語学習に対する動機—国際教養学科と看護学科の比較を通して—	共著	2020年7月	同志社女子大学 総合文化研究所紀要(第37巻)
(論文) 学際的英語教育方法の実践的考察	単著	2021年7月	同志社女子大学 総合文化研究所紀要(第38巻)

2. 学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
（演題名） 骨リモデリングに及ぼす溶存水素の影響について	2021年9月	第62回日本組織細胞化学会総会・学術集会
（演題名） アポトーシス抵抗性を獲得したヒト乳癌細胞集団における浸潤能の解析	2021年10月	第71回日本薬学会関西支部大会
（演題名） 骨リモデリングに及ぼす溶存水素の影響について	2021年10月	第71回日本薬学会関西支部大会
Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）		
1994年～現在	Acta Histochem. Cytochem. 誌 編集委員	
2012年～現在	日本組織細胞化学会 評議員	

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
同志社女子大学	講座名 病態生理学	職名 特任教授(2号)	氏名 漆谷徹郎
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫			なし
2 作成した教科書、教材、参考書		2019年2月28日 2021年3月10日	「パートナー薬理学」南江堂、改訂第3版、消化器薬理学の章を担当 「医薬品安全性学」化学同人、改訂第9刷、全12章のうち、11章分を執筆
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項		2018年2月 2018年3月 2018年10月 2020年8月 2021年2月	「学生主体の英語劇上演への取り組み―「シェイクスピア・プロダクション」の歩みと現状―」出席 第23回FDフォーラム 「FDのこれまでと、これから～多様な角度からFDについて考える～」出席 2018年度FD講習会「高次の能力を捉えるための評価―パフォーマンス評価のデザイン―」出席 第15回アクティブ・ラーニング研究会「Face to Faceの教育／学びのSide by side」出席 第13回アクティブ・ラーニング研究会「同志社女子大学 ラーニング・コモンズ 想い、課題、そして期待」出席
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
Donepezil modulates amyloid precursor protein endocytosis and reduction by up-regulation of SNX33 expression in primary cortical neurons.	共著	2019年8月	Sci Rep. 15:9(1):11922.
Extraction of peroxisome proliferator-activated receptor α agonist-induced lipid metabolism-related and unrelated genes in rat liver and analysis of their genomic location	共著	2020年8月	J Toxicol Sci. 45 (8) 449-473
Peroxisome proliferator-activated receptor α agonist-induced histidine decarboxylase gene expression in the rat and mouse liver	共著	2020年8月	J Toxicol Sci. 45 (8) 475-492

Proton Pump Inhibitors Prevent Gastric Antral Ulcers Induced by NSAIDs via Activation of Capsaicin-Sensitive Afferent Nerves in Mice.	共著	2020年9月	Dig Dis Sci. 65 (9) : 2580-2594.
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
Pro-apoptotic protein p75-NTR associated cell death executor (NADE) expression in chemical carcinogenesis of the rat liver		2022年3月	日本薬理学会年会
The Anticonvulsant effect of flopropione does not involve catechol-O-methyl transferase (COMT) inhibition		2022年3月	日本薬理学会年会
インドメタシンによるマウス胃幽門前庭部潰瘍の形成に及ぼす拘束ストレスの影響：胃排出抑制作用の関与について		2022年2月	日本潰瘍学会
Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
なし			

[注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。

各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。

2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。

4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。

5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。

※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
同志社女子大学	講座名 生物薬剤学	職名 特任助教	氏名 羽森真美
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 なし			
2 作成した教科書、教材、参考書 なし			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 なし			
4 その他教育活動上特記すべき事項		2017. 10. 18 2018. 1. 24 2018. 10. 17 2019. 1. 23 2019. 10. 16 2020. 1. 22 2020. 8. 6 2021. 2. 17 2021. 9. 10	3つのポリシーと学習成果 薬学教育における技能と態度領域の学習 —実習科目における実践— 高次の能力を捉えるための評価 —パフォーマンス評価のデザイン— つくって・かたって・ふりかえる 授業の設計と学習環境デザイン 授業改善につなげるルーブリック評価の 意義と実践 アクティブ・ラーニングの必要性 ・その種類・可能性 Face to Faceの教育／学びのSide by side 同志社女子大学 ラーニング・コモンズ 想い、課題、そして期待 AI時代に求められる新しいリテラシー： 大学教育の再設計をめざして
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
(論文) Alterations in Cisplatin Pharmacokinetics and Its Acute/Sub-chronic Kidney Injury over Multiple Cycles of Cisplatin Treatment in Rats.	共著	2017年11月	Biol Pharm Bull. Vol. 40(11) pp. 1948-1955
(論文) Pharmacokinetic-Pharmacodynamic Analysis of Cisplatin with Hydration and Mannitol Diuresis: The Contribution of Urine Cisplatin Concentration to Nephrotoxicity.	共著	2018年4月	Eur. J. Drug Metab Pharmacokinet. Vol. 43(2) pp. 193-203

(論文) Population Pharmacokinetics of Vancomycin in Patients Undergoing Allogeneic Hematopoietic Stem-Cell Transplantation.	共著	2018年9月	J. Clin. Pharmacol. Vol. 58 (9) pp. 1140-1149
(Proceeding) Deciphering the Molecular Mechanism Underlying Oxidation Reactions of Zinc Finger Proteins Using H2O2.	共著	2021年3月	The Japanese Peptide Society p. p. 89-92
(Proceeding) Observation of the Aggregation Process of Oligoarginine and Calf Thymus DNA: Thermodynamic and Morphological Characteristics	共著	2021年3月	The Japanese Peptide Society p. p. 167-170
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
オリゴアルギニンカチオンクラスター鎖長がウシ胸腺DNAの凝集過程に及ぼす影響		2021年3月	日本薬学会年会141年会 (WEB開催)
金属置換型GAGA亜鉛フィンガータンパク質の構造・機能評価		2021年3月	第101回日本化学会春季年会 (WEB開催)
異なるオリゴアルギニン鎖長によるウシ胸腺DNA (CT DNA) の凝集体形成過程の比較		2021年3月	第101回日本化学会春季年会 (WEB開催)
PARP-1によるDNA修復初期過程におけるDNAに対するW589 残基の協同的分子間相互作用の重要性		2021年3月	第101回日本化学会春季年会 (WEB開催)
亜鉛フィンガータンパク質の過酸化水素による酸化反応メカニズムの解明		2021年5月	第67回 日本生化学会近畿支部例会 (WEB開催)
カチオンクラスター鎖長がウシ胸腺DNAの凝集過程に及ぼす影響		2021年5月	第67回 日本生化学会近畿支部例会 (WEB開催)
亜鉛フィンガータンパク質の過酸化水素による酸化反応メカニズムの解明		2021年6月	第47回生体分子科学討論会 (WEB開催)
PARP-1の自己 PAR化反応における協同的分子間相互作用の重要性		2021年9月	第15回バイオ関連化学シンポジウム (WEB開催)
細胞膜透過におけるフォールディング構造が形成する二次元カチオンクラスターの重要性		2021年9月	第15回バイオ関連化学シンポジウム (WEB開催)
PARP-1 の自己ポリADP リボシル化反応 : W589 残基のDNA 修復機構における協同的分子間相互作用の重要性		2021年10月	第71回 日本薬学会関西支部総会・大会
亜鉛フィンガータンパク質をテンプレートに用いたCX2CおよびCX4C配位モチーフの酸化反応メカニズムの解明		2021年10月	第71回 日本薬学会関西支部総会・大会
二次構造形成時に誘起される二次元カチオンクラスターの細胞膜透過における重要性		2021年10月	第71回 日本薬学会関西支部総会・大会

Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）	
2017～現在	日本薬学会会員
2020～現在	日本化学会会員

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は in press を含む。
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
同志社女子大学	講座名	病態分子制御学	職名特任助教 氏名 菅野陽介
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫			
生化学実習		2021年4月	解剖実習
臨床病態生化学		2021年7月	免疫疾患の治療法の概説
生化学実習		2020年4月	解剖実習
早期体験実習		2019年4月	解剖実習
早期体験実習		2018年4月	解剖実習
早期体験実習		2017年4月	解剖実習
2 作成した教科書、教材、参考書			
生化学実習 実習書		2021年4月	実習の説明及び課題
生化学実習 実習書		2020年4月	実習の説明及び課題
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 なし			
4 その他教育活動上特記すべき事項			
第13回アクティブ・ラーニング研究会 「同志社女子大学 ラーニング・コモンズ 想い、課題、そして期待」 同志 社女子大学教育開発支援センター オンライン開催		2021年2月	
第15回アクティブ・ラーニング研究会 「Face to Faceの 教育／学びのSide by side」 同志社女子大学教育開発支 援センター オンライン開催		2020年8月	
第12回アクティブ・ラーニング研究会 「アクティブ・ ラーニングの必要性・その種類・可能性」 同志社女子大 学教育開発支援センター		2020年1月	
2019年度FD講習会 「授業改善につなげるルーブリック評 価の意義と実践」 同志社女子大学教育開発支援センター		2019年10月	
第11回アクティブ・ラーニング研究会 「音楽によるアウ トリーチ」 初年度の取り組み 同志社女子大学教育開発支 援センター		2019年2月	
第10回アクティブ・ラーニング研究会 「つくって・か たって・ふりかえる」 授業の設計と学習環境デザイン 同 志社女子大学教育開発支援センター		2019年1月	
第9回アクティブ・ラーニング研究会 「学生主体の英語劇 上演への取り組み—「シェイクスピア・プロダクション」 の歩みと現状—」 同志社女子大学教育開発支援センター		2018年2月	
第8回アクティブ・ラーニング研究会 「薬学教育における 技能と態度領域の学習—実習科目における実践—」 同志 社女子大学教育開発支援センター		2018年1月	

II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
α 2-antiplasmin positively regulates endothelial-to-mesenchymal transition and fibrosis progression in diabetic nephropathy	共著	2021年10月	Molecular Biology Reports
α 2AP is associated with the development of lupus nephritis through the regulation of plasmin inhibition and inflammatory responses. Yosuke Kanno, Mei Miyashita, Mariko Seishima, Osamu Matsuo	共著	2020年9月	Immunity, inflammation and disease
Alternatively activated macrophages are associated with the α 2AP production that occurs with the development of dermal fibrosis : The role of alternatively activated macrophages on the development of fibrosis. Yosuke Kanno, En Shu, Hirofumi Niwa, Hiroyuki Kanoh, Mariko Seishima	共著	2020年4月	Arthritis research & therapy
"The Role of Fibrinolytic Regulators in Vascular Dysfunction of Systemic Sclerosis." Yosuke Kanno"□	単著	2019年1月	International journal of molecular sciences
α 2-antiplasmin modulates bone formation by negatively regulating osteoblast differentiation and function. Yosuke Kanno, Akira Ishisaki, Hiromi Kuretake, Chihiro Maruyama, Ayaka Matsuda, Osamu Matsuo	共著	2017年9月	International journal of molecular medicine
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
なし			
III 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
2007年～現在	日本生化学会		
2013年～現在	独立行政法人日本学術振興会審査委員候補者		
2015年～現在	Scientific Reports Editorial Board		
2015年～現在	日本研究皮膚科学会		
2016年～現在	日本リウマチ学会		
2021年～現在	日本薬学会		

[注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は in press を含む。

各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。

2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。

4 「II 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。

5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

※ 「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。

※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
同志社女子大学	講座名 薬物動態学	職名 特任助教	氏名 木村 峻輔
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 なし			
2 作成した教科書、教材、参考書 なし			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 なし			
4 その他教育活動上特記すべき事項 なし			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Novel strategy for improving the bioavailability of curcumin based on a new membrane transport mechanism that directly involves solid particles	共著	2018年1月	European Journal of Pharmaceutics and Biopharmaceutics, vol.122 No.1 1-5
(論文) Delivery of oxytocin to the brain for the treatment of autism spectrum disorder by nasal application	共著	2018年3月	Molecular Pharmaceutic, vol.15 No.3 1105-1111
(論文) Novel strategy for the systemic delivery of furosemide based on a new drug transport mechanism	共著	2018年12月	Biological and Pharmaceutical Bulletin, vol.41 No.12 1769-1777
(論文) Application of a microreactor to pharmaceutical manufacturing: Preparation of amorphous curcumin nanoparticles and controlling the crystallinity of curcumin nanoparticles by ultrasonic treatment.	共著	2020年1月	AAPS PharmSciTech, vol.21 No.1 17
(論文) Transnasal delivery of the peptide agonist specific to Neuromedin-U receptor2 to the brain for the treatment of obesity	共著	2020年1月	Molecular Pharmaceutic, vol.17 No.1 32-39
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) CKD-MBD 治療を目的とするアスパラギン酸-フェニルアラニンコポリペプチドミセルの開発		2021年5月	日本薬剤学会
(演題名) 新規膜透過機構を基盤とするシプロフロキサシン粉末吸入製剤の開発		2021年6月	日本DDS学会
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
なし			

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は in press を含む。
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
同志社女子大学	講座名 薬理学	職名 特任助教	氏名 間下 雅士
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 なし			
2 作成した教科書、教材、参考書 なし			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 なし			
4 その他教育活動上特記すべき事項 なし			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) PARP1 inhibition alleviates injury in ARH3-deficient mice and human cells	共著	2019年3月	JCI Insight 21:4(4):e124519
(論文) Distinct Roles of $\alpha 7$ nAChRs in Antigen-Presenting Cells and CD4(+) T Cells in the Regulation of T Cell Differentiation	共著	2019年6月	Front Immunol 31:10:1102
(論文) 15-Keto-PGE(2) acts as a biased/partial agonist to terminate PGE(2)-evoked signaling	共著	2020年7月	J Biol Chem 295(38):13338-13352
(論文) The 89-kDa PARP1 cleavage fragment serves as a cytoplasmic PAR carrier to induce AIF-mediated apoptosis	共著	2020年11月	J Biol Chem 296:100046
(論文) Regulation of Immune Functions by Non-Neuronal Acetylcholine (ACh) via Muscarinic and Nicotinic ACh Receptors	共著	2021年7月	Int J Mol Sci 24:22(13):6818
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
ポリ(ADP-リボース)分解酵素によるプログラム細胞死 parthanatosの制御機構の解明		2021年5月	第67回日本生化学会 近畿支部例会
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2019年4月-2021年3月		日本薬学会ファルマシアトピックス小委員	

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
同志社女子大学	講座名 創薬有機化学	職名 特任助教	氏名 松岡 純平
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 なし			
2 作成した教科書、教材、参考書 なし			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 なし			
4 その他教育活動上特記すべき事項 なし			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(著書) Total Synthesis of Indole Alkaloids: Based on Direct Construction of Pyrrolocarbazole Scaffolds via Gold-Catalyzed Cascade Cyclizations (Springer Theses)	単著	2020年9月	Springer nature
(論文) Total Synthesis of Dictyodendrins by the Gold-Catalyzed Cascade Cyclization of Conjugated Dienes with Pyrroles.	共著	2017年6月	Angew. Chem. Int. Ed. 56(26) 7444-7448. (2017)
(論文) Construction of the pyrrolo[2,3-d]carbazole core of spiroindoline alkaloids by gold-catalyzed cascade cyclization of ynamide.	共著	2019年6月	J. Org. Chem. 84(14) 9358-9363. (2019)
(論文) Total Synthesis of Dictyodendrins A-F by the Gold-Catalyzed Cascade Cyclization of Conjugated Diene with Pyrrole.	共著	2020年7月	Chem. Eur. J. 26(49) 11150-11157. (2020)
(論文) Azido-Alkynes in Gold(I)-Catalyzed Indole Syntheses.	共著	2021年	Chem. Rec., in press.
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
ホスファゼン塩基を用いたイソインドリン類およびフタラン類の骨格構築と aristocularineの全合成		2021年10月	第47回反応と合成の進歩シンポジウム
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2013-現在	日本薬学会会員		

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
同志社女子大学	講座名 創薬有機化学	職名 特任助教	氏名 宮脇あかり
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫			なし
2 作成した教科書、教材、参考書			なし
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項			なし
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Stereoselective Synthesis of Diastereomeric Berberine Alkaloids, O-Methylcorytenchirine and Coralydine.	共著	2021年1月	Heterocycles, Vol.103, 817-826.
(論文) Asymmetric total synthesis of (-)-javaberine A and (-)-epi-javaberine A based on catalytic intramolecular hydroamination of N-methyl-2-(2-styrylaryl)ethylamine.	共著	2021年6月	Tetrahedron, Vol.90, 132165.
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
なし			
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
なし			

- [注] 1 対象期限: 評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください(年度ごとに代表的なもの2件まで)。
- 4 「II 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
同志社女子大学	講座名 病態生理学研究室	職名 特任助教	氏名 水川 裕美子
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫		2017-2021年	「薬理学実習」と「薬理学特論」のそれぞれ一部を担当しており、いずれもアンケートによる授業評価を受けている。「薬理学実習」では予習用動画と予習用課題により実習内容の理解向上を図っている(2020年度は実験自体を動画視聴で代行したため予習用動画はなし)。
2 作成した教科書、教材、参考書		2017-2021年 2021年	本学の薬理学実習用のビデオ教材 本学の薬理学実習書の一部(「2. 痛覚に影響を及ぼす薬物」)の改訂、
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項			なし
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Extraction of peroxisome proliferator-activated receptor α agonist-induced lipid metabolism-related and unrelated genes in rat liver and analysis of their genomic location.	共著	2020年8月	The Journal of toxicological sciences Vol. 45 No. 8 449-473
(論文) proliferator-activated receptor α agonist-induced histidine decarboxylase gene expression in the rat and mouse liver.	共著	2020年8月	The Journal of toxicological sciences Vol. 45 No. 8 475-492
(論文) Donepezil modulates amyloid precursor protein endocytosis and reduction by up-regulation of SNX33 expression in primary cortical neurons.	共著	2019年8月	Scientific reports (2019) 9:11922
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
なし			
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2009年～現在	日本薬学会薬理系薬学部会 若手世話人		

- [注] 1 対象期限: 評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください(年度ごとに代表的なもの2件まで)。
- 4 「II 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
同志社女子大学	講座名 生物薬剤学研究室	職名 特別任用助教	氏名 西村亜佐子
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫	2019年4月～ 2020年4月～ 2021年4月～	調剤学1において、基礎科目が薬剤師の仕事にどう活かされるかという視点で講義を進めるよう工夫した。 臨床薬学概論において、ヘルスコミュニケーションや医療情報の伝え方やその難しさについて、考えるきっかけを提供した。 臨床薬学概論において、女性のライフステージや健康を考えた上でライフプランを考える機会を設け、学習へのモチベーションアップを測った。	
2 作成した教科書、教材、参考書	2020年4月～	薬剤学実習において、実習書を作成するとともに操作説明を行う動画を作成した。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 なし			
4 その他教育活動上特記すべき事項 なし			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文)「Population Semiphysiologic Kinetic Modeling and Simulation of Plasma Triglyceride Levels After Soybean Oil-Based Intravenous Lipid Emulsion Administration in Rats.」	共著	2017年11月	Wiley、『JPEN J Parenter Enteral Nutr.』Vol. 41(8) pp. 1356-1365
(論文)「Alterations in Cisplatin Pharmacokinetics and Its Acute/Sub-chronic Kidney Injury over Multiple Cycles of Cisplatin Treatment in Rats.」The Pharmaceutical	共著	2017年11月	The Pharmaceutical Society of Japan、『Biol Pharm Bull.』Vol. 40(11) pp. 1948-1955
(論文)「Pharmacokinetic-Pharmacodynamic Analysis of Cisplatin with Hydration and Mannitol Diuresis: The Contribution of Urine Cisplatin Concentration to Nephrotoxicity.」	共著	2018年4月	Springer、『Eur J Drug Metab Pharmacokinet.』Vol. 43(2) pp. 193-203
(論文)「Population Pharmacokinetics of Vancomycin in Patients Undergoing Allogeneic Hematopoietic Stem-Cell Transplantation.」	共著	2018年9月	Wiley、『J Clin Pharmacol.』Vol. 58(9) pp. 1140-1149
(論文)「血糖モニタシステムFreeStyleリブレによるアレルギー性接触皮膚炎」	共著	2019年9月	日本皮膚科学会、『日本皮膚科学会雑誌』Vol. 29(9) pp. 1936

2. 学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
（演題名）これからの薬学教育において薬剤師のキャリアパス構築に期待すること	2021年10月	日本医療薬学会
（演題名）薬学部で” Sexual reproductive health and rights (SRHR) “をどう教えるか。	2021年10月	日本医療薬学会
Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）		
2003年度～現在	日本薬学会	
2020年度～現在	日本医療薬学会	
2020年度～現在	女性医学学会	
2021年度～現在	日本薬学教育学会	

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
同志社女子大学	講座名 衛生化学	職名 特任助教	氏名 眞田 法子
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫		2017-2021	2017-2021年度の衛生薬学実習、ゲノム創薬特論の一部、2021年度の食品衛生化学の一部を担当しており、いずれも授業アンケートによる評価を受けている。
2 作成した教科書、教材、参考書		2017-2021	本学の衛生薬学実習書（2017年度版-2021年度版）の一部
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 なし			
4 その他教育活動上特記すべき事項			
薬学教育者ワークショップ タスクフォース参加		2018年9月 2019年9月	第93回認定実務実習指導薬剤師養成のための ワークショップ in 近畿 第99回認定実務実習指導薬剤師養成のための ワークショップ in 近畿
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
（論文）Aryl hydrocarbon receptor counteracts pharmacological efficacy of doxorubicin via enhanced AKR1C3 expression in triple negative breast cancer cells.	共著	2019年8月	Biochem Biophys Res Commun. 516(3):693-698.
（論文）An androgen-independent mechanism underlying the androgenic effects of 3-methylcholanthrene, a potent aryl hydrocarbon receptor agonist.	共著	2020年5月	Toxicol Res. 9(3):271-282.
（論文）Polycyclic aromatic hydrocarbons induce CYP3A5 gene expression via aryl hydrocarbon receptor in HepG2 cells.	共著	2021年1月	J Toxicol Sci. 46(1):25-29.
（論文）The 89-kDa PARP1 cleavage fragment serves as a cytoplasmic PAR carrier to induce AIF-mediated apoptosis.	共著	2021年1月	J Biol Chem. 296:100046.
（論文）Activation of the aryl hydrocarbon receptor by 3-methylcholanthrene, but not by indirubin, suppresses mammosphere formation via downregulation of CDC20 expression in breast cancer cells.	共著	2021年9月	Biochem Biophys Res Commun. 570:131-136.
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
（演題名）アリル炭化水素受容体アゴニストによる乳がん腫瘍様塊の形成抑制作用の相違		2021年9月	フォーラム2021衛生薬学・環境トキシコロジー
III 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
2004年～現在	日本薬学会会員		

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
同志社女子大学	講座名 病態分子制御学	職名 特任助教	氏名 高鳥 悠記
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫		2007年5月～2019年6月 2011年6月～2019年7月、2016年11月～2019年11月	同志社女子大学薬学部で開講した「薬理学実習」でマウスを扱う行動薬理学分野を担当し、学生が実習前に学内専用ホームページVivi Linkで予習用の動画を視聴してくるにより、知識の定着と実験技術を向上させた。実習中は、初めてマウスを扱う学生が大半数なので、数人程度の小グループに分けて懇切丁寧に指導することにより、行動実験手法を身につけさせた。実験後は、予習してきた薬物の作用機序から、マウスの行動の変化の考察をスモールグループディスカッションにより深め、最終的にグループ毎に発表させることで、プレゼンテーションスキルを向上させた。 同志社女子大学薬学部で開講した「薬理学特論」および京都大学薬学部で開講した「薬理学3」において、学生が講義に集中するようにパワーポイントを利用して図や表を活用する形式をとり、さらにビデオ学習による映像視覚効果を取り入れた。また、小テストにより理解度を確認するとともに、コミュニケーションペーパーを用いて授業の感想や要望を聴取し、次回の授業改善に活かした。
2 作成した教科書、教材、参考書			
なし			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		2018年8月	日本薬学会薬理系薬学部会奨励賞を受賞したことを記念し、生体機能と創薬シンポジウム2018において、「新たな作用点を有するアルツハイマー病治療薬および予防薬の開発に向けた基礎研究」を講演した。
4 その他教育活動上特記すべき事項		2017年8月	日本薬学会薬理系薬学部会主催の「次世代を担う創薬・医療薬理シンポジウム2017」を、若手世話人の実行委員として運営、開催した。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称		単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)
(著書)「Nicotinic acetylcholine receptor signaling in neuroprotection」		共著	2018年4月
(論文)「Donepezil modulates amyloid precursor protein endocytosis and reduction by up-regulation of SNX33 expression in primary cortical neurons.」		共著	2019年8月
(論文)「Effects of 2'-3'-dihydroxy-4',6'-dimethoxychalcone derived from green perilla on auricle thickness in chronic contact dermatitis model mice.」		共著	2019年9月
(論文)「Protective effects of 2',3'-dihydroxy-4',6'-dimethoxychalcone derived from green perilla leaves against UV radiation-induced cell injury in human cultured keratinocytes.」		共著	2019年11月
(論文)「Donepezil Reduces Amyloid Precursor Protein Endocytosis by Resulting from Increase in the Expression of Sorting Nexin Protein 33」		共著	2021年6月
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名)「Anti-inflammatory mechanism of Nrf2-ARE activator in chronic contact hypersensitivity model mice」		2021年3月	第94回日本薬理学会年会

Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）	
2009年4月～現在	日本薬理学会学術評議員
2013年6月～現在	日本薬学会薬理系薬学部会若手世話人
2018年11月～現在	日本神経精神薬理学会評議員

- [注] 1 対象期限：**評価対象年度を含む直近5年間**の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（**年度ごとに代表的なもの2件まで**）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、**5つ**を記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、**就任年月日順**に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
同志社女子大学	講座名 衛生化学	職名特任助教	氏名 山下 直哉
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫		2019-2021年	2019-2021年度「衛生薬学実習」、2021年度「公衆衛生学」および「食品衛生学」のそれぞれ一部担当しており、いずれもアンケートによる授業評価を受けている。
2 作成した教科書、教材、参考書		2019-2021年	衛生薬学実習の実習テキストの改定や公衆衛生学および食品衛生学の講義資料の一部を作成した。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項			なし
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(著書) Heregulin-induced cell migration is promoted by aryl hydrocarbon receptor in HER2-overexpressing breast cancer cells.	単著	2018年5月	Experimental cell research Vol. 366 34-40
(著書) Aryl hydrocarbon receptor counteracts pharmacological efficacy of doxorubicin via enhanced AKR1C3 expression in triple negative breast cancer cells	共著	2019年8月	Biochemical and Biophysical Research Communications Vol. 516 693-698
(著書) Polycyclic aromatic hydrocarbons induce CYP3A5 gene expression via aryl hydrocarbon receptor in HepG2 cells	単著	2021年1月	The Journal of toxicological sciences, Vol. 46 25-29.
(論文) Camalexin, an indole phytoalexin, inhibits cell proliferation, migration, and mammosphere formation in breast cancer cells via the aryl hydrocarbon receptor	単著	2021年8月	Journal of Natural Medicines, in press
(論文) Activation of the aryl hydrocarbon receptor by 3-methylcholanthrene, but not by indirubin, suppresses mammosphere formation via downregulation of CDC20 expression in breast cancer cells	共著	2021年9月	Biochemical and Biophysical Research Communications Vol. 570 131-136
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) アリル炭化水素受容体アゴニストによる乳がん腫瘍様塊の形成抑制作用の相違		2021年9月	フォーラム2021 衛生薬学・環境トキシコロジー
(演題名) Aryl hydrocarbon receptor agonists inhibit EGFR/HER4 signaling in breast cancer cells		2021年10月	第80回日本癌学会学術総会
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2014年3月～現在	日本薬学会会員		
2018年9月～現在	日本癌学会会員		

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
同志社女子大学	講座名 薬物動態学研究室	職名 特任助教	氏名 山下 修吾
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 実験実習における手技レクチャー動画の活用		2021年4月	学生の実験理解度のばらつきに起因する実験の不成立、ならびに実習レポートの質の低下を是正するため、重要な手技に関するレクチャー動画を作製した。すなわち、言葉で伝わらない細かな手技を視覚的な情報にて補完することで、学生の実験理解度の底上げ及び手技に対する不安を取り除いた。その結果、学生が実習の目的に着目する機会が増え、円滑な実習の運営に繋がった。
2 作成した教科書、教材、参考書			
2020 年度 薬剤学実習書		2020年4月	2020年度 薬剤学実習 薬物動態学領域に関して加筆・修正した。
2020 年度 薬剤学実習 実習講義動画		2020年4月	2020年度 薬剤学実習 薬物動態学領域のオンデマンド用実習講義動画を作製した。
2021 年度 薬剤学実習書		2021年4月	2021年度 薬剤学実習 薬物動態学領域に関して加筆・修正した。
2021 年度 薬剤学実習 実験手技解説動画		2021年4月	2021年度 薬剤学実習 薬物動態学領域の実験手技レクチャー動画を作製した。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等なし			
4 その他教育活動上特記すべき事項			
2019年度FD講習会「授業改善につなげるルーブリック評価の意義と実践」		2019年10月	左記講習会に参加・聴講した。
第12回アクティブ・ラーニング研究会「アクティブ・ラーニングの必要性・その種類・可能性」		2020年1月	左記講習会に参加・聴講した。
第14回アクティブ・ラーニング研究会「Webexとインターネットを利用した遠隔授業の可能性」		2020年6月	左記講習会に参加・聴講した。
2020年度FD講習会「遠隔授業における著作権について」		2020年7月	左記講習会に参加・聴講した。
第15回アクティブ・ラーニング研究会「Face to Faceの教育／学びのSide by side」		2020年8月	左記講習会に参加・聴講した。
第13回アクティブ・ラーニング研究会「同志社女子大学 ラーニング・コモンズ 想い、課題、そして期待」		2021年2月	左記講習会に参加・聴講した。

II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Development of PEGylated carboxylic acid-modified polyamidoamine dendrimers as bone-targeting carriers for the treatment of bone diseases (査読あり)	共著	2017年9月	Journal of Controlled release Vol. 262 pp. 10-17
(論文) Development of PEGylated aspartic acid-modified liposome as a bone-targeting carrier for the delivery of paclitaxel and treatment of bone metastasis (査読あり)	共著	2018年2月	Biomaterials Vol. 154 pp. 74-85
(論文) Modulation of Intestinal Transport and Absorption of Topotecan, a BCRP Substrate, by Various Pharmaceutical Excipients and Their Inhibitory Mechanisms of BCRP Transporter (査読あり)	共著	2019年5月	Journal of Pharmaceutical Science Vol. 108, No. 3 pp. 1315-1325
(論文) Bone-Targeted Drug Delivery Systems and Strategies for Treatment of Bone Metastasis (査読あり)	共著	2020年7月	Chemical and Pharmaceutical Bulletins Vol. 68, No. 7 pp. 560-566
(論文) Dendrimer-based micelles with highly potent targeting to sites of active bone turnover for the treatment of bone metastasis (査読あり)	共著	2020年12月	European Journal of Pharmaceutics and Biopharmaceutics Vol. 157, pp. 85-96
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
慢性腎臓病に伴う骨ミネラル代謝異常治療を目的とした温熱感受性骨ターゲティング型ミセルの開発		2021年5月	日本薬剤学会第36年会
新規膜透過機構を基盤とするシプロフロキサシン粉末吸入製剤の開発		2021年6月	第37回日本DDS学会 学術集会
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2013年5月～現在	日本薬剤学会会員		
2013年7月～現在	日本DDS学会会員		
2015年3月～現在	日本薬学会会員		
2017年10月～現在	日本薬物動態学会会員		

[注] 1 対象期限: 評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。

2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください(年度ごとに代表的なもの2件まで)。

4 「II 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。

5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

※ 「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。

※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
同志社女子大学	講座名 生化学	職名 特任助教	氏名 安川淳一郎
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 なし			
2 作成した教科書、教材、参考書 なし			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 なし			
4 その他教育活動上特記すべき事項 なし			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
（論文）Serum apolipoprotein A-I potentiates the therapeutic efficacy of lysocin E against <i>Staphylococcus aureus</i>	共著	2021年11月	Nature Communications volume 12, Article number: 6364
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
なし			
III 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
2017年～現在	日本生化学会会員		

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「II 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
同志社女子大学	講座名 医薬品製造化学	職名 特任助教	氏名 八塚 研治
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫			なし
2 作成した教科書、教材、参考書			なし
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項			なし
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Method for imaging live-cell RNA using an RNA aptamer and a fluorescent probe	共著	2018年1月	Methods Mol. Biol., 1649, 305-318.
(論文) Live-cell imaging of multiple endogenous mRNAs permits the direct observation of RNA granule dynamics	共著	2018年6月	Chem. Commun., 54 (52), 7151-7154.
(論文) RNA-based cooperative protein labeling that permits direct monitoring of the intracellular concentration change of an endogenous protein	共著	2021年9月	Nucleic Acids Res., 49 (22), e132.
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) 新規キラルリチウムアミドによるラセミ体カルボン酸の速度論的光学分割		2021年10月	第47回反応と合成の進歩シンポジウム
(演題名) キラルリチウムアミドを利用したカルボン酸エノラートの不斉Wittig転位		2021年10月	第71回日本薬学会関西支部総会・大会
(演題名) キラル相関移動触媒を用いたトロパ酸β-ラク톤の不斉加水分解		2021年10月	第71回日本薬学会関西支部総会・大会
(演題名) キラルリチウムアミドによるα-アリルオキシカルボン酸の不斉[2,3]-Wittig転位		2022年3月	日本薬学会第142年会
(演題名) キラル相関移動触媒によるトロパ酸β-ラク톤の非酵素的な不斉加水分解		2022年3月	日本薬学会第142年会
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2008年3月-	日本薬学会(医薬化学部会) 会員		
2014年3月-	有機合成化学協会 会員		
2016年4月-	日本ケミカルバイオロジー学会 会員		

- [注] 1 対象期限: 評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください(年度ごとに代表的なもの2件まで)。
- 4 「II 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料10) 学生の健康管理

表1. 評価対象年度の定期健康診断受診率

学年	在学者数	受診者数	受診率(%)
1年	123	122	99.19
2年	124	0	
3年	128	0	
4年	124	0	
5年	121	120	99.17
6年	123	116	94.31
備考	2021年度はコロナウイルス感染拡大防止のため2～4年次生は実施せず		

表2. 評価対象年度の5年生の実務実習前の抗体検査の実施状況

検査対象抗体	抗体価が十分高かった 学生数	抗体価が不十分なためワ クチン接種をした学生数 ¹⁾
風疹	62	58
麻疹	66	54
水痘	106	14
ムンプス	68	52
B型肝炎	1	119

[注] 1) 4年次12月末までに、ワクチン接種した学生数（確認できた人数）を記入してください。

確認できない場合は、左欄のみ記入してください。

(基礎資料11-1) 薬学科の教育に使用する施設の状況

施設 ¹⁾		座席数	室数	収容人員合計	備考
講義室・演習室 ²⁾	大講義室	150~300	10	1910	全学共用（薬学部専用施設ではない）
	中講義室	120~150	7	946	全学共用（薬学部専用施設ではない）
	情報処理教室	30~56	6	254	全学共用（薬学部専用施設ではない）CBTにも使用
	多目的臨床教育演習室	144	1	144	薬物治療学実習、模擬病院・薬局実習で使用
	セミナールーム	72	1	72	課外学習で使用
実習室	第1実習室	144	1	144	医薬品分析化学実習、薬剤学実習で使用
	第2実習室	144	1	144	有機化学実習、衛生薬学実習、生薬学実習で使用
	第3実習室	144	1	144	生化学実習、薬理学実習、微生物学実習、生命物理化学実習で使用
	模擬薬局	—	1	—	
	模擬病室	—	1	—	
	フィジカルサポートセンター	—	1	—	看護学部と共用
自習室等 ³⁾	スタディールーム	74	1	74	自習スペースは図書館にもあり（基礎資料12）
	ラウンジ（解放スペース）	50	1	50	WiFi設備あり
薬用植物園	① 設置場所：京田辺キャンパス ② 施設の構成と規模：総面積約1000㎡、園場面積約700㎡、温室約50㎡、管理棟約100㎡ ③ 栽培している植物種の数：約200種 ④ その他の特記事項：薬用植物園運営委員会による管理の下、日常の運営は外部に委託している				

[注] 1) 総合大学では薬学科の教育で使用している講義室、演習室、実習室などを対象にしてください。

2) 講義室・演習室には収容人数による適当な区分を、例示を参考に設けて、同じ区分での座席数の範囲を示してください。
また、固定席か可変席か、その他特記すべき施設なども、例示を参考にし備考欄に記入してください。
コンピューター演習室の座席数は学生が使用する端末数としてください（教卓にあるものを除く）。

3) 学生が自習などの目的で自由に利用できる開放スペースがあれば記載してください。

(基礎資料11-2) 卒業研究などに使用する施設

表1. 講座・研究室の施設

施設名 ^{1), 2)}	面積 ³⁾	収容人員 ⁴⁾	室数 ⁵⁾	備 考
教員個室 (教授室など)	22 m ²	1人	25	個室は教授・准教授のみ、特任助教は実験・研究室にデスクがある
実験・研究室 (大)	140 m ²	24人	15	15研究室の実験・研究室
研究室 (小)	25 m ²	12人	3	臨床薬学教育研究センター研究室の実験・研究室
セミナー室	25 m ²	12人	1	臨床薬学教育研究センター共同使用
	m ²	人		

- 1) 単独の講座・研究室などが占有する卒業研究で使用する学生用研究室は、(基礎資料11-1)と重複してかまいません。
- 2) 複数の講座・研究室が(隣接する2~3講座で共用で)占有する施設があれば、記載してください。
実験室・研究室に広さが異なるものがある場合は、「大・小」、「大・中・小」のように大まかに区分してください。
- 3) 同じ区分の部屋で面積に若干の違いがある場合、面積には平均値を記入してください。
- 4) 1室当たりの収容人数を記入してください。同じ区分の部屋で若干の違いがある場合は平均値を記入してください。
- 5) 薬学科の卒業研究を担当する講座・研究室が占有する部屋の合計数を記入してください。(ひとつの講座・研究室当たりの数ではありません。)

表2. 学部で共用する実験施設

施設の区分 ^{1), 2)}	室数	施設の内容
NMR室	1	NMR2台設置
共同機器室	6	共同機器室 (大) 1室、共同機器室 (小) 5室
共同実験室	1	
実験動物施設	7	飼育室 (5室)、実験室 (1室)、洗浄室 (1室)

- 1) 実験動物施設、NMR室など、例示を参考に、大まかな用途による区分を設け、各区分に含まれる室数と施設の内容を例示のように列記してください。
(面積などは不要です。)
- 2) 例示以外の実験施設(例えば、培養室など)があれば追加してください。

(基礎資料12) 学生閲覧室等の規模

図書室(館)の名称	学生閲覧室 座席数(A)	学生収容 定員数(B) ¹⁾	収容定員に対する 座席数の割合(%) $A/B * 100$	その他の 自習室の名称	その他の 自習室の座席数	その他の 自習室の整備状況 ²⁾	備考 ³⁾
今出川図書館	238	2,046	11.6	(今出川キャンパス) 楽真館ラーニング・コ モンズ	211	デスクトップPC 38台 貸出用PC 46台	表象文化学部：英語英文学科(590) 日本語日本文学科(480) 生活科学部：人間生活学科(340) 食物栄養科学科(550) 文学研究科：英語英文学専攻博士課程(前期)(16)(後期)(12) 日本語日本文 専攻博士課程(前期)(20)(後期)(12) 生活科学研究科：生活デザイン専攻修士課程(10) 食物栄養科学専攻修士課程 (16)
京田辺図書館	332	4,054	8.2	(京田辺キャンパス) ・聡恵館ラーニング・コ モンズ ・憩水館W509aスタ ディー	355 74	デスクトップPC 28台 貸出用PC 67台	学芸学部：音楽学科(460)メディア創造学科(490)国際教養学科(330) 現代社会学部：社会システム学科(1220)現代子ども学科(400) 薬学部：医療薬学科(730) 看護学部：看護学科(340) 文学研究科：情報文化専攻修士課程(10) 国際社会システム研究科：国際社会システム専攻修士課程(20) 薬学研究科：医療薬学専攻博士課程(16) 看護学研究科：看護学専攻博士課程(前期)(12)(後期)(6) 音楽専攻科：(20)
計	570	6,100	9.3		640	179	

- 1) 「学生収容定員数(B)」欄には、当該施設を利用している全ての学部・大学院学生等を合計した学生収容定員数を記入してください。
- 2) 「その他の自習室の整備状況」欄には情報処理端末をいくつ設置しているか等を記載してください。
- 3) 「備考」欄には「学生収容定員(B)」の内訳を、学部・大学院等ごとに記入してください。
- 4) 例示の中央図書館は、薬学部の利用がなければ(キャンパスが異なるなど)、右の欄を空欄にしてください。

(基礎資料13) 図書、資料の所蔵数および受け入れ状況

図書館の名称	図書の冊数		定期刊行物の種類		視聴覚資料の 所蔵数 (点数) ²⁾	電子ジャー ナルのタイ トル数 ³⁾	過去3年間の図書受け入れ状況			備 考
	図書の全冊数	開架図書の 冊数(内) ¹⁾	内国書	外国書			2018年度	2019年度	2020年度	
今出川図書館	194,154	182,136	426	117	8,706				※電子ジャーナルは京田 辺図書館にまとめて計上	
京田辺図書館	366,600	167,720	6,066	1,442	27,235	1,113	5,167	5,309	6,217	
計	560,754	349,856	6,492	1,559	35,941	1,113	7,381	9,209	8,975	

[注] 雑誌等ですでに製本済みのものは図書の冊数に加えても結構です。

- 1) 開架図書の冊数(内)は、図書の全冊数のうち何冊かを記入してください。
- 2) 視聴覚資料には、マイクロフィルム、マイクロフィッシュ、カセットテープ、ビデオテープ、CD・LD・DVD、スライド、映画フィルム、CD-ROM等を含め、所蔵数については、タイトル数を記載してください。
- 3) 電子ジャーナルが中央図書館で集中管理されている場合は、中央図書館にのみ数値を記入し、備考欄にその旨を注記してください。